

吸氣咳嗽等皆之ヲ増劇ス壓點痛ハ胸骨ニ於ケル前點。棘狀突起ノ側方ニ於ケル後點、其中間(中腋窩線)ニ於ケル側點ナリ

療法 其原因療法ヲ勉ムベシ例ヘバ貧血ニハ鐵劑、微毒ニハ沃剝及汞劑、又ハサルバルサン注射麻拉里亞ニハ鹽規、肋骨及椎骨疾患ニハ外科療法ヲ用キ其他對症的ニシテ輕症ニハ先ツ安息靜止ヲ命ジ冷却療法或ハ温熱療法ヲ行ヒ重症ニハ芥子泥ヲ貼シ又「モルヒチ」ノ皮下注射電氣療法(消極ヲ脊椎上ニ積極ヲ神經ニ沿フテ)等ヲ施スコトアリ

右調和塗擦料

- サリメントール
 - ヒヨスチヤムス油
 - クロ、ホルム
 - フエラトリ子
 - 鹽莫
 - 緩和軟膏
 - 右調和塗擦料
 - 水製阿片越
- 各一〇・〇
各一〇・一
一〇・〇
二・〇

撒曹

- 單會
 - 縮水
- 二〇・〇
一八〇・〇

- アンチピリン
 - 右三日六回二日分服
- 一・五

- 右三包ニ分チ一日三回一包宛
 - ヨードワゾーゲン(六%)
- 一〇〇・〇

右塗擦料

- クロ、フオルム
 - ヒヨスチヤムス油
- 五・〇
二〇・〇

緩和軟膏

右調和塗擦料

- 鹽莫
 - 縮水
 - 右調和皮下注射料
- 一〇・〇
一〇・一
一〇・〇

エチール、クロリド

- (五・〇入硝子管)
- 右硝子管尖端ヲ破リ十乃至十五
- 仙迷ノ距離ヨリ壓痛點上ニ噴霧
- スベシ

間歇熱一名麻拉里亞

Malaria. Intermitens.

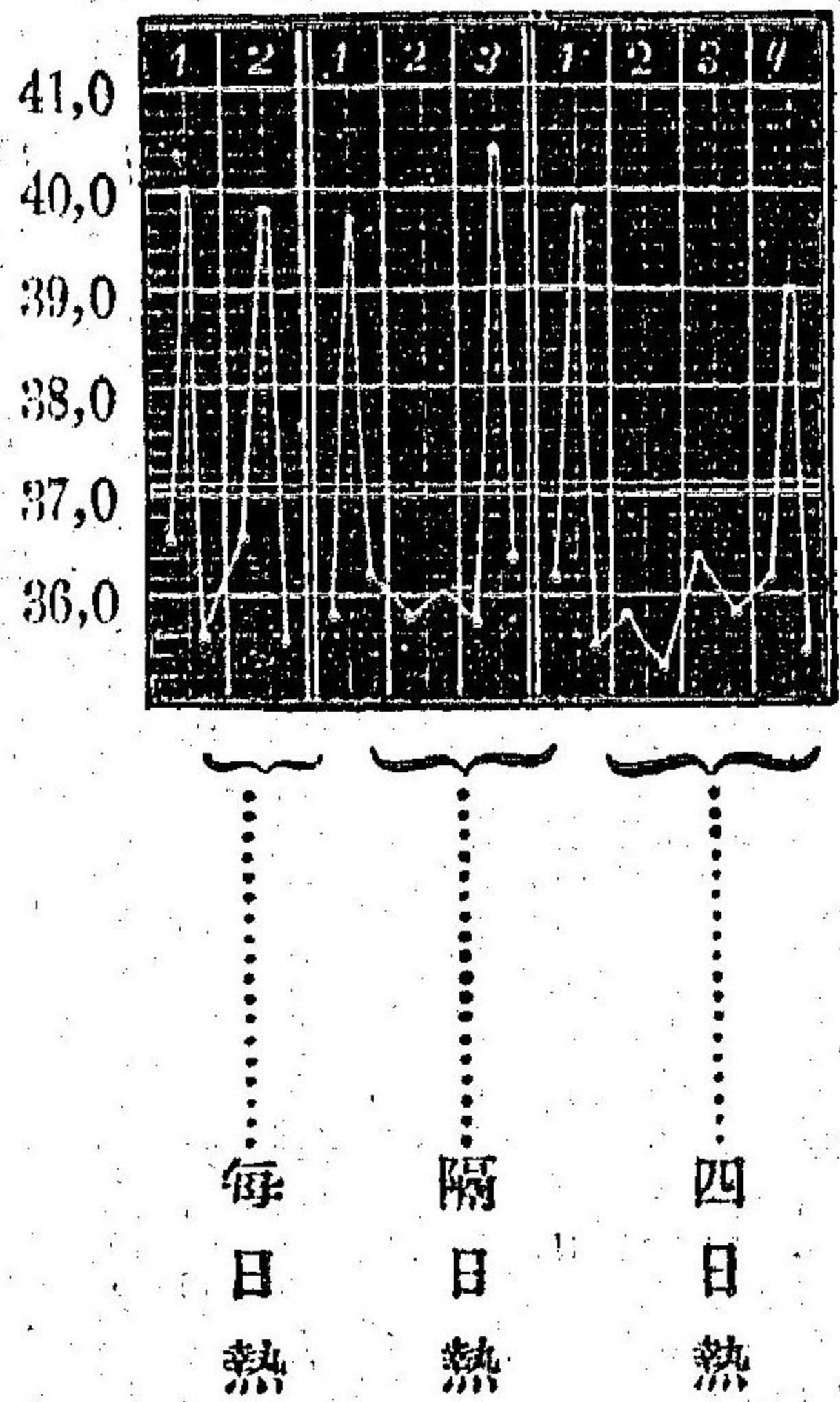
原因 一千八百八十二年ラウラエン氏及ビリヒルヤド氏ノ發見シタル「マ

ラリア」アブラスモージェント稱スル寄生物ニシテ血中ニ存在ス(彩色圖參照)該「アブラスモージェン」ハ如何ニシテ人體内ニ入ルカノ疑問ハコッホ氏ノ研究ニ由リテ蚊屬就中「アノフェレス」Anophelesノ蟻刺ヨリ傳染スルモノト解決セラレタリ本邦ニ於テハドクトル都築甚之助君理

學博士宮島幹之助君「アノフェレス」ヲ研究セラレタリ
診候 發作ハ一定ノ時間ニ發ス發作ヲ三期ニ區別ス惡寒期(三十分間或ハ其以上)ニ在テハ惡寒戰慄脈搏頻數(百乃至百二十)發熱期ニ在テハ灼熱頭痛眩暈大渴體温三十九度ヨリ進テ四十度或ハ其ノ以上ニ達ス其經過三乃至五時發汗期ニ在テハ發汗淋漓諸症消散ス尿ハ比重甚ダ高ク

間歇熱一名麻拉里亞

圖六十三第



多量ノ赤色沈渣アリ發作時ノ異ナルニ從ヒ毎日熱隔日熱、四日熱等ノ別アリ(第二十六圖)而シテ發作ノ持續時間ハ毎日熱ニハ六乃至十二時間隔日熱ニハ六時間四日熱ニハ四時間ヲ常トス○脾ハ必ズ腫大ス

豫後 良但シ惡性間歇熱或ハ弛張性麻拉里亞熱ト稱シ日本ニハナクシテ不健康ナル麻拉里亞地方殊ニ熱帶地方ニノミ見ルトコロノモノハ概子

不良

療法 惡寒期ニハ褥中ニ安臥セシメ温布摩擦法ニ依テ身體ヲ温メ又或ハ茶、湯等温ナル飲料ヲ與ヘ或ハ湯婆ヲ抱カシム可シ而シテ發熱期ニ至レバ忽チ反シテ冷卷法ヲ行ヒ清涼飲料ヲ與フ可シ其他發作間歇時ニハ主トシテ「キニーチ」或ハ「オイヒニン」(苦味ナシ)ヲ與フ可シ又惡液質トナレル者ニハ鐵劑轉地療法牛乳療法ヲ怠ル可ラス○豫防法ハ毎日キニーチ〇・二ヲ服用スベシ又蚊ノ襲來ヲ避クルコトヲ勉ムベシ〇メチーレン青ハ其効劣レリ

鹽規

一・〇乃至一・五
右發作前六時頓用(但シ翌日ヨリ一週間毎日〇・五ニ減量セルモノヲ用ユベシ)

硫規

一・〇乃至一・五
二・〇
右研和散五包ニ分チ(澱粉袋ニ入ル、ヲ良トス)發作前三時二時一時每一包

間歇熱一名麻拉里亞

若シ發作時ノ不明ナルトキハ朝晝夕三回一包或ハ發汗期ノ始メニ與フ可シ

鹽規

一・〇
適宜

龍膽越

右調和丸五粒ニ作り發汗一時間前頓用次回ヨリ〇・五ニ減量ス

鹽規

ハッツエリー氏ハ左ノ藥劑ヲ用ユ
一・〇

食鹽 〇・七五
餾水 一〇・〇

右攝氏三十七度ニ温メ上肢靜脈内ニ注入(虚脱ノ兆アルトキ用ユ)

ホーレル水 五・〇

右毎日三乃至四回五滴宛(間歇時ニ用ユ)

惡寒期ニ現ハル、虚脱ニハ左方ヲ處ス

エーテル 一〇・〇

樟腦 〇・二

右調和滴劑

小兒ノ間歇熱ニ在テハ左方ヲ賞用ス

タンニン酸キニーネ 各二・〇

白糖 各二・〇

右研和散六包ニ分チ三時一包乳汁ニ溶解シ用ユ(哺乳兒ニ用ユ)

硫酸 二・〇

白糖

右研和十包ニ分チ發作前每三包隔時ニ與フ時トシテ六包迄ヲ用ユルコトアリ

鹽規 〇・五

鹽規 一〇・〇

餾水 右半乃至一筒皮下注入料

鹽規 〇・五乃至一・〇

餾水 八〇・〇

右半量ヲ一回瀉腸料トス

濕爛

Intertrigo.

インテルトリゴ

間擦濕疹

原因及診候

發汗ノ久時浸潤摩擦ニ由テ起ル皮膚ノ剝脱發赤ナリ小兒ニ

ハ頸部、股間大人ニハ股間ニ發ス

療法 輕度ナル者ニハ撒布藥ヲ用キ又皮膚ノ剝脱シ且ツ潰瘍ヲ發シタル者ニハ先ヅ硼酸水ニテ其部ヲ洗滌シタル後軟膏ヲ貼用スベシ頑固ナル

トキハ三%硝酸銀水ヲ塗布ス

澱粉 五〇・〇

右撒布用

酸化亞鉛 五・〇

澱粉 五〇・〇

右調和撒布用

煨製マグネシア 五・〇

硅酸マグネシウム 二〇・〇

サリチール酸 〇・二

右調和撒布用

以上撒布藥ハ皮膚ノ剝脱ナキ者ニ用ユ

硼酸 二・〇

ラノリン 二〇・〇

右外用

ブロー氏液 二〇〇・〇

右塗法料

酸化亞鉛 五・〇

ワゼリン 五〇・〇

右調和軟膏ニ作ル

白降汞 各二・〇

酸化亞鉛 五〇・〇

ワゼリン 五〇・〇

右調和軟膏ニ作ル

サリチール酸 二・〇

ワゼリン 五〇・〇

酸化亞鉛 各二五・〇

澱粉 右調和軟泥ニ作ル

濕爛

紅彩炎

Iritis. イリチス

原因 外傷、微毒、淋疾、儂麻質斯、痛風、結核、癩病、月經不調、感冒、眼球他部ノ炎症波及等ナリ

診候 急性ハ疼痛殊ニ日晡後ノ劇痛、(疼痛ヲ缺クコトアリ)羞明、流淚、視力障害、角膜周擁充血、前房水ノ濁濁、虹彩ノ腫起變色、瞳孔縮小不正及不動、劇症ニハ發熱嘔吐、衰弱ヲ與フ微毒結核等ニアリテハ小腫瘍ノ發生、癒着等慢性症ハ諸症輕度ニシテ虹彩癒着硝子體濁濁等アリ視力ノ障害ノ加ハルニ由テ初メテ病アルヲ自覺スルコトアリ

豫後 微毒性、儂麻質斯性ノモノハ概テ良結核性癩病性ノモノハ不良其他原因ノ差違ニヨリテ一定セズ全經過年餘ニ至ルコト稀ナラズ

療法 原因ニ注意シテ微毒ニハ水銀塗擦療法ヲ施シ儂麻質斯性ノ者ニハ「サリチール」酸劑ヲ内用トス而シテ多クハ靜臥ヲ命ジ「アトロピン」ノ點眼暗室内ノ棲息、保護鏡ノ懸用等百般ニ注意シ殊ニ眼ノ使用ヲ禁シ便通ヲ利シ水蛭ヲ放ツ可シ其他劇痛ニハ熱卷法頑固ナル癒着ヲ離解スルニハ強キ瞳孔散大藥トシテ「ヒヨスシネ」ヲ用キ或ハ「エゼリン」ト「アトロピン」ヲ交互連用スルコトアリ

硫酸アトロピン 〇・〇一
鹽酸コカイン 〇・〇一

餽水

右一日數回點眼スベシ

硫酸アトロピン 〇・〇五乃至〇・一

餽水

右調和點眼料(瞳孔散大藥)

右調和點眼料トナシ其二滴ヲ

結膜囊中ニ點入スルナリ

然レトモ若シ「アトロピン」ノ刺戟ニ因テ結膜炎ヲ發シタルトキニハ其後用ヲ止ム可シ時トシテ「アトロピン」ノ中毒症狀ヲ發スルコトアリ但シ「アトロピン」ノ代用藥トシテ適當ナル者左ノ如シ

プローム酸スコボラミン

〇・〇五乃至〇・一

餽水

右點眼料

ツボイシン 〇・〇五
餽水 五・〇

餽水

右調和點眼料

劇甚ノ疼痛及羞明アルモノニハ「モルヒ子」ノ皮下注射ヲ行ヒ左方ヲ處ス

荳蔻越

一・五

水銀軟膏

右調和其量豌豆大ノ者ヲ取り前額及ビ額額部ニ塗擦ス

鹽酸コカイン

〇・二五

硫酸アトロピン

〇・〇三

餽水

右調和點眼料

鹽莫 各〇・〇五

硫酸アトロピン 一〇・〇

ヨード水素酸ヒヨスチーネ 〇・〇一

右調和點眼料

ヨード水素酸ヒヨスチーネ 〇・〇一

餾水

右點眼料(一滴宛、中毒ノ虞、ア
トロピン「ヨリ多シ」)

内服元進ヲ認ムレバ左方ヲ處ス

サリチール酸エゼリン

餾水

右調和點眼料(瞳孔收縮藥)

鹽酸ピロカルピン

餾水

右調和點眼料(瞳孔收縮藥)

微毒性ノ者ニハ水銀軟膏塗擦療法ヲ行

フネ劑注射或ハ内服(微毒ノ條ヲ參照)
價麻質斯性ノモノニハ左方ヲ處ス

撒曹

右澱粉囊五包ニナシ毎日一乃至

三包

硝子體溷濁ニ對シテハ食鹽水ヨザピン

水等ノ注射及ビ發汗療法等効アリ

ザオニン

ワゼリン

右爲軟膏一日二回點眼

坐骨神經痛

Ischias.

イシヤス

原因 腦ノ疾患(腫瘍、膿腫)、脊髓及脊椎ノ疾患(腫瘍、脊髓癆、微毒) 價麻質斯、麻拉里亞、微毒、淋疾、糖尿病、貧血、妊娠、卵巢腫瘍、子宮及其周圍炎症、膀胱疾病、直腸癌、ヒステリー、挫傷、感冒、過勞、痔疾、常習便秘、萎黃病、鉛汞中毒、アルコホル中毒等ナリ

診候 臀部ヨリ發シ大腿ノ後面ニ沿ヒ下方ニ電流シテ膝膕ニ至リ又タ外踝或ハ足背ニ達スル發作性ノ神經痛ナリ殊ニ夜間ニ増劇ス時ニ患脚ノ知覺過敏或ハ倦怠ヲ前驅スルコトアリ壓痛點ハ坐骨孔、大轉子、腓骨小頭、腓骨溝ノ部及ビ膝膕ニアリ

豫後 其原因ニヨリテ各異ニシテ數週乃至數年ノ經過ヲ有シ再發スルコト多シ

療法 第一其原病ニ注意シテ之レヲ療スベシ例ヘバ微毒ニハ驅微法、便秘ニハ下劑其他蒸氣浴温罨法又皮膚ノ局處刺戟法發泡膏ノ貼用灸點、或ハ「イヒチオール」塗擦或ハ按摩、電氣(平流電氣ニミリアムペール)毎日二回五分間宛)ヲ應用スルモ効有リ○不治ノ症ニ於テハ「モルヒ子」ノ皮下注射ヲ行フ又時トシテ「ヨード」ト共ニ「サリチール」酸ヲ用キルコトアリ○頑固ナル症ニハ手術ヲ行フベシ(神經展伸法)

アンチピリン

○・五

アスピリン

五・〇

右爲一包與三包一日三回一包宛

右分六包一日三回一包宛

フェナセチン

○・五

ピラミドン

○・三

右爲一包與五包一日三回一包宛

右爲一包與六包一日三回一包宛

坐骨神經痛

インドホルム錠 〇・五
 右毎日三回食後一個
 寶岩越 一・〇
 ラノリン 二〇・〇
 右外用
 ナボデルドック 各一〇・〇
 カンフルド 各一〇・〇
 右調和朝夕一回塗擦料
 ヨードワゾーゲン(六%) 一〇〇・〇
 右塗擦料
 フェーラトリーチ 〇・一
 ワゼリン 三〇・〇
 右塗擦料
 ヨード丁 二〇・〇
 右塗擦料
 ヨードカリウム 五・〇
 餾水 一八〇・〇

單舎 二〇・〇
 右調和一日三回二分服
 サリチール酸 五・〇
 右十包ニ分チ一乃至二時間每一
 包但「オプラート」ニ包ミ用ユ
 撒曹 一〇・〇
 右散十包ニ分チ一乃至二時間毎
 一包「オプラート」ニ包ミ用ユ
 ザリメントール 一〇・〇
 右毎日數回一五—三〇滴宛
 五十倍アンチピリン 一〇・〇
 右一箇皮下注射料
 硫酸アトロピン 〇・〇〇五
 硫莫 〇・〇〇五
 餾水 五・〇
 右一箇皮下注射料(發作劇甚ナ
 ルトキ)
 アンチピリン 二・五

橙皮舎 二五・〇
 餾水 二〇〇・〇
 右調和一日三回三日ニ分服
 再餾テレピンテ油 五・〇
 炭酸マグネシウム 適宜

右五十粒ニ作り朝夕毎五粒
 テレピンテ油 五・〇
 精製蜂蜜 三〇・〇
 右調和朝夕一茶匙

脚氣 Kakke. カッケ

原因 未詳ナリ或ハ一種ノ傳染病ニシテ固有ノ細菌ニ因ルモノトナシ或ハ青魚科ノ魚肉中毒トナシ或ハ營養ノ障害即チ食物中ノ含窒素物ト含炭素物ノ配合不適當ナルトニヨルモノトスルノ説アリ

診候 症候ノ異ナルニ從ヒ乾性脚氣、濕性脚氣(水腫性)及急性脚氣(衝心性)ノ三種ニ區別ス○乾性症ニ在テハ初メ足及下腿ニ知覺異常ヲ發シ次デ上腿下腹口唇等ニモ漸次知覺異常ヲ來ス而シテ腓腸部緊張壓痛アリ膝蓋腱反射概チ消失シ歩行困難トナリ心悸亢進脈搏頻數トナル○濕性脚氣ニ在テハ乾性症ノ諸症ニ兼ヌルニ浮腫ヲ以テスルモノナリ浮腫ハ初メハ足背下腿ノ前面ニ發シ遂ニ進ンデハ全身ニ及ブ○急性脚氣ニ在テハ心悸亢進等ノ諸症急ニ増劇シ脈搏頻數皮膚蒼白色ヲ呈シ呼吸

脚氣

困難苦悶惡心嘔吐等ヲ發シテ死ス
豫後 概テ良但シ衝心性ノモノハ不良

療法 初期諸症ノ増進セザル前ニ當テ速ニ高燥ノ地ニ轉地セシムベシ其
他ハ凡テ對症療法ニシテ便秘アルモノニハ下劑ヲ與ヘ心悸亢進ニハ樟
腦硝酸ストリキニーチ、ストロファンツスチヂギタリス浮腫ニハ利尿
劑嘔吐ニハ氷片コカイン等ヲ與ヘ急性重症脚氣ニハ瀉血法ヲ施シ皮膚
蒼白脈搏頻數ニハ樟腦赤葡萄酒痲痺症ニハ電氣或ハ硝酸ストリキニー
チノ皮下注射ヲ行ヒ恢復期ニハ強壯劑ヲ與フ

- 硫酸マグネシウム 二〇〇〇
- 稀鹽酸 一〇〇
- 餾水 二〇〇〇
- 右一日六回二分
- 人工カル、ス泉鹽 一五〇
- 右毎朝頓用(温湯ニ和シテ)
- 硫苦 一〇〇
- 純精酒石 一〇〇
- 苦丁 二〇
- 餾水 二〇〇〇
- 右一日六回二分
- 純精酒石 八〇
- 苦丁 二〇
- 餾水 二〇〇〇
- 右一日三回二分
- 純精酒石 八〇
- 薄荷油糖 二〇
- 右六包ニ分チ一日三回一包宛ニ

- 日分服
- 精製樟腦 〇〇二
- 白糖 〇〇五
- 右爲一包與六包一日三回乃至六回
- 同
- ヂキタリス浸 (二〇〇)二八〇〇
- 單會 二〇〇
- 右一日六回二分
- ヂキタリス浸 (二〇〇)一八〇〇
- 醋剝 四〇〇
- 單會 一五〇
- 右一日三回二分
- ヂキタリス浸 (二〇〇)一八〇〇
- 硝剝 四〇〇
- 單會 一五〇
- 右一日三回二分
- ストロファンツスチ 二〇

- 單會 二〇〇
- 餾水 一八〇〇
- 右一日五回二分
- 硝酸ストリキニーチ 〇〇一
- 餾水 二〇〇
- 右一日一回一筒左右ノ脚ヲ交換シテ皮下注射ス
- 樟腦 一〇〇
- オリーブ油 九〇
- 右皮下注射料每一時若シクハ二時間一筒
- 鹽酸ニコイシ 一〇〇
- 苦扁桃水 一〇〇
- 右一日數回十乃至十五滴宛(嘔吐)

頭血腫

Kephalematoma.

ケフアレマトマ

原因及診候 分娩時兒頭ガ骨盤内ヲ通過スル際鬆粗ニ附着セル骨膜ハ骨ヨリ剝離シ骨膜下ニ溢血スルニヨルモノ也必ズ一骨内ニ限ラレテ他ノ骨ノ上ニマデ移行セザルヲ以テ特徴トス波動アリ

療法 待期的ニシテ初メ一二日間ブロー氏液或ハ硼酸水ヲ用井テ頭部ニ冷卷法ヲ行フ可シ斯ノ如クセバ自然ニ消散スルモノナリ

角膜炎

Keratitis.

ケラチチス

原因 結膜炎、腺病、微毒、急性傳染病、外傷及他眼疾病等詳説スレバ水疱性角膜炎ハ腺病、麻疹、室扶斯ヨリシ○角膜ヘルプスハ熱性病ニ伴ヒ或ハ帶狀疱疹トシテ發シ○小水疱性及ビ大水疱性角膜炎ハ角膜瀰濁ニ續發シ○角膜バンヌスハ專ラトラホームニ續發シ○點狀角膜表層炎ハ幼年ニ多ク原因不明ナリ(以上角膜表層炎)○角膜實質炎ハ概テ先天微毒ニ因シ六年以上二十年ノ間ニ多シ○硬化性角膜炎ハ儂麻質斯、營養不良ニ發スル上鞏膜炎ニ續發シ○帶狀角膜炎ハ虹彩脈絡膜炎ハ綠内

障性失明眼ニ來リ○外傷性線狀角膜炎ハ白内障手術後ニ發ス(以上角膜中層炎)○點狀角膜炎ハ虹彩炎或ハ毛様體炎ニ合併ス(又デスセメツト氏膜炎)ト云フ即角膜後層炎○化膿性角膜炎ハ稻ノ穂尖、小枝尖ノ刺傷ヨリ醜膿細菌進入シ(殊ニ慢性淚囊炎ノ存在スルトキ)或ハ室扶斯、麻疹、痘瘡、膿漏性結膜炎及實扶的里性結膜炎、角膜營養不良ニ續發シテ角膜膿瘍或ハ潰瘍ヲ作ル

診候 角膜瀰濁、血管發生、羞明、流淚、疼痛、水疱潰瘍蓄膿等主タル現症ナリトス

療法 其原因ヲ審ニシ而シテ其續發性(結膜炎等)ナルヤ將タ特發性(腺病、微毒、創傷、感冒等)ナルヤニ注意シ全身療法ヲ行ヒアトロピンノ點眼、硼酸水ノ温卷法、硼酸水ノ薰蒸法、保護繃帶或ハ保護眼鏡ヲ用ユ可シ○劇痛アル者(強壯家)ニハ水蛭ヲ放チ凡テ身體及眼ヲ安息セシメ且ツ緩下劑ヲ處ス

硫酸アトロピン 〇・〇五
ヤオニン 〇・一
鹽水 一〇・〇

右調和點眼料

羞明及疼痛ニハ左方
鹽酸コカイン 〇・一
鹽水 五・〇

右調和點眼料

頭血腫 角膜炎

白降汞 一・〇
黃若越 一・五
單軟膏 一〇・〇

右調和大豆許ノ量ヲ前額及ビ額部ニ塗擦ス

疼痛劇甚ニシテ其四方ニ放散スルトキ 一・〇
黃若越 一〇・〇

水銀軟膏

右調和前額及ヒ額部ニ塗擦ス

結膜炎甚クシテ膿液分泌アル症ニハ

〇・五%硝酸銀水ヲ點眼スベシ刺戟症

候全ク退消シテ濁濁ヲ呈スルノミニ至

ラバ之ヲ透明ナラシムルガ爲メ左方

アルコホル製甘汞末 五・〇

右結膜囊中ニ撒布ス

サオニン 〇・一一・〇

ワゼリン 各五・〇

ラノリン 各五・〇

右爲軟膏點眼料。

〇・一乃至十%サオニン水 一〇・〇

右點眼料

ヨードフォルム 五・〇

右用法同上

黃降汞 〇・二

ワゼリン 五・〇乃至一〇・〇

右精密ニ調和シ軟膏ニ作り其量

帽針頭大ノ者ヲ取り之ヲ牽引シ

タル眼瞼結膜面ニ同時ニ配分ス

(パーケンステツヘル氏軟膏)

サフラン加阿片丁 五・〇

右毎同一滴結膜囊内ニ點入ス

濁濁ヲ消散セシムルニハ按摩法及ビ電

氣分解法ヲ賞用ス

腺病性角膜炎ニハハルレル氏ヨード水

或ハ左方ヲ處ス

ヨードカリウム 一・〇

橙皮舎 一五・〇
餉水 一〇〇・〇

右調和每一時一食匙

角膜實質炎ノ全身療法トシテ水銀塗擦

法或ハ注射法ヲ行ヒ或ハ汞劑ノ内服ヲ

處方ス(徽毒ノ條下參照)

サリチール酸水銀 一・〇

甘草羔及末 各適宜

右百丸ニ作り一日三回每食後一

乃至二粒宛 〇・〇〇一

昇汞丸

右一日三回每食後二乃至三粒

尙ホ角膜潰瘍ノ條下ヲ參照スヘシ

疝痛 Kolik. コリック

原因 不消化性若クハ酸敗性ノ食物、蛔蟲、鉛毒、宿便、膽石等ノ直接刺戟或ハ卵巢病、月經變常ニ係ル間接ノ刺戟或ハヒステリー、ヒポコンデリー等

診候 下腹部ノ臍邊ニ起ル發作性ノ疝痛風氣及下腹知覺神經ノ知覺過敏等ニシテ此痛ハ壓迫ニ由テ輕減ス○膽石ニ因スルトキハ心窩部及ヒ肝部ニアリテ背及ヒ肩部ニ放散ス

療法 不消化物、便秘、月經變常、膽石形成等凡テ其原因ニ注意シ而シテ適當ノ食物ヲ與ヘ下劑等ヲ處シ又下腹温罨法、温浴、摩擦法灌腸法

疝痛

ヲ行フベシ
杏仁水
阿片丁

一〇・〇
十五滴
右調和毎時十滴（但シ便秘ナキ
トキニノミ用ユ）

風氣ニハカミルレ、薄荷、縮草藥ノ煎
劑一椀ヲ與フ其他風氣痲痛ノ條下ヲ參
照

急性喉頭炎

Laryngitis acuta.

ラリンギチス、
アクーダ

原因 感冒、熱體冷飲、高聲、鼻或ハ咽喉加答兒ノ波及、麻疹、流行性感冒、發疹空扶斯、實扶的里、猩紅熱、丹毒、有害瓦斯ノ刺戟、飲酒及喫煙過度等ナリ

診候 患部ニ搔痒及灼熱ヲ覺エ喉頭粘膜ニ粗糙ノ感有リ嘶嘎、咳嗽、咯痰、噴嚏等

豫後 大人ニ於テハ良小兒ニ於テハ疑

療法 癖中ニ安臥セシメ室内温度ヲ平均ニシ高聲ヲ嚴禁シ頸圍ニ温罨法或ハブリースニツツ氏罨法ヲ行ヒ接骨木花等ノ緩性發汗劑ヲ投ジ賊風及ビ冷飲、酒、煙草ヲ禁ズベシ○飲料ニハ微温セルテル水、牛乳加酸性礦泉ヲ賞用ス○咳嗽ヲ鎮靜スルニハ麻酔劑ヲ用キ同時ニ局部充血血

管ヲ收縮セシムル目的ニハモルヒネ劑ヲ賞用ス又温蒸氣吸入ヲ行フ○末期ニ至リ始メテ緩性收斂藥ヲ用ユベシ

小兒ニ在テハ特ニ靜臥セシムルコトニ注意シ而シテ室内空氣ノ乾燥ヲ防キブリースニツツ氏罨法ヲ行ヒ温ナルリモナーデ或ハ砂糖湯ヲ投ジ呼吸困難ニハ從來因用ノ吐劑ニ代フルニ熱蒸氣ノ吸入ヲ可トス假令幼弱ノ小兒ト雖トモ吸入裝置ノ上方ニ覆フニ適當ノ被蓋物ヲ以テスルトキハ之ヲ行フコトヲ得ベシ

鹽規

一・五

右混和爲一包與六包一日三回二

礮砂

二・五

日量

甘草末甘草蒸

適宜

吐根浸

(一・〇)二〇〇・〇

遠志浸

(八・〇)二〇〇・〇

覆盆子會

二〇・〇

杏仁水

六・〇

荳蔻越

〇・一

鹽莫

〇・〇二

白糖

二・〇

右爲五十九丸一日三回三丸宛

右調和散十包二分チ一日三回每

ヘロイン

〇・〇〇五

咳嗽ヲ減少セシムルガ爲メニハ左方

乳糖

五・〇

一包

急性喉頭炎

三九五

煖酸コカイン	一〇〇・一
杏仁水	右一日三回六滴宛
杏仁水	一〇〇・〇
鹽莫	〇〇・一
杏仁水	一〇〇・〇
右一日三回乃至五回十乃至二十	
五滴宛	
ドーフル散	
重曹	各一・〇
白糖	各一・〇
杏仁水	右十包ニ分チ一日三回每一包
鹽莫	一〇〇・〇
杏仁水	〇〇・五
右調和每二時十滴	
鹽酸コカイン	〇・二五乃至〇・五
杏仁水	二五〇・〇
右調和吸入料	

臭剝	六〇・二
鹽酸コカイン	二〇〇・〇
杏仁水	二〇〇・〇
右吸入料	
タンニン酸	〇〇・一
杏仁水	一〇〇・〇
右吸入料	
粗製明礬	二〇〇・〇
杏仁水	二〇〇・〇
右調和吸入料	
食鹽・重曹	各一・〇
杏仁水	二〇〇・〇
右調和吸入料	
杏仁水	一〇〇・〇
鹽莫	〇〇・一
右十滴ヲ毎回吸入液ニ加フ	
末期ニ至リテ左法ヲ用ユ	
ヨード	〇・一

沃剝	一・〇
杏仁水	八〇〇・〇
右一日一回塗擦料	
三%タンニン酸グリセリン	
右一日一回塗布料	
一%クロール亞鉛水	
右一日一回喉頭注入器ヲ以テ注	
入シ或ハ塗布ス	
小兒	ニ於テハ可及的左ノ處方
吐根浸	(〇・三)一〇〇・〇
ヒヨス越	〇〇・一
覆盆子舎	一〇〇・〇
右調和每時一小兒匙	
吐根浸	(〇・二五乃至〇・三)一〇〇・〇
炭酸カリウム	〇・五乃至一・〇
單舎	一五〇・〇
右每二時一茶匙或ハ一小兒匙	

ヒヨス越	〇〇・二
アラビアゴム漿	二〇〇・〇
杏仁水	五〇・〇
單舎	三〇〇・〇
右調和砥劑ニ作り每二時一茶匙	
油合劑	一〇〇・〇
杏仁水	二十滴
吐根舎	一〇〇・〇
右調和每時一茶匙	
アルテア煎	一〇〇・〇
礫砂	一〇〇・〇
單舎	一〇〇・〇
右調和每時一茶匙	
患者若シ貧血腺病家ナルトキハ全身療	
法ヲ行ヒ殊ニ飲食攝生ニ注意スベシ	

慢性喉頭炎

Laryngitis chronica.

ラリンギチス
クロニカ

原因 急性加答兒ノ不治、職業的聲音過勞（教師、講談師等）**微毒**、結核等ナリトス

診候 經久ノ嘶嘎、咽喉癢痒、咯痰、喉頭粘膜ノ肥大或ハ潰爛削瘦結痂等ナリ

豫後 良然レドモ再發ノ虞多シ○結核ニ因スル者ハ不良

療法 **微毒**、結核等其原因ヲ搜リ全身療法ヲ施シ喉頭ノ刺戟ヲ避クルガ爲メ大聲長談、冷飲料、ナルコホル飲料、刺戟性食物、喫烟（紙卷煙草ヲ用ユルハ烟管ヲ以テ喫烟スルヨリモ害多シ）等ヲ禁ジ劇シキ咳嗽ニハ麻醉藥ヲ用キテ緩解スベシ鼻呼吸ノ障害アルモノハ鼻ノ治療ヲ怠ルベカラズ

肥大性ノモノニハ收斂藥ヲ吸入、吹入、塗布、注入ヲ行ヒ削瘦性ノモノニハヨード劑ノ塗布重曹食鹽水等ノ吸入ヲ行ヒ、結痂ヲ溶解セシムルニハ重曹食鹽水ノ吸入或ハ十倍タイロフェン、オレーフ油ヲ塗布ス喉頭鏡ヲ用キ毛筆ニテ腐蝕藥ヲ塗布（初メハ弱溶液）スルコト有リ然レドモ若シ既ニシテ肺浸潤ノ現症ヲ確認スルトキハ凡テ腐蝕法ハ避ケザル可ラス

二%重曹食鹽水	一〇〇・〇	グリセリン	各一〇・〇
右一日數回吸入料		右調和塗布料	
〇・五乃至一%明礬水	一〇〇・〇	結晶硝酸銀	一・〇乃至一〇・〇
右一日數回吸入料		餾水	五〇・〇
硼砂	各二・〇	右塗布料（初期ニハ弱性ノ者ヲ用キ漸次強性ノ者ヲ用ユ可シ）	
グリセリン	一〇〇・〇	病勢適當ノ時ニ至ラバ十乃至二十分時間收斂藥其他テレピンテ油、杜松實油等ノ吸入ヲ行フベシ尙附録ヲ參看セヨ	
餾水	一〇・一	咳嗽ニハ左方ヲ處シテ効有リ	
右吸入料		杏仁水	一〇・〇
ヨード	一〇・一	鹽莫	一〇・〇
沃剝	〇・二	右調和滴劑	
ヨード	三〇・〇	荳蔻越	〇・一
グリセリン	二・〇	白糖	二・〇
右調和塗布料		右研和散十包ニ分チ朝夕每一包	
石炭酸	二・〇	鹽莫	〇・一
濃厚酒精	二・〇	吐根末	〇・二

慢性喉頭炎

白糖 二・〇
 右研和散十包ニ分チ朝夕每一包
 コティン 〇・一乃至〇・一五
 白糖 二・〇
 右散十包ニナシ朝夕一包
 不眠ニハ左方ヲ處シテ確實ノ効有リ
 抱水クロラール 二・〇
 ゴム合劑

單舍 各五〇・〇
 右調和三分シテ毎回其一分ヲ用
 キ睡眠ヲ催スニ至リテ止ム
 ブルフォナル 一・〇
 白糖 〇・五
 右臨床前オプラートニ包ミテ用
 ユ

格魯布性喉頭炎

Laryngitis crouposa.
 ラリンギチス、ケルポーザ

原因 咽頭實扶的里亞ニ續發スル者ニシテ實扶的里菌ノ侵襲ニ因ス
診候 違和、輕熱、輕度ノ嘶嘎、乾咳ヲ發シ四五日ヲ經テ諸症増悪、食氣不振、脈搏頻數咳嗽ノ音ハ犬ノ吠ルガ如ク呼吸時喉頭ニ喘鳴ヲ發シ、呼吸困難、恐怖煩悶、顔面チアノーゼヲ呈シ皮膚冷汗ヲ發シ概ネ遂ニ窒息ニ由テ死ス
療法 血清療法以前ハ不良血清療法ニ由リテ比較的良トナレリ
 先ツ患者ヲ安臥セシメ血清療法ヲ行ヒ頸部ニ氷巻法ヲ行ヒ氷片ヲ

嚙下セシメ或ハ熱蒸氣ノ吸入ヲ行ヒ或ハ喉頭鏡ノ媒介ヲ以テ義膜部ノ腐蝕法ヲ施シ又或ハ含嗽劑及ビ下劑ヲ投ジ或ハ刺戟灌腸ヲ行ヒ而シテ一般ニ病室ノ換氣法ニ注意スベシ其他實扶的里亞ノ條ヲ參照スベシ

鹽劑 一〇・〇
 單舍 二〇・〇
 餽水 五〇〇・〇
 右含嗽料毎半時ニ用ユ(每一時半食匙ヲ内服ニ供スルコトアリ)

石炭酸 二・〇
 濃厚酒精 二〇〇・〇
 グリセリン 五〇〇・〇
 鹽水 一五〇・〇
 右調和含嗽料

ヨードカリウム 一・五
 單舍 二〇・〇
 餽水 一〇〇・〇
 右調和二時一小兒匙

炭酸ナトリウム 二・〇
 單舍 一〇・〇
 餽水 五〇〇・〇
 右調和每一時一小兒匙(微温トシテ用ユ可シ)

昇汞 〇・〇一乃至〇・〇五
 單舍 一〇・〇
 餽水 一〇〇・〇
 右調和毎時一茶匙

熱度ノ劇甚ナル者ハ左方ヲ處スベシ
 硫規 一・〇乃至二・〇
 白糖 五・〇
 右研和散十包ニ分チ毎二時一包
 下劑トシテ本症ニ適用スベキ者ハ左方

セシナ浸 (二・〇)一五〇・〇
 鹽剝 五・〇
 マンナ舎 二〇・〇
 右調和每一食匙
 格魯布性氈膜ノ塗布藥ニハ左方効有リ
 石炭酸 一・〇
 濃厚酒精 各一〇・〇
 グリセリン 各一〇・〇
 右調和塗布料
 苛性カリ 一・〇
 鹽水 二〇・〇
 右調和塗布料
 ヨードフォルム 各三・〇
 乳糖 各三・〇
 右調和吸入料
 小兒ノ年齢ニ從ヒ安息香酸曹達五・〇
 乃至一〇・〇ヲ用キテ効驗ヲ認ムルコ
 ト有リ又必要ノ場合ニ於テハ左ノ吐劑

吐酒石 〇・一
 アラビアゴム 各三〇・〇
 覆盆子舎 各三〇・〇
 右調和每十五分一小兒匙
 吐根浸 (〇・五)一〇〇・〇
 單舎 二〇・〇
 右每十五分時一小兒匙(吐劑)
 若シ窒息狀ノ豫診有リテ吐劑ヲ用ユル
 能ハザルトキハ先ツ左ノ興奮劑
 麝香 〇・一乃至二・〇
 白糖 二・〇
 右研和散五包ニ分チ每二時一包
 吸入劑ニハ鹽剝、明礬、石灰水等左方
 石灰水 一・二・〇
 鹽水 一〇〇・〇
 右吸入料(一日數回)
 プローム 各〇・二
 プロームカリウム

鹽水 一〇〇・〇
 右調和海綿ニ滴シ吸入セシム
 有加里油 五・〇

再鹽酒精 二〇・〇
 鹽水 一八〇・〇
 右振盪シテ用ユ(十回ノ吸入量)

肝臟ヂストマ Leberdistoma. メーセルヂストマ

原因 本蟲ハ水ノ媒介ニ因リテ體內ニ入ル青年及中年ノ男子ニ多シ(就
 中農民日本ニハ比較的多ク全國ニ散在ス又タ一二ノ地方ニハ地方病タ
 リ例之バ仙臺及岡山附近ノ如シ)
診候 輕症患者ハ殆ンド訴フルトコロナシ便中卵ノアルニ因テ其患者タ
 ルヲ知ルノミ重症ニ在テハ衰弱、心窩壓迫、食慾不正、肝臟屢々肥大
 シテ硬シ脾モ亦肥大シ貧血ヲ呈シ遂ニ衰弱ニ由テ死ス○大便中ニ固有
 ノ卵アリ
療法 未タ特效藥ナシ轉地療法ヲ良トス

肝膿瘍 Leberabscess. レーベルアブセス

原因 肝臟ノ外傷、腸潰瘍、化膿性門脈炎、膿毒症又ハ屢バ胆石ニヨル
 胆管壁ノ炎症ヨリ起リ、時トシテ不明ノ原因ニヨリテ發ス

肝臟ヂストマ 肝膿瘍

診候 往々肝臓ノ微候ナクシテ間歇熱様ノ惡寒熱發ヲ呈スルコトアリ、然レドモ多クハ肝臓腫大シ、壓痛アリ往々波動ヲ呈スル隆起物ヲ其ノ表面ニ觸ル、コトアリ又屢バ肝部ニ於テ肩胛部ニ放散スル疼痛ヲ發シ嘔吐吃逆等腹膜刺戟微候ヲ起ス

診斷 原發化膿竈ノ有無ヲ檢シ、「エヒノコツクス」ニ注意スベシ、又肋膜炎性浸出物或ハ横隔膜下膿瘍ト誤ルコトアリ、マラリヤトハ「キニ」ニ療法ノ効果如何ニヨリテ鑑別スルヲ得ベシ

豫後 外方又ハ腸ニ自潰シテ治スルコトアレドモ概シテ不良ナリ

療法 頭部及局部ニ氷囊ヲ貼用シ、阿片ヲ與フ、膿瘍ヲ確診セバ切開スベシ

肝臟微毒 Lebersyphilis. レーベルシフィリス

診候 肝硬變ノ如キ汎發性肝臟炎ノ外微毒患者ニ於テハ又肝臟ニ護膜腫ヲ發生ス、之ハ半球狀隆起物トナリテ觸レ、肝ハ初メ増大シ其ノ緣ハ鈍トナリ壓痛ヲ呈ス、護膜腫已ニ吸收セラレテ癭痕收縮ヲ來タサバ肝ハ縮少シ、溝ニヨリ數部ニ分割セララル(分藥肝)本病ニハ多ク腹水、脾

腫稀ニ黃胆ヲ發ス

療法 早期ニ於テ有力ナル驅微法殊ニ「サルバルサン」注射法ヲ施セバ治癒ノ望ミアリ、已ニ癭痕ヲ結ビ腹水ヲ發シタルモノハ穿腹術等對症的療法アルノミ

癩病 Lepra. レフラ

原因 アルマウエル、ハンゼン氏ノ發見シナイセル氏ノ證明シタル癩病桿狀菌ノ侵襲

診候 斑紋癩ニアリテハ顔面、臀部、四肢ニ赤色ノ斑ヲ發シ、結節癩ニ在リテハ結節ヲ生ジ次テ斑結節ノ吸收、消散或ハ結節ノ崩潰等ヲ來シ後ニハ多ク知覺麻痺ヲ發ス、神經癩ニアリテハ知覺過敏、神經痛ヲ以テ始リ知覺脫失榮養障害ヲ來シ神經肥厚ス又顔面麻痺ヲ發スルコトアリ

豫後 不良

療法 内服ニハ大楓子油、撒酸、撒曹、イヒチオール、クレオソートヲ與ヘ外用ニハ「イヒチオール、沒食子酸、レゾルチン、撒酸」ヲ用井其他クレオソート油(クレオソート榨油等分)或ハ大楓子油(大楓子油榨油等

分)ヲ隔日一筒宛腎筋内ニ注射シ又燒灼、灸點ヲ處ス、尙ホ對症法トシテ疼痛ニハ「モルヒネ」、麻痺ニハ「ストリキニーチ」ノ注射電氣療法ヲ施シ潰瘍ニハ制腐劑ヲ用ユ

白血病 Leukaemie. 白血病

原因 感冒、月經變常、精神感動、微毒、間歇熱、肺炎、及脾淋巴腺、骨髓ノ損傷及疾患、下腹充血、慢性下痢、結核等ニシテ貧賤社會丁年以上ノ男子ニ多シ

診候 白血球非常ノ増加脾性白血病ニ在テハ腺肥大シテ硬固ナリ一大塊ヲ作シテ骨髓性白血病ニ在テハ骨ニ疼痛(胸骨痛)ヲ發シ淋巴腺性白血病ニ在テハ淋巴腺ノ皮下及腹内ニアルモノ著シク腫脹ヲ呈ス其他全身倦怠、食思缺損、心悸亢進、頭痛、眩暈、失神、皮膚ノ弛緩失色或ハ搔痒、惡液質、呼吸短促、下腹痞滿、衄血、下血、咯血、腹水、浮腫、尿中多量ノ尿酸及窒素ヲ含有スル等ナリ

豫後 不良

療法 原因ニ注意シ即チ脾、骨等ノ創傷、月經變常、精神感動、微毒、

間歇熱、腸加答兒等ノ治法ヲ行ヒ多量ノ「キニーチ」ヲ投ジ(殊ニ無晶形鹽酸キニーチ)ヲ良トス)同時ニ脾部ノ冷却法ヲ行フ可シ○若シ本症ノ骨疾患ニ因ル者ニハ「ヨードカリ」(一日量一〇乃至二〇)ヲ投ジテ効有リ○慢性脾腫ヲ縮少センガ爲メニハ麥角越幾斯、ホーレル氏水ノ皮下注射ヲ行フテ効アルモノトス又滋養食用トシテ肉羹汁ニ「ペプトンチ」麥酒等ヲ加フ可シ

- 林檎酸鐵丁 二五・〇
- 鹽規 二・五
- 法水 五・〇
- 右一日三回每食後二十滴宛(漸次増量五十滴ニ至ル)
- 亞砒酸ナトリウム 〇・一
- 硫酸ベルベリン 一〇・〇
- 甘草末及越 適宜
- 右爲百丸毎日一―三丸宛
- 燧 〇・〇〇五
- 肝油 五〇・〇
- 薄荷油 二滴
- 沃剝 右一日三回一茶匙宛 二・〇
- 餉水 右一日六回二日分服 二〇〇・〇
- 鹽規 各二・〇
- 白糖 右十包ニ分チ每二時一包宛 百滴
- オイカリン
- ビベリン
- 白蠟 各四・〇
- アルテア根末 七・五
- 右百粒トシ毎日三回三乃至五丸

白血病

四〇七

口舌白斑病

Leukoplakia.

ロイコプラキア

原因及診候 舌(殊ニ背面)口唇及頬粘膜ニ發スル疾病ニシテ稀ニ口蓋弓ニ發ス患部ノ粘膜ハ白色ノ被膜ニ變ジテ白斑ヲ生ス其初期ニ在リテハ自覺的症候ナシ末期ニ微痛ヲ訴フルコトアリ極メテ慢性ニシテ全治スルコト稀ナリ屢腫ニ變ス

療法 微毒ヲ患フル者ニハ驅微法ヲ行ヒ喫烟及刺戟性飲食物ヲ禁ジ銳利ナル齒牙縁アルトキハ之レヲ除去ス口腔及齒牙ノ衛生ニ注意シ左方ヲ與フ内服藥ニシテ亞砒酸及「カル、ス」泉ヲ用ユ

- | | | | |
|---------------|------|--------|------|
| 硼砂 | 二〇〇 | サリチール酸 | 一〇〇 |
| 蜂蜜 | 二〇〇 | 酒精 | 五〇〇 |
| 右患部塗布料 | | グリセリン | 二〇〇 |
| 一乃至二%「クロール」酸水 | 二〇〇 | 右塗布料 | 八〇 |
| 右塗布料 | | 薄荷水 | |
| 酒精 | | 硼砂 | |
| グリセリン | 各一〇〇 | 鹽水 | |
| 右塗布料 | | 右含嗽料 | 各一〇〇 |

苔癬

Lichen. リッケン

原因 腺病性悪液質ニ由ル者ト一種原因ノ不分明ナル者トノ別有リ甲ハ兒童ニ多ク乙ハ丁年以上ノ者ニ多シ

診候 多クハ軀幹ニ發シ又顔面及ビ四肢ノ内側面ニ發スル粟粒大黃赤色若クハ褐色ノ丘疹ナリ稀ニハ全身ニ發シテ其丘疹ノ極メテ赤色ナル者有リ又環狀ニ排列スルモノアリ皆糠狀落屑ヲナス

豫後 腺病性ノモノハ良、紅色苔癬ハ適當ナル療法ヲ施セバ概ネ良ナルモ然ラザレバ不良

療法 腺病ヨリ來レル者ニハ肝油ヲ内外用ニ供シ又毛髮苔癬ニハ石鹼ヲ用キテ洗滌後緩和軟膏ヲ塗擦シ又紅色苔癬ニハ砒石製劑ヲ用ユ(乾癬ヲ對照セヨ)又左ノ石炭酸昇汞軟膏ノ外用ヲ内服藥ニ代用シテ効アリ

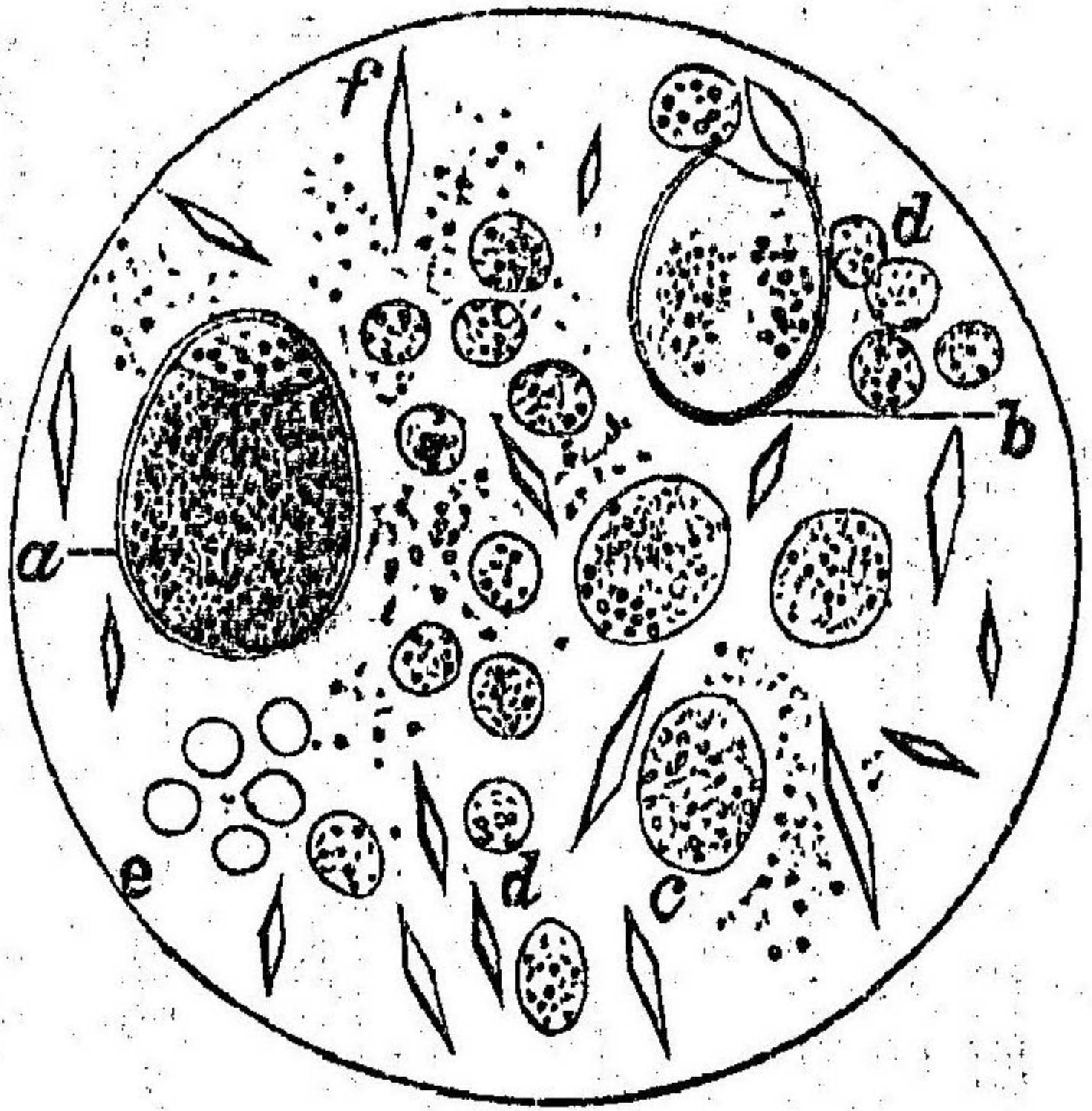
- | | | | |
|------|------|---------------|----------|
| 白降汞 | 三〇〇 | 昇汞 | 〇〇五乃至一〇〇 |
| ワセリン | 各一五〇 | 右調和一日數回全身ニ塗擦ス | |
| 右塗擦料 | | グリサロピントラウマチン | (五〇〇)五〇〇 |
| 單軟膏 | 五〇〇 | 右塗布料 | |
| 石炭酸 | 二〇〇 | | |

口舌白斑病 苔癬

肺チストマ Lungendistoma. ルンゲンチストマ

原因 ベルツ氏ノ明治十一年ニ發見シタル寄生蟲ニ原因ス該肺「チストマ」蟲ハ日本、臺灣及朝鮮ニ多シ日本ニ於テハ全國ニ之レアリト雖モ

第三十七圖 咯 痰
ル 據 = 氏 ツ ル ベ



- a 黄色顆粒ヲ包容スル卵
- b 内容物ヲ出セル卵
- c 肺臟上皮細胞
- d 膿球
- e 白血球
- f シヤルコー氏結晶

九州殊ニ熊本縣、岡山縣、長野縣、宮城縣ニ多シ
診候 數月或ハ數年毎日殊ニ毎朝血痰ヲ咯出ス其色多クハ汚帶褐赤色ニシテ鮮紅ナルハ極メテ稀ナリ患者ハ血痰咯出ノ他凡テ自覺的及他覺的症候ヲ呈セスシテ(稀ニ胸痛アリ)健康ニ害ナキモノ、如シ〇咯痰中ニ固有ノ卵ヲ發見スルニ由テ診斷ス

豫後 良

療法 未ダ特效藥ナシ轉地療養ヲ良トス

狼瘡 Lupus. ルンス

原因 結核「バチルス」ノ浸入ニ由ル

診候 主トシテ顔面殊ニ鼻尖、鼻翼、頬耳、額等ノ部位ニ發スル暗扁平密發性ノ硬丘疹ニシテ白色有輝ノ癩痕ヲ胎ス、潰瘍ハ侵蝕性ニシテ骨質ヲ侵スコト有リ若シ紅斑性狼瘡ト本症トノ鑑別ノ至難ナル場合ニハ「ツベルクリン」反應ニヨリ決スベシ

療法 患部ノ局所麻醉ヲ行ヒ而後鋭匙搔剔法或ハ尖刀穿刺法或ハ亂切法等ヲ行ヒ又綿花壓定縛帶ヲ施ス〇結節及浸潤部ノ腐蝕法(殊ニ顔面ニアル者)ニハ一週二回鋭尖ナル熔製硝酸銀或ハバクレン氏燒灼器ヲ用

肺チストマ 狼瘡

ユ○小兒ニハ先ツ「ヨードグリセリン」、「ヨード」丁幾、灰白水銀軟膏等緩和劑ノ外用ヲ試ミ内用ニハ肝油「ヨードカリウム」鐵劑等ヲ用ユベシコツホ氏液ニ就テハ肺癆ノ條下ヲ見ル可シ○光線療法大ニ効アリ

熔製硝酸銀(即チ棒硝酸銀) 一〇・〇
 右腐蝕用
 結晶硝酸銀 各五・〇
 餾水 右調和塗布用(潰瘍ニ用ユ)

苛性カリ 五・〇
 餾水 一〇・〇
 右調和綿撒絲ニ浸シテ塗布

苛性カリ 各二〇・〇
 生石灰 適宜
 濃厚酒精

右調和軟泥ニ作ル此劑ハ所謂維納腐蝕泥ナル者ニシテ毎應用時ニ新製シ十分時間ヲ待テ後チ使用ス可シ又此諸成分チ各自單獨ニ用ユルトアリ左方ノ如シ

熔製苛性カリ 二〇・〇
 右腐蝕用
 生石灰 二〇・〇
 右腐蝕用
 酒精 五〇・〇
 右塗布用

又クロール亞鉛、石炭酸及「ピロガルス」酸コスメ氏ランドルヒ氏カンコイソ氏等ノ「パスタ」或ハ電氣燒灼器ヲ用ユルト有リ

乳酸 一〇・〇
 右毛筆或ハ棉花ヲ用キテ塗布ス
 ヨードカリウム 一〇・〇
 ヨード 五〇・〇
 グリセリン 二〇・〇
 右調和一週三回塗布

淋巴管炎 Lymphangioitis.

リンフアンギオイトिस

原因 染毒劑、下疳等ニ於テ見ルガ如ク或ハ炎原ヨリ膿膿細菌ノ侵入スルニ由ル

診候 淋巴管行路ノ疼痛、腫起及其外層結締織炎及脈管充血ニ係ル焮赤線ノ皮下透見ト之ニ連續スル淋巴腺ノ腫起或ハ破潰等ナリ

豫後 速カニ治療ヲ加フレバ良下疳ニ續發スルモノハ凡テ良
 療法 患肢ヲ高位ニ置キ安靜ニシ刀背ノ厚サニ水銀軟膏「イヒチオール」軟膏等ヲ塗布セル壓定布纏絡法ヲ行ヒ薄油紙ニテ包ミ繃帶等ヲ施シ又波動著シキ者ニハ切開、排膿管挿入、防腐繃帶等ヲ施ス可シ

恐水病 (狂犬病) LYSSA. ニツキ

原因 狂犬等ノ咬傷ニ由テ其液中ニ含メル病毒ノ傳染ナリ(狂犬咬傷ニ因スルモノ九十%猫及狼ヨリスルモノ各四%狐ヨリスルモノ二%ナリ)

診候 負傷後十八乃至六十日間ノ潜伏期ヲ經テ鬱憂亢奮不穩不眠等精神

淋巴管炎 恐水病

上ノ障礙ヲ來タシ食氣缺損シ已ニ治癒セル咬傷部ノ腫脹灼熱疼痛等ヲ發ス次デ發作性呼吸及ビ咽頭ノ痙攣ヲ發ス特ニ液體ヲ目撃スルトキニ甚シ又同時ニ全身間代性ノ痙攣ヲ起ス〇五管器神經ノ反射機能亢進其
他流涎症ヲ發ス脈ハ初メ強實漸次弱且頻體温僅カニ昇騰ス痙攣等ノ諸症輕快スルモ全身ノ衰弱ヲ來タシテ死ス

豫後 概ネ不良

療法 其咬傷部ヲ直チニ切際シ又其部ヲ燒灼スルヲ豫防法ノ最良ナルモノトスバストエール氏接種法ハ甚ダ有効ナリ狂犬ノ咬傷ナルコト確實ナルトキハ必ズ速カニ此法ヲ用ユベシ

既ニシテ本病ヲ發シタルトキハ患者ヲ隔離シテ嚴重ニ看護シ自傷等ノ害ヲ防禦セザルベカラス又抱水「クロラール」ノ内服「モルヒ子」或ハ「ピロカルピン」或ハ「クラーレ」等ノ皮下注射ヲ施スヲ宜シトス

右創傷消毒料

クレオリン 四・〇乃至八・〇

五・〇

苛性カリ

鹼水 二〇〇・〇

五〇〇・〇

右洗滌料

右調和咬傷部洗滌用

二〇〇・〇

昇汞

二〇〇・〇

石炭酸

一〇〇・〇

濃厚酒精 一〇〇・〇

二〇〇・〇

右調和咬傷部洗滌料

馬疫

Malleus. 一名馬鼻疽

原因

馬鼻疽桿菌ノ傳染ニ因ル馬丁、馭者、騎兵、獸醫ニ多シ

診候

感染部ノ炎症及ビ其比隣淋巴管ヲ傳搬スル炎勢波及、患部ノ下疳様潰爛、患部ノ丹毒様腫起胃症ヲ伴フ熱候、關節ノ痲質斯性疼痛腫

起ニ次ク患部周邊赤キ結節ノ發生及其膿膿壞疽等ニシテ内臓ニ移轉シテ内臓、筋肉、皮下蜂窩織ニ移轉性結節及膿瘍ヲ生ジ高熱ヲ發シテ數日乃至一二週ニシテ死ス(急性)或ハ慢性ニ經過ス慢性ノモノハ死亡數五十%

療法

先ツ傳染部ヲ或ハ苛性「カリ」或ハ硝酸或ハ石炭酸等ヲ用キテ腐蝕シ而シテ發病セル者ニハ膿腫ノ切開鼻腔ノサリチール酸溶液洗滌等ヲ行フ

躁鬱狂

Manie. 一

原因

遺傳ハ本病ノ半数以上ヲナス、誘因ハ感情ノ劇變、精神身體ノ過

馬疫 躁鬱狂

勞、失血、飢餓、虛脫性疾病月經障礙慢性アルコホル中毒、頭部外傷、日射病等ニシテ二十乃至二十五歳ノ間ニ多ク高年ニハ少シ

診候 躁狂ハ原發性感情爽快、原發性意思奔逸及ビ原發性精神運動ノ激越ヲ以テ三大主徴トナス鬱狂ハ其反對ナリ而シテ前驅症トシテハ四乃至六週間病的抑鬱、不眠、胃腸病、能力減少ヲ訴ヘ萬事決斷シ難ク往々心氣性妄想ヲ發ス全經過ハ三乃至九ヶ月ニシテ全治スルモノ九十%死亡スルモノ五% (原發性トハ幻覺或ハ妄想ニ因セザルヲ云フ)

豫後 概子良、重病ノモノハ多少精神衰弱ヲ殘ス

療法 癲狂院ニ入院セシムルヲ最良トス而シテ隔離法ヲ施シ懇ニ安臥靜息セシムルヲ肝要ナリ而シテ腦充血ニハ頭部ノ冷卷法ヲ行ヒ貧血家ニハ有力ナル滋養物ヲ與ヘ看護ヲ嚴ニスベシ劇甚ノ亢奮煩躁ニハ隔離法ヲ行ヒ持續浴(列氏二十二度乃至二十六度)ニ併セテ頭部冷卷法ヲ行フ可シ○初期ニハ成ルヘク大量ノ「プロームカリウム」ヲ與ヘ或ハ「ヒヨスヒアムス」〇〇〇〇五〇〇〇一ヲ内服トシ又或ハ抱水クロラール、「ブルフォナル」、「バラアルデヒード」ヲ用ユ鬱狂ニハ阿片劑ヲ良トス

抱水クロラール	五〇〇	右毎夕一茶匙
餉水	一〇〇〇	バラアルデヒード
右一茶匙ヲ葡萄酒、麥酒ニ混シ用ユ		サレツプ漿
抱水クロラール	四〇〇	右温メテ灌腸スベシ
橙皮舎		バラアルデヒード
餉水	各一五〇〇	橙皮丁
		右砂糖水ニテ頓服
		一五〇〇
		三〇〇
		六〇〇

乳腺炎

Mastitis. マスチーチス

原因 乳房ノ皸裂、咬傷、潰瘍等ヨリ醗膿菌ノ乳腺内ニ侵入シテ發炎スルニ因ス專ラ授乳婦人ニ多シ稀ニ妊婦及妙齡ノ處女ニ發ス

診候 乳房内ニ硬結ヲ生ジ疼痛甚ダシ其後腫脹、潮紅等ヲ加ヘ遂ニ波動ヲ呈シ放置スレバ自潰シテ膿汁ヲ排出ス但シ輕症ニ在テハ化膿セズシテ消散スルコトアリ又々重症ニハ惡寒及高熱ヲ伴フ

豫後 輕症ニシテ消散スルモノ及早ク切開ヲ施スモノハ良、自潰シタルモノハ經過久シクシテ乳腺ノ萎縮ヲ發スルノ虞アリ

療法 水銀軟膏或ハ「イヒチオール」軟膏ノ塗擦温卷法ヲ施シ吸出器ヲ以

乳腺炎

テ乳汁ノ排泄ヲ圖リ尙未ダ化膿セザル者ハ三角繃帶ヲ用キテ乳房ヲ提
舉スルカ又患側ノ上肢ニ臈布ヲ施シ劇痛ニハ授乳ヲ禁ス可シ而シテ乳
汁分泌ヲ減ゼンガ爲ニ下劑ヲ投ズ○消散ノ望ナキトキハ速カニ乳嘴ニ
對シテ放線狀切開ヲ行ヒ防腐繃帶ヲスベシ

キナ煎 (一〇〇) 一五〇〇 右毎日三回塗擦
ヨードフォルム 一〇〇

單會 右調和毎朝半量頓服或ハ全量 一五〇〇
ヨードワッゲン(六%) 一〇〇〇 右塗布料

乳房痛 Mastodynie. マストチニ

原因 乳房ノ神經痛ニシテ乳汁過多或ハ「ヒステリー」生殖器病等ニ來
ル

療法 繃帶ヲ用キテ乳房ノ重キヲ支ヘ且ツ「フラチル」毛皮等ヲ纏フテ原
因ヲ除クコトヲ勉メ以テ乳房ヲ温包シ劇痛ニハ「モルヒチ」ノ皮下注射
ヲ施ス其他

石鹼硬膏 右布片ニ攤シテ疼痛ニ貼ス 五〇〇
荳蔻越 各一〇〇 荳蔻丁

濃厚苦扁桃水 二〇〇〇 右調和朝夕二回塗擦
ホフマン氏鎮痛液 五〇〇

鬱憂症 Melancholia. メランコリア

原因 遺傳ハ大凡六〇%ヲ算ス、營養障害退行期ノ變化モ亦原因ヲナス
其他稀ニハ驚愕、心痛等感情ノ劇動、妊娠、破爪、産褥、胃腸障礙、
貧血、寒胃等ハ本病ノ誘因ヲナス

診候 原發的(即チ幻覺、妄想ニ因セザル)抑鬱、考慮制止、精神運動制
止ノ三症及ビ苦悶ヲ以テ主徴トナス而シテ前驅症ヲ呈スルモノアリ或
ハ然ラザルモノアリ前驅期ノ諸症ハ過敏、心身疲勞、頭壓、不眠、食
思缺乏及ビ便秘トス全經過ハ三乃至八ヶ月ニシテ治ス然レドモ又癡狂
ニ陥リ或ハ死スルモノアリ

豫後 輕症ハ良、昏迷性ノモノ遺傳アルモノ絶食症アルモノ及老人ハ不
良

療法 難症ヲ除クノ外ハ必ず癡狂院ニ入院セシメ精神身體ノ安靜ヲ圖ル
ヲ主要トス自宅治療等ニ在テハ看護十分ナルコト難ク遂ニ自殺ノ不幸

乳房痛 鬱憂症 四一九

ヲ見ルコト多シ而シテ治療ニハ鐵劑「キナ」等ヲ用キテ營養ヲ改良シ周
圍ヲ靜肅ナラシメ精神ヲ亢奮スル事物ヲ遠ケテ喧燥ナル快樂遊逸慰諭
等ヲ避ケ而シテ隔離法ヲ最良ナリトス
可成患者ヲ靜臥セシメ殊ニ發症最モ多キ自殺ヲ嚴戒シ且ツ沈鬱スル時
ニハ阿片、コデイン、モルヒネ、酒精コンニヤック酒等ヲ與ヘ恐怖ノ
發作ニハ「モルヒネ」ノ皮下注射ヲ行ヒ不眠ニハ多量ノ麥酒或ハ「パ
ラアルデヒード」、「ズルフオナール」ヲ與ヘ斷食ニハ鼻食道消息子ヲ用
キテ人工營養法ヲ行フベシ

- 鹽莫 一〇〇
- 繭水 二五〇
- 右調和皮下注射毎回一筒
- バラアルデヒード 三〇〇乃至六〇〇
- 橙皮丁 二〇〇
- 右調和頓服
- 拘攣酸アシモニア加必骨燐酸鐵 二〇〇
- 白糖 五〇〇
- 右研和散十包ニ分チ一日三回每
一包
- 抱水クロラール 五〇〇
- 甘藷 一〇五
- 右二十丸トシ石松子末ヲ衣トシ
不眠ノ際八乃至十丸頓服
- 復方キナ丁 各一〇〇
- 設里酒 各一〇〇
- 右毎日四回一食匙宛

其他便秘アルトキハ下劑ヲ投ズベシ
コロシント越 〇・五
復方大黃越 三〇〇

腦膜炎 Meningitis. メニンギチス

原因 結核性腦膜炎ハ結核「バチルス」ニ因テ發ス二年乃至七年ノ腺病
性小兒ニ多シ○單純性腦膜炎ハ頭部ノ外傷、岩様部骨瘍、丹毒、肺炎、
流行性感胃、急性發疹諸病、窒扶斯、膿毒症、日射病等ニ來ルモノナ
リ

診候 結核性腦膜炎ニ於テハ食氣不振、倦怠、發熱ヲ反覆シ來ルコト一
週乃至一ヶ月(前驅症)次ニ頭痛、嘔吐、食氣不振、心身倦怠、發熱、嗜
眠、舌苔、便秘ヲ發シ大凡一週ノ後呻吟遲脈、且脈搏不正ヲ呈シ諸症増
進スレバ斜視、牙關緊急項部反張、嗜眠瞳孔左右不同ノ散大、反應ノ減
少、肚腹丹狀陷沒其後脈搏頻弱トナリ痙攣、麻痺、昏眠シヤインストック
氏呼吸ヲ發シ或ハ痙攣心臟麻痺ニヨリテ斃ル嘔吐ヲ發シテヨリ死ニ至
ルマデ二週乃至三週(單純性腦膜炎ハ寒戰、體温暴騰、頭痛劇烈、眩暈、
譫語、昏睡、嘔吐、牙關緊急、脈搏不正遲徐搐搦。痙攣等ニシテ經過

癱瘓症 腦膜炎

概于一二日乃至一週半ナリ
豫後 不良

療法 可及的周圍ヲ靜肅ニシテ病室ヲ暗クシ水銀軟膏塗擦水巻法或ハ冷
布纏絡法等ヲ行ヒ脈搏強實營養佳良ナル者ニハ耳後水蛭(六乃至二〇
條)ヲ貼ス可シ〇内服ニハ「キニーチ」及ビ「ヨードカリウム」(一日一
〇乃至二〇)ヲ與ヘ急性諸症ノ減退スルヲ待テ滋養物及ビ強壯劑(鐵
劑等)ヲ投ズベシ〇頭部強直症ノ反覆發作スルモノニハ臭素カリ或ハ
「ヨードカリ」ヲ用キテ効有リ尙ホ急劇ノ條下ヲ參照スベシ

小兒 ニハ左方ヲ處ス

甘汞 〇・〇一五乃至〇・〇五

乳糖 〇・三

水蛭 右爲一包與十包毎二時一包宛 五條

右耳後ニ貼ス(但シ強實ノ小兒
ニノミ用ユ)

水銀軟膏 六・〇乃至一二・〇
ヲノリン 二四・〇

右分六包蠟紙ニ包ミ與フベシ毎
三時半包ヲ頸、項、上肢ニ塗擦ス
ベシ

ヨードフォルム 二・〇

彈力性コロザウム 三〇・〇

右額、頭部及項ノ皮膚ニ塗布ス
ベシ毎日三乃至四回

痙攣症アルトキハ左方

抱水クロラール 〇・一乃至〇・五

餾水 五〇・〇
右瀉腸一回ノ料
抱水クロラール 一・〇乃至二・〇
橙皮會 二〇・〇
餾水 一〇〇・〇
右毎二時一小兒匙宛
ズルフォナール 〇・五乃至一・〇
乳糖 〇・三
右爲一包與六包毎三時一包
既ニシテ昏睡衰弱アルモノニハ水蛭、
氷巻法ヲ用キテ興奮劑ヲ投ズ
樟腦カレフ油 一〇・〇
右四分一筒乃至半筒皮下注入料
樟腦 各〇・〇五
安息香酸 〇・三
白糖 〇・三
右爲一包毎二時一包宛
大人 ニハ左方ヲ處ス

腦膜炎

水蛭 十乃至二十條
右耳後ニ貼ス(強實ノ者ニノミ)
發泡コロザウム 三〇・〇
右毛髮ヲ剃リテ後塗布スベシ
吐酒石軟膏 二〇・〇
右豆大ノ量ヲ剃髮セル頭部ニ塗
擦スベシ
但シ塗擦後其奏効ニ注意シ奏
効アルトキハ直チニ之レヲ除
クベシ然ラザレバ頭皮壞疽ヲ
生ズルコトアリ注意ヲ要ス
甘汞 〇・一
ヤイラツバ根末 各〇・五
白糖 〇・二
右爲一包與四包毎日二回一包宛
鹽莫 〇・二
餾水 八・〇
グリセリン 二・〇

四二三

右四分の一筒乃至半筒皮下注射
 料(譯語甚シキ際)
 樟腦 一・〇
 エーテル 二・〇
 オレーフ油 八・〇
 右一日數回一筒宛(嗜眠ノ際)
 芥子末 二〇〇・〇
 右爲泥腓腸部ニ貼スベシ(同上)

流行性腦脊髄膜炎

Meningitis cerebrospinalis epidemica.
メニギチス、チエレフ、スビナリス、エビデミカ

原因 一千九百八十七年ワイクセルバウム氏ノ發見シタル腦膜炎細胞内球菌ナリ小兒及少年者ニ多シ
診候 通例俄ニ惡寒ヲ發スルコト數回稀ニハ一回ノ寒戰ヲ以テ體温昇騰シ三十九度乃至四十度以上ニ達ス頭痛、眩暈、嘔吐、知覺過敏、脊椎ニ於ケル疼痛、項背諸筋疼痛ヲ訴フ急性症ニアリテハ第一日ノ終若シクハ第二日ニ既ニ項部強直ヲ發シテ頭ヲ前後ニ動スヲ難ク漸次後方ニ屈曲ス後脊柱モ亦少強直ヲ生ズ而シテ腹部ハ陷凹シ全身諸筋ノ痙攣ヲ來シ腹壁ハ緊張ス視神經及聽神經ノ障害、眼筋麻痺、顔面神經麻痺等ヲ發ス試ニ皮膚ヲ刺戟スレバ該部ニ赤色ノ斑ヲ發シテ久シク消散スルヲナシ(トルッソー氏現象)又口唇ノ疱疹ヲ發スルコト多シ
鑑別 結核性腦膜炎ハ徐々ニ發生シクインケンケ氏ノ腰椎穿刺法ニ依テ腦脊

髄液中ニ結核菌ヲ證明シ得ベシ本病ニアリテハ之ニ反シテワイクセルバウム氏菌ヲ發見ス

豫後 多クハ不良快復後頭痛、聾、癲癇及麻痺ヲ殘スコトアリ
療法 心身ノ安靜ヲ命ジ病室ハ暗ク且ツ靜ナランヲ要ス頭部及脊柱ニ沿フテ氷涎ヲ貼シ強壯ナル患者ニアリテハ項部或ハ耳後ニ水蛭ヲ貼シ甘汞ヲ與ヘ或ハ水銀軟膏ノ塗擦若クハ貼用ヲ試ムベシ撒曹ヲ與ヘテ良好ヲ得タルモノアリ疼痛不安ノ甚ダシキトキハ「モルヒチ」ヲ與フ其他常ニ便通ニ注意シ瀉腸ヲ行ヒ或ハ緩下劑ヲ投ズ腰椎穿刺法ハ診斷的或ハ對症的ニ試用スベシ

甘汞 〇・〇五 水銀軟膏 二・〇乃至五・〇
 乳糖 〇・五 右分二包一日二回一包宛塗擦
 右爲一包與十包毎二時一包通利 水銀レゾルビン 二・〇乃至五・〇
 アレバ後服ヲ止ム 右分二包一日一回一包宛塗擦

陣痛微弱 Metrakinesis.

メトラキネーシス

原因 分チテ原發性ト續發性トス○原發性、營養不良ニシテ衰弱セル妊婦、重症後ノ快復期、萎黃病、年少ノ初産婦、又年長ノ初産婦、其外

流行性腦脊髄膜炎 陣痛微弱

子宮筋肉ノ發育不良、新生物發育異常ニ由テ子宮ノ位置形狀ヲ障害スルモノ又狹隘骨盤ニ於テ頻回ノ分娩困難ニ由テ子宮筋ノ衰弱ヲ來セルモノ及羊水過多、數胎分娩等○續發性、巨大ノ兒頭、骨盤狹窄、高年者ニシテ軟部硬固ノトキ

診候 陣痛間歇時甚ダ長クシテ子宮硬固ナラズ分娩緩慢ニシテ殆ンド中止セルガ如シ

豫後 開口期ニ於テハ不良ナラズ娩出期及後産期ニ在テハ害多シ
療法 先ツ膀胱及直腸ノ内容ヲ除キ第一分娩期(開口期)ニ於テハ單ニ對症療法ニ止リ第二(産出期)就中其末期ニ至テ始メテ麥角ヲ用ユベク(子宮孔ノ開大既ニ分娩ニ充分ナル迄ノ時期ニ於テハ麥角ヲ禁ズ)且ツ其胎兒ノ心音正シク母體ノ無熱ナル時ニノミ此藥ヲ適用スルモノトス或ハ器械ヲ用キテ分娩ヲ催進スルヲ宜トス又子宮ヲ按摩シ或ハ産婦ニ適宜ノ位置ヲ取ラシメ或ハ卵膜破開等ヲ施スコト有リ産婦疲癆甚ダシキトキハ麻醉劑ヲ與ヘ一時安靜ナラシムベシ

麥角末
白糖

各二・〇乃至三・〇

右研和散五包ニ分チ每十五分時一包

麥角浸 (五・〇)一八〇・〇
單會 二〇〇・〇
右調和每半時一食匙

單會 一〇〇・〇
餹水 一〇〇・〇
右調和每半時一食匙

三・〇

子宮炎

(子宮實質炎)

Metritis.

メトリチス

原因 急性子宮實質炎ハ痲毒性子宮内膜炎、子宮創傷傳染病特ニ産褥中ニ發シ慢性症ハ稀ニ急性症ヨリ移行シ又屢々諸種ノ子宮粘膜炎患ニ續發ス其他子宮充血ヲ惹起スル諸件即チ月經分娩後子宮復故不全、過房、手淫等ナリ

診候 急性ニ在テハ惡寒、發熱、下腹部劇痛、子宮ノ知覺過敏及腫脹、諸語、衰憊、膿汁流出、惡心、嘔吐、下痢、尿閉、慢性ニ在テハ腰痛、便秘、尿意頻數、疝痛、子宮増大白帶下出血等ナリトス

豫後 概テ良

療法 急性症ニ於テハ原因療法ニ兼テ主トシテ消炎療法ヲ必要ナリトス故ニ安臥靜息ヲ嚴ニシ骨盤ヲ高舉シ局處瀉血(下腹部水蛭貼用)氷巻法等ヲ行フ其慢性ナル者ニハ毎日一二回腔内ニ温湯ヲ注入(列氏三十乃

子宮炎

至三十五度)ス可シ其他或ハ下劑ヲ投ジ濕温巻法、温浴等ヲ行フベシ
 又臍部ニ亂刺ヲ行ヒヨードフホルムガーゼヲ貼ス
 カスカラ、サクラダ流動越 二〇・〇
 右毎夕十乃至十五滴宛
 硫酸マグネシウム 二〇・〇
 苦丁 二〇・〇
 餾水 二〇〇・〇
 右一日六回二日分服
 ヨード 各一・〇
 ヨードカリウム 二・〇
 酒精 三〇・〇
 フゼリン 三〇・〇
 右爲軟膏子宮腫ニ塗布ス
 ヨードフホルム 三〇・〇
 フゼリン 三〇・〇
 右同上

沃剝 一・〇
 ヨード 五・〇
 カリセリン 四〇・〇
 右臍タンボンニ浸シ腔内ニ挿入
 イルチカール 一〇・〇
 グリセリン 一〇〇・〇
 右同上
 イヒチカール 一〇・〇
 可溶性銀 五・〇
 グリセリン 一〇〇・〇
 右同上
 イヒチカール 各一〇・〇
 ラノリン 各一〇・〇
 右下腹部ニ塗擦ス

子宮出血

Metrorrhagiar. メトロラギア

原因 卵膜或ハ胎盤片ノ残留、子宮ノ收縮不全、筋腫、息肉、纖維腫、
 痛腫、腺腫、子宮實質炎及内膜炎等ナリ
診候 原因ノ異ナルニ從テ一定セズ
療法 第一原因療法ヲ主トシ而シテ安臥靜息及ビ飲食攝生ヲ嚴ニシ冷飲
 ナ與ヘ温湯(四十度)ノ子宮内注射ヲ行ヒ或ハ腔管栓塞、下腹冷巻法
 等ヲ施ス可シ但シ子宮内注射ハ之ヲ行フニ當リテ子宮頸管ノ開通スル
 コト肝要ナリトス其他一般ニ麥角越幾斯ノ皮下注射ヲ行ヒ又虚脱ニハ
 「エーテル」ノ皮下注射ヲ要スルモノナリ

- | | | |
|-------------|------------|---------------|
| 麥角浸 | (五・〇)一八〇・〇 | 右調和毎時一食匙 |
| ハルレル氏酸越歷矢兒 | 二二・〇 | デンツェル氏麥角越 |
| 單舍 | 二二〇・〇 | 麥角末 |
| 麥角末 | 二二・〇 | 右二丸トナシ一丸宛一日二回 |
| 右散十包ニ分チ毎時一包 | 二二・〇 | 桂皮丁 |
| 麥角 | 一・〇 | 右每三十分一茶匙 |
| 橙皮舍 | 一五・〇 | エーテル製醋酸鐵丁 |
| 餾水 | 一〇〇・〇 | 醋酸エーテル |
| | | 右調和毎半時十五滴 |

子宮出血

明礬 五〇〇
 右調和注入料 二〇〇〇
 過クロール鐵液 一〇〇〇
 右微温トナシアラウン氏注射器
 ニテ二三滴ヲ子宮腔内ニ注入
 麥角越 各一〇
 ガリセリン 各一〇
 鹽水 五〇乃至一〇〇
 右調和皮下注射毎回一筒

スチブチン 右毎日三一八個
 スチブチール錠 右毎日五―六個
 鹽酸ヒドラスチニン 〇〇二五
 白糖 一〇〇
 右錠劑トシテ十二個ヲ與フ毎日
 四個
 ヒドラスチス越 二〇〇
 右毎日數回二十乃至三十滴

粟粒腫

Milium.

ミリウム

原因 皮脂腺ノ閉塞ナリトス

診候 粟粒大乃至麻實大ノ小結節ニシテ其色帶白色眼瞼、頬、額、唇、陰莖、陰囊、小陰唇ノ内面ニ生ズルコト多シ

療法 先ツ細針ヲ紅熾シ之ヲ用キテ以テ表皮ヲ穿刺シ而シテ後面疱壓搾器ヲ用キテ以テ内容物ヲ壓搾ス可シ後左方ヲ處ス

カリ石鹼

五〇〇

右塗擦料

麻疹

Morbilli.

チヌー

Masern.

トーマン

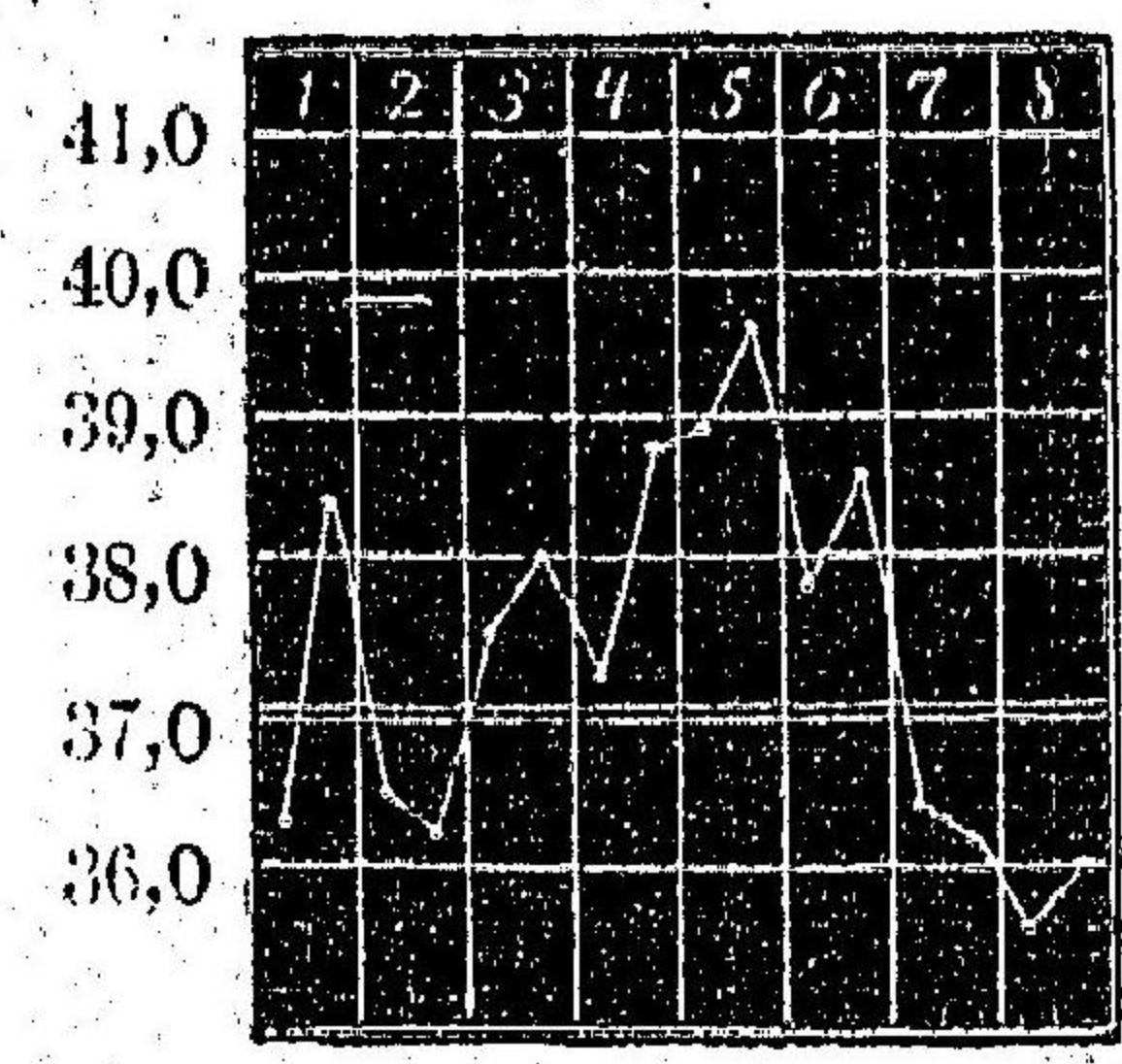
原因 麻疹ハ特異ナル固有病毒ノ傳染ニシテ涙汁、唾液、咯痰、呼氣、皮膚蒸氣、空氣、器具、其媒介トナル傳染力極メテ大ナリ春夏秋ニ多ク

二年乃至六年ノ小兒ニ多シ

診候 潜伏期(九日或ハ十日)ノ後前驅期(三四日)ニ移レバ體温上昇シテ三十八九度ニ達シ噴嚏、流涙、乾咳ヲ發ス其後發疹期ニ達シテ體温三十九度五分乃至四十一度ニ上リ、皮膚粘膜炎及結膜ニ發疹ス先ヅ顔部次ニ頸、軀幹及四肢ニ現ハルル限界ノ判然タル亞麻仁大ノ赤斑ニシテ其中央ニ小丘疹ヲ有ス粘膜炎及結膜ニハ皮膚ニ先チテ之ヲ發スルヲ常トス而シテ加答兒性症候モ亦々甚ダ盛ナリ既ニシテ一二日ヲ經レバ體温殆ンド或ハ全然分離ニ由テ下降シ第三日或ハ第四日ニ發疹消退シ始メ第五日第六日ニハ落屑ヲナシ第八日乃至第十日ニシテ恢復期ニ轉ズ〇合併症ハ結膜炎、角膜炎、鼻炎、咽喉炎、喉頭炎、氣管枝及ビ毛細氣管枝炎、中耳炎、腸炎、腎炎ナリ後發病ハ痘咳及結核ナリ

粟粒腫麻疹

第三十八圖



解熱期
發疹期
前驅期

豫豫 概ネ良
療法 全ク待期療法ニシテ安臥靜息ヲ命ジ病室ノ氣温ハ終始之ヲ攝氏約十八度ニ維持シ且ツ通氣ヲ便ニシ室内ニ熱湯ヲ盛リタル器ヲ置ク例ヘバ暖爐若クハ火鉢ノ上ニ金盥ニ湯ヲ入レ絶ヘズ蒸發セシムルガ如シ而シテ本症ニハ加答兒ヲ起スコト甚シキガ故ニ病室ヲ暗クシ又身體ヲ同等ニ温包シ温食料、緩和劑、緩下劑ヲ投ジ通常ノ食物ヲ與フ合併症ニ

ハ適宜ノ療法ヲ施ス健兒ハ之ヲ隔離スベシ但本患者ニハ決シテ冷飲ヲ與フ可ラズ

咳嗽ノ劇甚ナル者ニハ左方ヲ處ス
 セチガ浸 一〇〇・〇
 (一・五乃至五・〇)

阿片丁 二乃至五滴
 單舍 一五・〇
 右一日六回二日分服

ドーウキル氏散 〇・二
 白糖 二・〇
 右研和散五包ニ分チ一日三回每

吐根浸 (〇・三)一〇〇・〇
 水製阿片越 〇・〇三
 フンモニア苗香精 二〇・〇
 單舍 二〇・〇
 右調和每一時一食匙

右調和每一時一食匙

コデイン 〇・二乃至〇・二五
 白糖 二・〇
 右散五包ニ分チ每時三回一包

ヒヨス越 〇・一五
 單舍 一〇・〇
 縮水 七〇・〇
 右每二時一小兒匙

鹽莫 〇・〇一
 杏仁水 一〇〇・〇
 右調和一日數回每五滴ヲ砂糖ニ

和シテ用ユ
 其他下痢アル者ニハ腸加答兒ノ療法ヲ

行フ

麻疹

アチソン氏病

Morbus Addisonii.

モルブス アチソン

原因 副腎ノ結核、癌腫、微毒、外傷及不明ノ原因ヨリ發ス
診候 皮膚及粘膜ニ發スル暗黄色ト筋力ノ衰弱ヲ主徴トナス
豫後 不良ナリ
療法 滋養性食餌、肝油、鐵劑、沃剝ヲ與フ微毒ノ疑アルトキハ驅微法ヲ行フ

バセドー氏病

Morbus Basedowii.

モルブス バセドーウキ

原因 本病ノ原因ハ頭部交感神經ノ麻痺變性ナリト論ゼシモ近來ハ其原因ヲ甲狀腺ノ病的作用ニ因スル一種ノ中毒症ナリト云フ是レ醫藥効ナキトキ其切除術ヲ行フ所以ナリ幼壯者及中年者ニ多シ殊ニ婦人ニシテ屢々妊娠スル者月經異常、ヒステリー、貧血性ノ疾有ル者ニ其多キヲ見ル
診候 心悸亢進、心臓ノ肥大擴張、脈搏増速、甲狀腺ノ腫大、眼球突出就中特徴ハ上眼瞼舉上シテ眼球鞏膜ヲ蔽ハザルヲ以テ怒視スルガ如キ觀ヲ呈スルニアリ

豫後 概不疑

療法 精神ノ興奮ヲ禁ジ身體ノ勞働ヲ戒メ無刺戟性ノ滋養物ヲ與ヘ田舎ニ轉地セシメ心部ニ冷器法ヲ行フベシ貧血家ニハ鐵製劑及ビ一日ノ量一〇迄ノ「キニーチ」ヲ與ヘ又「チキタリス」或ハ「ヨード」製劑ヲ投ズ
 晩近胸線療法ヲ用キテ輕快或ハ全治ヲ實驗セリ即チ羊ノ胸腺一〇〇〇乃至二五〇〇ヲ二週三回ニ分服シ若クハ毎日ニ分服セシム醫藥効ナク病勢増進スルトキハ甲狀腺ノ切除術ヲ行フ○其錠劑ハ一日十二乃至十五ヲ與フ

沃鐵會	二〇〇〇	右一日三回二分服
單會	八〇〇〇	沃丁
		五倍子丁
臭剝	六〇〇	右甲狀腺塗布料
臭曹	二〇〇	枸橼酸カフェイン
アロームアンモニウム	二〇〇	白糖
苦丁	四〇〇	右研和散十二包ニ分チ一日三回
單會	二〇〇〇	每一包
溜水	一八〇〇〇	

アチソン氏病 バセドー氏病

バンチ氏病

Morbus Bantii.

モルブス
バンチ

原因 本病ハ一千八百九十四年伊太利國ノ醫バンチ氏創メテ之ヲ詳述ス
診候 貧血及脾腫大肝臓硬化症腹水及出血性ノ傾向ヲ主徴トナス
豫後 不良ナルコトアリ
療法 滋養食ヲ與ヘ諸般ノ攝生ヲ嚴守シ「ヨード」劑鐵劑及亞砒酸劑ヲ與
 フ○脾臓切除術ヲ賞用スルモノアリ

バロー氏病

Morbus Barlowii.

モルブス
バロウキ

原因 一千八百八十三年バロー氏創メテ本病ヲ詳述ス一年乃至三年ノ小
 兒ニ多シ原因未詳ナリ
診候 大腿骨ノ骨頭下ニ出血ヲ來タシ疼痛腫起ヲ呈ス其他皮膚出血、齒
 齦出血、下血、血尿等ヲ呈ス、其他尙僂病ノ如キ症アリ
豫後 不良ナルコトアリ
療法 善良新鮮ニシテ可及的短時間煮沸セル牛乳或ハ結核ノ恐レナキ牛
 乳ハ生ノ儘之ヲ與フ其他攝生ニ注意スベシ小兒既ニ乳汁ノ他ニ食物ヲ

要スル時ハ卵黃及野菜ヲ與フベシ

武雷篤氏病

Morbus Brightii.

モルブス
ブライチ

腎臓炎ヲ見ヨ

フリードライヒ氏病

(遺傳性運動失調症)

Ataxia hereditaria.

Morbus

Friedreichi.

モルブス
フリードライヒ

原因 遺傳アルノ外不明○解剖的變化ハ後根、後索、クラルク氏柱、小
 腦側索經路及ビ其小腦ニ至ル連續錐狀體側索經路ニ於ケル神經纖維ノ
 消失及續發的ニノイログリヤノ贅殖ニアリ
診候 小兒期或ハ春機發動期ニ發生シ步行困難ヲ來タシ次テ停立性共働
 機變調ヲ來タス其步行困難ナル踉蹌滿跚泥醉者ノ步行ノ如シ起立時ニ
 於テ全身動搖ス、言語モ眼球モ等シク共働機ノ變調ニ陥ル臆反射消失
 シ趾ノ背面屈曲ヲ生ズ、本病ノ一種トシテ遺傳性小腦共働機變調症ト
 稱スルモノアリ臆反射常ニ亢進ス

バンチ氏病 バロー氏病 武雷篤氏病
フリードライヒ氏病

豫後 不良
療法 對症的ナリ即チ專ラ體操的練習ヲ行ハシム

ゼルリエー氏病

首下リ病

Morbus Gerlierii.

モルフニス
ゼルリエー

原因 未詳牛馬ノ厩舎ニ接近セル家屋ノ住人ニ本病ヲ發スルコト多キヲ以テ本病ト家畜トノ間ニ原因上ノ關係アルコトヲ推測スルモノアリ
診候 視力減弱、複視、眼瞼下垂、項筋不全麻痺、(首下リ)ヲ主徵トス
其他諸筋ノ不全麻痺ヲ發ス、本病ハ發作性ニ發スルモノニシテ其持續ハ數分乃至數時間ヲ算ス

豫後 難治ノ症ナルモ生命上良

療法 「ヨード」劑亞砒酸劑ヲ試用スベシ

ウエルホフ氏血斑病

Morbus Maculosus

Werlhoff.

モルフニス、マク
ウエルホフキ

原因 不明恐ラクハ傳染及中毒ナラン
診候 皮膚及粘膜(殊ニ消化器)數多ノ毛細管出血性斑、吐血、下血、衄血及ビ全身遠和癆瘵等ナリ然レトモ齒齦ヲ侵サズ

豫後 概ネ不良
療法 飲食攝生及住居ノ改良ニ注意シ衄血ニハ冷水洗滌或ハ栓塞ヲ施シ吐血ニハ氷片ヲ嚙下セシムル等但シ虛弱家ニハ就褥安息ヲ守ラシムベシ

ハルレル氏酸越歷矢兒

覆盆子會 五・〇

餾水 三〇・〇

右調和每二時二食匙 二〇〇・〇

稀硫酸 五・〇

覆盆子會 二〇・〇

右每二時一茶匙一盞ノ水ニテ用

キナ煎 二〇〇・〇

稀硫酸 五・〇

橙皮會 二〇・〇

右調和每二時一食匙

水製麥角越 二・〇

覆盆子會 二〇・〇

餾水 二二〇・〇

右調和每二時一小兒匙

枸橼酸鐵キニー子 一・〇

麥角越 〇・三乃至〇・五

白糖 二・〇

右散十包ニ分チ每二時三乃至五包

ワイル氏病

(傳染性黃胆 Icterus infectiosus.)
Morbus Weilli.

モルフニス
ワイル

ゼルリエー氏病 ウエルホフ氏血斑病 ワイル氏病 四三九

原因 一千八百八十六年ワイル氏創メテ本病ヲ詳述ス、原因未詳ノ傳染症ニシテ專ラ十四年乃至三十年ノモノニ多ク夏期ニ發生シ殊ニ肉類ヲ扱フモノニ多シ

診候 俄ニ惡寒ヲ發シ、體温上昇、頭痛、食慾不振、惡心、嘔吐、下痢ヲ發シ、第二日ニ至リ筋痛(殊ニ腓腸部)第三日ニ至リ強度ノ黃疸(急性傳染性黃疸)ヲ生ジ屢々譫語ヲ發スルコトアリ脾臟腫大シ蛋白尿或ハ尿ニ血液、顆粒性圓柱、上皮細胞ヲ混スルコトナリ

豫後 良一週半ニシテ體温下降シ恢復期ニ移行ス

療法 就極安靜ヲ命ジ内服藥ニハ甘汞ヲ賞用ス飲食ノ攝生ニ注意シ殊ニ脂肪及牛乳ヲ避クベシ頭痛ニハ氷囊、筋痛ニハ濕温巻法ヲ施シ食慾缺損ニハ大黃丁幾ヲ與フ

甘汞

〇・三乃至〇・五

水製大黃丁

二〇〇〇

單舍

二〇〇〇

餾水

一八〇〇〇

右爲一包頓用(通利アレバ後服ヲ止ム)

右一日三回二日分服(毎食前)

モルヒ子中毒

Morphinismus.

モルヒニスムス

原因 阿片或ハ「モルヒ子」ノ濫用
診候 昏睡、知覺脫失、神識缺乏、皮膚蒼白、脈搏細徐、瞳孔縮小等ナリ
療法 服用シタル「モルヒ子」ノ分量ニ從ヒ其後服ヲ止ムルニ緩急ノ別ナカルベカラズ而シテ之ヲ止ムルノ初メ數日ハ補藥トシテ却テ阿片或ハ抱水クロラルルヲ與フ可シ○虚脱ヲ呈シ來レルトキニハ強葡萄酒若クハ「コンニヤック」酒ヲ與ハ或ハ一時ノ處置トシテ一乃至二回「モルヒ子」ノ皮下注射ヲ施スコトアリ豫防法ニハ「モルヒ子」ノ皮下注射ヲ制限スル等ニ外ナラズ(急性中毒ハ中毒ノ部ヲ参照)

毛虱

Morpiones.

モルヒチキス

原因及診候 毛虱ノ寄生ニ因ス。先ズ陰部被毛部ニ時々劇甚ノ瘙痒ヲ發ス後ニハ腋窩、髻、眉毛ニ蔓延ス患部ヲ檢スレバ毛虱及其卵ヲ發見ス
療法 外川藥ヲ塗擦スルノ期毎夕ヲ最適當ナリトス而シテ翌日ニ至レバ石鹼浴ヲ行フ可シ且ツ此症ニ於テ見ル處ノ濕疹ハ後之ヲ療スベシ

水銀軟膏

一〇〇〇

ワゼリン

各五〇

右塗擦料

右爲軟膏外用

水銀軟膏

白降赤

モルヒ子中毒 毛虱

ワセリン	各五・〇	ナフトール	一・〇〇
右爲軟膏外用		オレオール	一・〇〇
ワセリン	一・〇	右調和塗擦料	
白降汞	二〇・〇	石油	二〇・〇
右調和軟膏ニ作り塗擦料(藥劑)		ヘルパーサルサム	一・〇
ハ只毛虱ノ存スル部ニノミ塗擦		右調和塗布料	
シ且ツ之ヲ少量ニ用キテ口内炎		クレオリン	二・〇
及ビ濕疹ヲ發セザル様注意スベシ		餾水	一〇〇・〇
		右患部ヲ反覆洗滌スベシ	

脊髓炎 Myelitis. 一トリチス

原因 力役過度、熱身冷地ノ睡眠、鉛中毒、經閉或ハ外傷出血、脊髓膜等此際炎症ノ波及、過房、精神ノ劇動、微毒、急性傳染病後等ニ由ル
診候 急性ニハ劇甚ナル腰痛、背筋ノ強直、發熱及下肢ノ癱瘓慢性ニハ腰痛、軀圍嵌頓ノ感覺、體端蟻行ノ感覺等二次テ起ル下肢ノ癱瘓、膀胱麻痺、直腸麻痺等ナリ脊髓炎ノ胸髓ニ在ルモノ最モ多數ヲ占ム而シテ其症候ハ兩下肢ノ麻痺、腱反射ノ亢進、上腹部以下ノ知覺脫失腰髓

ニ在ルモノハ兩下肢ノ麻痺腱反射消失、臍部以下ノ知覺麻痺、頸部膨大ニ在ルモノハ兩下肢ノ麻痺上腹部以下ノ知覺消失上肢ノ知覺消失及ビ運動麻痺等、頸髓ノ上部ニ在ルモノハ四肢ノ麻痺、四肢及ビ軀幹ノ知覺消失等

豫後 微毒性ノ他ハ不良ナリ但シ經過二十年以上ニ至ルコトアリ
療法 微毒、鉛中毒等其原因療法ヲ主トシ而シテ適當ノ位置ニ安臥セシメ脊柱ニ氷嚢ヲ貼シ撒曹ヲ内服セシム微毒ノ疑アルトキハサルバルサ
 ン注射又ハ沃剝及汞劑ヲ與フ〇劇痛ニハ芥子泥、久臥ニハ褥瘡ニ注意シ膀胱麻痺ニハ清潔ノ「カテーテル」ヲ用キテ排尿ヲ整理シ便通ニ注意シ且ツ營養ヲ善良ナラシムベシ

撒曹	六・〇	四分一筒ハ〇・〇〇〇五、一筒ハ
苦丁	四・〇	〇・〇〇二ノ硝酸ストリキニー
餾水	二〇〇・〇	子
右一日三回二日分服		蕪木髓越
硝酸ストリキニー	〇・〇二	甘草羔
餾水	一〇〇・〇	右調和五十九トシテ石松子末ヲ
右四分一乃至一筒皮下注入料		衣トス一日三回一丸宛

脊髓炎

含糖ヨード化鐵
白糖

二・〇
三・〇

有十包ニ分チ一日三回每一包

子宮筋腫

Myom des Uterus.

ミオーム、デス、ウテルス

原因 不明、春機發動期後ニ至リ著名ノ障害ヲ發ス大槻氏ハ小女子宮ノ血管壁内ニ存スル筋纖維ヨリ發生スト云ヘリ

診候 出血ヲ以テ本症ノ主徴トナス○間質性筋腫ハ子宮增大ヲ來シ月經困難、前屈、或ハ後屈、喇叭管閉塞等ヲ惹起シ月經時外ニモ亦出血ヲ來ス○漿液膜下性筋腫ハ分泌過多ヲ發シ甚ダ大トナリ膀胱直腸等ヲ壓迫ス○粘膜下性筋腫モ亦分泌過多及ビ出血特ニ著名ナル月經困難豫後 概テ良ナルモ消化、血行、泌尿ヲ妨グ或ハ悪性腫瘍ニ變ズルノ虞アリ

療法 本病ヲ根治スルニハ筋腫ノ剔出子宮ノ臍上部切斷又ハ子宮全剔出ヲ要スルハ論ヲ俟タズ而シテ其手術ノ豫後尙ホ悉ク良ナラザルヲ以テ又タ對症的ノ療法ヲ行フ即チ子宮粘膜ノ搔爬術ニ兼ヌルニ其腐蝕法ヲ以テシ或ハ「エルゴチン」ノ皮下注射「ヒドラスチン」ノ

注射若クハ其内服ヒドラスチン流動越ノ内用或ハ電氣療法ヲ用ユ可シ

鹽酸ヒドラスチニン 一・〇〇
鹽水 一〇・〇〇

右調和半筒乃至一筒注射料(每日或ハ隔日)

鹽酸ヒドラスチニン 〇・五

甘草蒸 適宜

右丸十粒ニ作り一日一乃至二丸

ヒドラスチン流動越 各三〇・〇

マラセン酒 一五・〇

桂皮會

右調和每二乃至四時半茶匙乃至一茶匙

麥角越 二・〇〇

鹽水 八・〇〇

右半筒乃至一筒皮下注射料

テンツエル麥角越 二・二五

硼砂 〇・二五

鹽水 七・二五

右每一日乃至二日一筒チ皮下ニ注射ス

注射ス

心筋炎

Myocarditis

ミオカルヂニス

原因 諸多ノ急性傳染病、麻拉里亞、急性關節癱瘓斯敗血症、微毒、淋疾等又酒、煙草、鉛中毒ニヨリ或ハ感冒、外傷、過勞等ニヨリ發スルコトアリ

子宮筋腫 心筋炎

診候 急性症ハ發熱時トシテ重キ神經症狀、消化障碍、蛋白尿等ヲ現ハシ、心働不正、心濁音部増加ス、○慢性症ハ四十歳以上ノ男子ニ多ク心力衰弱ノ症候ヲ呈シ、心悸亢進、呼吸促進ヲ起シ易ク、脈搏ノ調度及強サ屢バ不正トナリ、心濁音部増大、心音微弱ナリ

療法 急性症ニハ安靜、患部ニ氷嚢貼用、興奮劑ヲ用ヒ慢性症ニハ過劇ノ運動ヲ諷ミ、滋養食ヲ與ヘ、代償機障碍アルモノニハ「ヂギタリス」等ヲ用フベク、微毒ノ疑ヒアラバ水銀沃度劑ヲ與フ

鼓膜炎 Myringitis. ミリンギチス

原因 急性症ハ冷水ノ流入(游泳、海水浴ノ際)感冒、外聽道炎、中耳炎ノ波及ニシテ特發ハ稀、慢性症ハ異物及耳聾

診候 急性症ハ劇痛、灼熱、耳鳴聽覺不全、慢性症ハ癢痒及耳漏
療法 鼓膜及其周圍部ニ充血ヲ呈シ且ツ尙ホ劇痛アル者ニハ耳部ニ冷罌法ヲ行ヒ又左方ヲ處スベシ而シテ洗耳ト通氣ヲ禁ス慢性ニハ洗耳後硼酸末ヲ用フ

石炭酸	一〇〇	燬製明礬	四〇〇
グリセリン	二〇〇	右調和外聽道ヲ徐ニ善ク洗滌シ之ヲ點入シ栓壓ヲ施スベシ	四〇〇
右點耳料	〇・一五	鼓膜ノ潤濁セルモノニハ左方ヲ處ス	一〇〇
鉛糖	二十滴	グリセリン	一〇〇
安息香阿片丁	四〇〇	ヨードカリウム	一〇〇
鹽水		ヨード	〇〇一
右調和一日三回毎十滴耳中點入		右調和鼓膜塗布料	
外聽道ノ腫脹甚クシク排泄物ノ多量ナルトキハ左方ヲ處ス			
硫酸亞鉛	〇・四		

鼻茸 Nasenpolyp. ナーゼンポリプ

(浮腫樣纖維腫) ödematöses Fibrom
(粘液茸腫) Schleimpolypen

原因 男子ニ多ク幼年者ニハ少ナシ、慢性肥厚性鼻炎、副鼻腔滯膿症又ハカリエス等ノ刺戟性分泌物アル場合ニハ發生ス
診候 小ナルモノハ症狀ヲ發スルニ至ラズ、増大シ又ハ多發スルニ至リ

鼓膜炎 鼻茸

テ諸症ヲ發ス、茸ハ一側ニ來ルアルモ多クハ兩側ニ來ル、數個ヨリ數十個ニ達スルヲアリ、多ク中鼻道ノ側壁殊ニハイモル氏竇副口ノ周邊上鼻道中鼻甲介ノ邊縁ニ稀ニハ鼻中隔(出血性鼻中隔茸)ニ發生ス、其部位ニヨリ器械的障碍ヨリ來ル症狀ヲ異ニス、普通ハ鼻腔栓塞ノ症狀ヲ發シ輕度ナルモノハ呼吸時異物移動ノ感アリ、音聲ハ甚鼻調ヲ帶ビ、睡眠時ハ多ク開口シ鼾聲強シ鼻涕過多爲ニ常ニ多少ノ咽頭カタールヲ合併シ、嗅覺ハ減退スルカ又ハ全ク欠損スルヲアリ、常ニ頭重、頭痛ヲ訴ヘ、尙ホ眩暈、記憶力減退、精神鬱憂、甚シキハ反射性ニ喘息、癲癇等ヲ發スルコト慢性肥厚性鼻炎ニ於ケルガ如シ、著明ナルモノハ鼻鏡検査ニヨラザルモ鼻孔ヨリ一種ノ光澤アル灰白色柔軟ニシテ移動性アル知覺過敏ナラザル腫物ノ下垂セルヲ見バ其診斷ヲ誤ルコトナシ、然レモ時トシテ肥厚性鼻炎ト區別シ難キアルモ次ノ諸徵ヲ知レバ明カニ區別シ得ルナリ

鼻 茸

- 1 知覺ハ甚タ鈍シ
- 2 消息子ニヨリ移動シ易ク頸ヲ求メ得可シ
- 3 灰白黄色ノ甚タ柔軟ニシテ光澤アリ
- 4 部位ハ多ク中鼻道ニアリ

肥厚性鼻炎

- 1 知覺ハ過敏ナリ
- 2 移動性ナシ
- 3 蒼白色ヲ帶ビ彈力性アリ
- 4 部位ハ多ク下鼻甲介ニ來ル

后鼻腔ニ發生スルモノハ往々長莖ヲ有シ咽頭ニ下垂スルヲアリ(鼻咽腔茸)、鼻茸ト同時ニ惡臭アル鼻涕過多ナル時ハハイモル氏竇膿腫症ノ疑アルヲ以テ鼻茸ヲ除去セル后ハイモル氏竇副口ヨリ試驗的洗滌法ハ其價値アルモノトス

豫後 生命上ノ豫後良ナルモ再發スルヲ多シ

療法 原因トナル可キ疾患アレバ先ヅ之ヲ治ス可シ藥液的處置ハ全ク無効ナリ、手術的療法トシテハ鉗子ニヨルモノ、電氣燒灼ニヨルモノ寒蹄係ニヨルモノアリ現今廣ク使用セラル、モノハ Decker 氏 Rutin 氏 Stange 氏ノ諸型寒蹄係アリ Decker 氏ノモノハ最モ簡便ナリ、之ニ西山氏有刃鉗子ヲ併用セバ妙ナリ、一回ニ全部ヲ抽出スルヲ甚タ困難ナレバ豫メ患者ニ數回ノ手術ヲ要スル旨告ゲザル可カラズ、手術式、扁處麻醉藥及其塗布方法ハ肥厚性鼻炎ノ療法ノ部ヲ參照ス可

シ、只茸ノ莖ノ部ニ良ク塗布スルヲ注意ス可シ。左手ニ鼻鏡ヲ把持シ反射鏡ニヨリ十分鼻腔ヲ照射シ右手ニ蹄係ヲ取り之ヲ鼻腔ノ矢狀徑ニ平行シテ挿入シ漸次茸ヲ擲フガ如キ狀態ニ蹄係ヲ茸ノ莖ニ送り次デ之ヲ絞斷ス後ニ遺殘セル斷片ハ西山氏有双鉗子ニテ切除スルヲ最モ便ナリ、後療法ハ肥厚性鼻炎ノ手術ノ如キモ此ノ場合ニ於テハタンポンヲ去ルハ普通二三日ニシテ可ナリ、然レモ鼻中隔ニ來ル出血茸ニ於テハ前者ノ如ク容易ナラス

腎臟炎 (武雷篤氏病) Nephritis. ネフリチス

原因 (甲)急性腎臟炎ハ感冒、急性傳染病即チ猩紅熱、實扶的里、丹毒、敗血症、天然痘、慢性傳染病、就中麻拉里亞、結核、微毒、癩病、中毒就中莨菪、鹽剝、バルサム劑、石炭酸等其他未詳ノ原因 (乙)慢性腎臟炎ハ慢性傳染病、儂麻質斯、慢性皮膚病、慢性「アルコホル」中毒其他急性腎臟炎及未詳ノ原因 (丙)眞性萎縮腎ハ「アルコホル」中毒鉛中毒、痛風、慢性心臟内膜炎、儂麻質斯

(丁)鬱血腎ハ心臟及肺臟病ニ因スル血行障害其他腎靜脈及ヒ下行大靜脈ノ壓迫、腎血塞、

(戊)妊娠腎ハ妊娠

(己)虎列拉腎ハ虎列拉

診候 (甲)急性腎臟炎ニ在リテハ著シキ症狀ナクシテ發病シ或ハ寒戰發熱、頭痛、腎臟部疼痛、舌苔、惡心、嘔吐等ヲ起コス。水腫及尿ノ變化ハ本病ノ主徴ナリ 水腫ハ顔面殊ニ眼瞼ニ始マル、尿ハ減少、濁濁赤色ニシテ沈渣(特ニ圓塊)ニ富ミ且ツ蛋白ヲ含ムコト著シ而シテ尿毒症肺水腫肋膜炎等ヲ發スルコトアリ

(乙)慢性腎臟炎ニ在テハ皮膚蒼白、水腫、尿量減少、尿比重増加、蛋白尿及尿沈渣增多ヲ發シ頭痛、惡心倦怠ヲ訴フ既ニシテ慢性腎炎ノ末期即チ萎縮腎ヲ發スレバ水腫減退尿量增加尿比重減少蛋白及沈渣ヲ減ズ慢性腎臟炎ノ緊要ナル續發症ハ左心室擴張肥大及蛋白性網膜炎(通常兩眼ヲ侵ス診斷上肝要ナリ蓋シ該網膜炎ニ依テ始メテ蛋白尿アルコトヲ發見スルコトアレバナリ

(丙)眞性萎縮腎ニ在テハ水腫ハ輕微若クハ缺如尿量非常ノ増加、尿比重ノ非常ノ減少(一〇〇三—一〇〇二)、蛋白尿及尿沈渣僅微其他蛋白尿性網膜炎、動脈血壓亢進ノ症(脈搏硬固、大動脈第二音ノ強盛、左心室肥大)、心悸亢進、頭痛、眩暈、輕度呼吸困難、腸胃加答兒及鼻出血、腦出血等ヲ續發ス既ニシテ患者心臟衰弱ヲ發スレバ諸症俄カニ變ジテ水腫著明、尿量減少、尿比重増加(一〇二〇以下)蛋白尿モ亦タ著明トナリ尿毒症ヲ發ス

(丁)鬱血腎ニ在テハ水腫ヲ發シ尿ハ減少汚赤、冷却スレバ煉瓦赤色ノ尿酸鹽沈渣ヲ生ジ熱スレバ中等度ノ蛋白ヲ現ハシ沈渣ヲ鏡檢スレバ多量ノ無晶形尿酸鹽ト少量ノ三燐酸鹽赤白血球硝子樣圓塊アリ

(戊)妊娠腎ハ妊娠第三月後ニ發シ水腫、頭痛、惡心、嘔吐ヲ來タシ屢々急痲ヲ發ス而シテ尿量減少蛋白尿時トシテ尿中種々ノ圓塊

(己)虎列拉腎ハ尿量減少(或ハ無尿)、濁濁、「インジカン」ノ多量、少量ノ蛋白ヲ含ム水腫ヲ發セス

隱微 急性腎臟炎ノ感冒及急性傳染病ニ因スルモノハ良但シ猩紅熱性ノモノハ不良中毒性ハ其輕重ニ從フテ差アリ○慢性炎ニシテ心臟衰弱ノ

兆アルトキハ不良ナルモ輕快若クハ全治スルコトアリ○眞性萎縮腎ハ不治症ナルモ生命上俄カニ不良ナルモノニ非ズ○鬱血腎ハ其原因ニ從フテ差アリ妊娠腎ニシテ急痲ヲ發スルモノハ不良ナルコトアリ虎列拉腎モ亦タ不良

療法 初期ニハ待期療法ニシテ醋酸「カリウム」ノ緩和利尿劑ヲ與ヘ浮腫ニハ熱浴(攝氏四十乃至四十二度入浴時間ハ十五分乃至三十分時ニシテ後二三時間温包ス)ヲ取ラシメ兼テ發汗劑(殊ニ「ヤボランヂ」或「ピロカルピン」)等ヲ與フ○其ノ法初メ毎日、後チニハ時々之ヲ行ヒ尿中蛋白質ヲ消失スルニ至ル迄怠ル可カラス○病勢持續スルニ於テハ安臥靜息セシメ可成ハ牛乳療法ヲ持久ス牛乳ノミヲ以テ患者ヲ養フニハ一日三乃至四「リール」ノ牛乳ヲ與ヘザルベカラズ若シ多量ヲ用ユルコト能ハザルトキハ毎日凡ソ一「リール」ノ牛乳ヲ與ヘ其他葛湯、オモト湯、菜類、豌豆、胡蘿蔔、菓物等ヲ用ユベシ肉類、肉羹汁、生卵及食鹽多キ食品ハ之ヲ禁ズベシ○慢性ノモノニハ鐵劑及健胃劑ヲ處シ又多量ノ飲料ヲ與ヘ或ハ毎日半乃至數「リール」ノ牛乳療法ヲ行フ其他一般ノ攝生ニ注意シテ身體ヲ温包シ僅微適宜ノ運動ヲナサシ

シ
 或ハ微毒間歇熱等ノ原因療法ヲ主トシ又温暖轉地療養等ヲ試ム可
 シ
 ヲウレチン 三〇〇乃至五〇〇
 單舎 一〇〇〇
 單舎 一〇〇〇〇
 右一日數回分服
 ナギ葉浸 (一〇〇)一八〇〇
 硝酸カリウム 六〇〇
 單舎 二〇〇〇
 右一日六回二分服
 錯酸カリウム 一五〇〇
 二〇〇〇
 苦丁 二〇〇〇〇
 右一日三回二分服
 撒曹カフェイン 〇〇二
 白糖 〇〇三
 右爲一包與六包一日三回二分
 酒石酸 一〇〇〇一四〇〇〇

醋酸カリウム 一五〇〇
 單舎 二〇〇〇
 苦丁 一五〇〇
 單舎 二〇〇〇
 右一日三回二分服
 酒石英 二〇〇〇乃至四〇〇〇或ハ五〇〇
 〇右散劑或ハ水劑トナシ一日三
 回二分服
 慢性症ニハ 一〇〇〇〇
 十%ヨザピン 一〇〇〇〇
 右一日三回一茶匙
 沃剝 五〇〇
 單舎 二〇〇〇〇
 右一日六回牛乳ニ混シ用ニ二日
 分服
 杜松實浸 (一〇〇〇)一八〇〇〇

醋酸カリウム 一〇〇〇
 單舎 二〇〇〇
 右一日六回二分服
 其他ノ植物性尿劑、枸橼酸カフェイン
 等モ亦賞用スル所ナリ
 尿中多量ノ蛋白含有スルトキハ左方
 タンニン酸 五〇〇
 水製蘆薈越 二〇〇
 蒲公英末及同越 適宜
 右調和丸五十粒ニ作り一日三回
 毎三粒
 タンニン酸 〇〇五
 白糖 二〇〇
 右調和散五包ニ分チ毎三時一包
 タンニン酸 一〇〇乃至五〇〇
 重曹 適宜
 單舎 一五〇〇〇
 右アルカリ反應ヲ呈スルニ至リ

一ニ日ニ用ユ「タンニン」酸「ナ
 トリウム」
 明礬 二〇〇
 單舎 一五〇〇
 單舎 一〇〇〇〇
 右調和毎二時一食匙
 血尿症ヲ兼マル者ニハ左方ヲ處ス
 麥角 〇〇三
 タンニン酸 〇〇三
 ゴム散 〇〇五
 右爲一包與六包一日三回一包宛
 鉛糖 〇〇二
 鹽莫 〇〇五
 枸橼油糖 二〇〇
 右研和散五包ニ分チ毎二時一包
 過クロール鐵液 二〇〇
 桂皮水 一五〇〇〇
 桂皮舎 二〇〇〇〇

腎臟炎

右調和毎二時一食匙

麥角越 一〇〇
薄荷油糖 二〇〇

右散五包ニ分チ毎三時一包

尿毒症ノ兆即チ尿量大ニ減少シ比重著シク低キト特ニ頭痛、惡心嘔吐無慾或ハ不安ヲ發スルトキハコフエイン或ハザウレチンヲ與フ心力弱キハサギタリス藥劑ノ灌腸ヲ同時ニ伍用スベシ急性尿毒症ノ發作ニハ食鹽溫液ノ皮下若クハ靜脈内注入灌腸ヲ行フ(五〇〇〇〇一〇〇〇〇)若シ患者脈強實ナルハ刺絡或ハ吸角ヲ行ヒ(一五〇〇〇一〇〇〇〇)後食鹽液ヲ注入スベシ心衰弱ニハコフエイン、カンフル油、エーテル精ノ皮下注射ヲ施ス其他痙攣ニハクロロホルム吸入モルヒ子ノ皮下注射或ハ抱水クローラルノ灌腸ヲ行フベシ

不眠及ビ尿毒性喘息ニハ左方

パラアルデヒド 四〇〇
サレツプ漿 各二〇〇〇
橙皮舎 一〇〇〇〇
餾水

右調和毎二時一食匙

小兒ノ急性腎臟炎ニハ先ツ專ラ牛乳療法ヲ施シ利尿劑ヲ禁ツ飲料ニハ鹽泉(カル、ス泉鹽等)ヲ與フ而シテ高度ノ水腫ヲ豫防スルノ力アル發汗療法ヲ用ユ初期無熱ナル場合ニ遭遇スルコト屢ナリ此ノ場合ニ於テハ溫浴ヲ命シ浴後毛布ヲ以テ溫包シテ一二時間發汗セシムベシ高熱アル症ニハ溫浴ニ代フルニアリトスニツツ電法ヲ用ユベシ發汗療法ノミヲ以テ奏効不充分ナル時ハ下劑ヲ用キテ腸ニ誘導スベシ如上ノ方ヲ盡スモ尙ホ高度ノ水腫ヲ生スレバ腎臟ヲ

後服ヲ止ム

發熱兼血尿症ニハ

タンニン酸キニー子一〇乃至二〇
白糖 三〇〇

右研和散十包ニ分チ毎二時一包

乳汁ニ加ヘ用ユ

尿毒症及ビ急痛ニハ毎日二回列氏二十
七乃至二十八度ノ溫浴ヲ取ラシメ且ツ
下劑ヲ投シ又抱水「クローラル」ノ灌腸
抱水クローラル 二〇乃至六〇〇
餾水 二五〇〇

右調和灌腸料(二回分)

安息香華 〇・四

白糖 三〇〇

右研和散十包ニ分チ毎二時一包

ネルフエーゼス
エルブレツヘン

Nervöses Erbrechen

神經性嘔吐

原因

腦及脊髓ノ諸疾患ノ際、又生殖器、咽頭、喉頭、鼻、腎肝、脾、腹膜、盲

神經性嘔吐

四五七

刺戟セザル機細心注意シテザウレチ

ン、アグリ、醋刺等ヲ試ムベシ

ザウレチン 一〇乃至二〇

餾水 一〇〇〇

右毎二時一茶匙乃至一小兒匙宛

(年齢ニ從フ)

アグリ 〇・五—一〇

餾水 一〇〇〇

同上

醋刺 三〇—一〇〇

餾水 一〇〇〇—二二〇〇

右毎二時一茶匙乃至一小兒匙宛

(同上)

複方センナ浸 一〇〇〇

右毎二時一小兒匙(通利アレ)

腸等ノ疾患ヨリ反射性ニ起リ或ハ神經衰弱ヒステリーノ分症トナリテ現ハル

診候 嘔吐容易ニシテ食物ノ性質、量ニ關係ナク、或ル種ノ食物ニ限リテハ嘔吐ヲ發セス、精神感動ハ嘔吐ヲ誘發シ、シカモ胃ニ認ムベキ變化ナシ

療法 原因療法ヲ主トス、心身ヲ安靜ニシ滋養ニ富メル固形食物ヲ取ラシメ、氷片ヲ與フ、嘔吐止マザレバ滋養洗腸又ハ消息子營養ヲ行フ

セルナル水

二〇〇・〇

臭那

各一・〇

鹽酸コカイン

〇・一二

臭素アンモニウム

右一日三回一包宛

半夏

九・〇

蓚酸セリウム

〇・七

茯苓

四・五

鹽酸コカイン

〇・一五

乾姜

一・五

薄荷油糖

一〇・〇

細水

二〇〇・〇

右分十包一日三回一包宛

右煎劑一日數回二日量

藥劑ヲ内服シ難キトキハ鹽酸モルヒネノ皮下注射若クハ坐藥ヲ用フ

三叉神經痛

(顔面痛)

Neuralgia trigemini.

ノイラルギアトリゲミヌス

原因 儂麻質斯、麻拉里亞、微毒、鉛毒、三叉神經ノ壓迫、寒冷、貧血、萎黃病、比斯的里、感冒、外傷、頭部ノ疾患等

診候 顔面ニ發スル發作性劇甚ノ疼痛ニシテ其三叉神經枝ヲ傳播放線狀ニ波及スルコト電ノ如シ而シテ其疼痛第一枝ニ係ルモノハ前頭、眼球、

上眼瞼第二枝ニ係ルモノニハ下眼瞼、上唇、鼻翼、上齒列第三枝ニ係ルモノハ下唇、下顎下齒列及舌尖ニ發スルモノナリ

豫後 概子疑

療法 可成其原因ヲ探リテ原因療法ヲ行ハザル可ラズ即チ儂麻質斯性神經痛ニハ發汗浴、按摩法、電氣療法ヲ行フ又冷水療法或ハ軟膏塗擦或

ハ硫酸「エーテル」若クハ石油「エーテル」ノ洗滌或ハ「クロ、フォルム」

ノ吸入或ハ「モルヒネ」ノ皮下注射等ヲ賞用ス〇定型性發作ニハ「キニ

ーネ」、微毒ニハサルバルサン水銀療法鉛中毒ニハ「ヨードカリウム」等

ヲ用ユ而シテ其頑固ナル者ニハ神經截除術ヲ施スノ外他ナキモノトス

硫規

二一〇

アスピリン

三〇〇

右散五包ニ分チ每發作前二包

右六包ニ分チ一日三回二日分服

三叉神經痛

法水 右每三時五滴 一〇〇
 沃曹 二〇〇
 苦丁 三〇〇
 縮水 二〇〇〇
 右一日三回 二日分服
 インドホルム錠 〇・五
 右毎日三回食後一個
 ザリメントール 一〇〇〇
 右毎日數回一五—三十滴宛
 亞鉛華 各二〇〇
 蘇草越 各二〇〇
 右調和丸二十粒ニ作り毎發作三粒
 アチールクロラール 三〇〇
 再留酒精 一〇〇〇
 ガリセリン 二〇〇〇
 縮水 一〇〇〇

右調和一回三乃至四食匙 二五〇
 コリフィン 右塗布料 二五〇
 エキサルギン 二・五
 橙皮丁 五〇〇
 橙皮會 三〇〇〇
 縮水 一二〇〇
 右調和朝夕一食匙
 モノタール 二五〇
 右毎日二回疼痛アル部分ニ塗布
 ウエラトリン 〇・五
 フゼリン 二〇〇〇
 右調和軟膏ニ作り塗擦
 結晶亞尼質涅 〇〇一
 濃厚酒精 〇〇一
 縮水 各三〇〇〇
 右調和一日一乃至二回每一茶匙
 アンチチルウキン

白糖

右散分十包每二時一包

各五〇

ケルゼミ丁

右三十分時每三十滴三回

五〇

神經衰弱症

Neurasthenic.

ノイラスチニ

原因 身體的及ヒ精神的、過勞、喫煙過度、手淫等ナリ壯年期ニ多シ
診候 腦髓性脊髓性及ヒ以上兩性ヲ併發スルモノアリ腦髓性神經衰弱症
 ニ在テハ頭重或ハ頭痛ヲ訴ヘ書ヲ讀ムモ其理義ヲ十分ニ解スルコト能
 ハス健忘ニ陥リ總テ精神的事業ニ從フノ力ナク不眠症ヲ發シ怒リ易ク
 又喜ビ易ク感情忽チニ劇變スルヲアリ特ニ恐懼ヲ抱クヲナシ大便多ク
 ハ秘結食思缺損ス(神經性消化不良)○脊髓性ノ者ニ於テハ晨起既ニ身
 體殊ニ筋肉ノ疲勞ヲ覺エ步行ノ際速ニ下肢諸筋ノ疲勞ヲ覺エ又屢々下
 肢ニ異常ノ感覺ヲ覺エ薦骨部ニ於テ疼痛ヲ訴フルコトアリ而シテ脊椎
 骨ヲ壓シテ疼痛ヲ發スルコトアリ
豫後 生命上豫後良ナルモ全治スルコト難シ
療法 精神的事業ヲ徐々ニ減ジ海岸或ハ山中ニ轉地療養ヲ命ジ全身感傳
 電氣ヲ處シ又按摩法ヲ用ユ冷水ヲ以テ身體ヲ摩擦シ就業、休憩トテ適
 度ニ相交換セシメ正規的戶外運動ヲナサシメ食事時間ヲ確定シ食物ニ

神經衰弱症

ハ肉類ヲ選ミ「アルコホル」煙草、茶、咖啡等ヲ節減シ便通ヲ整フ可シ
 臭刺
 アロームナトリウム 各八・〇
 アロームアムモニウム 各八・〇
 右分十二包毎夕一乃至二包ヲ水
 ニ溶解シテ用ユ
 フリドール 一〇・〇
 右毎日三回十滴宛
 ヒギヤマ 一〇〇・〇
 右毎日三回一茶匙宛
 不眠症ニハ左方
 ブルフオナール 一・〇
 右一包トナシ就寝三時間前茶或
 ハ汁ニ混シテ用ユ
 消化不良ニハ左方ヲ處ス
 サリチール酸蒼鉛
 マグネシア
 重曹 各一〇・〇

薄荷油加重曹錠 三十個
 右晝食及ビ晚餐後一乃至二個
 便秘ニハ按腹澆注法ヲ用キ左方ヲ處ス
 センナ葉 各六・〇
 昇華硫黃 各六・〇
 八角茴香末 各三・〇
 茴香末 各三・〇
 純精酒石 二・〇
 甘草末 九・〇
 白糖 二五・〇
 右爲散劑毎夜八時ト十時ノ間ニ
 半盞ノ水ニ一茶匙ヲ溶解シ内服
 下痢症ニハ下方ヲ用キテ効アリ
 サリチール酸蒼鉛
 アルファ、ナフトール

白堊 各五・〇
 磷酸石灰 各五・〇
 右散分二十包朝晝食後每一包
 同時ニ貧血ヲ治スベシ(鐵及ビ「キニー

ニコチン中毒 Nicotinvergiftung.

ニコチンフェル
 キフツング

診候 急性ニハ脈細徐、失神、嘔吐、強直、呼吸絶止、慢患ニハ心悸不正亢
 進、喘息、不眠、黒内障等ナリ

療法 急性ニ在テハ微温湯ヲ投ジ咽頭ヲ搔攪シテ嘔吐ヲ促シ(吐劑ハ虛
 脱ヲ増進スルヲ以テ之ヲ禁ズ)或ハ胃唧筒ヲ用キ或ハ興奮藥ヲ與ヘ又
 或ハ「モルヒネ」ノ皮下注射ヲ行フテ其効ヲ認ムルコトアリ

タンニン酸 二・〇
 卵蛋白 一〇〇・〇
 縮水 一〇〇・〇
 右調和振盪毎二時一食匙
 慢性中毒ニハ喫煙ヲ嚴禁シ又黒内障ヲ
 來タセル者ニハ「ストリキニー子」ノ皮

下注射ヲ行フベシ
 硝酸ストリキニーネ 〇・一
 縮水 一〇〇・〇
 右調和皮下注射用四分一筒ニ始
 マリ漸々増量スベシ

ニコチン中毒

水瘡 Noma.

原因 窳扶斯或ハ急性發疹ノ惡性ナル者等凡テ營養不良ノ者ニ發ス大抵小兒ナリ

診候 口角ノ近傍ニ於テ發スル結節ニシテ外面ヨリ觸ルレバ板ノ如ク硬キモ内面ニ破潰シテ瘡面ノ暗黒不潔ナル潰瘍ニ變ジ次ニ外面モ亦壞疽ニ陥リ乾痂ヲ結ブト同時ニ同一ノ變化ヲ以テ速カニ四邊ニ蔓延ス患者ノ全身症狀其初メニハ惡液質ニ過ギザルモ忽チ下痢、足部浮腫、虛脫等ヲ發ス

豫後 速カニ治テ施セバ良ナルモ然ラザレバ不良

療法 局處療法ニハ腐蝕藥ヲ用ユ即チ「クロール」亞鉛末ニ水ヲ加ヘテ粥狀トナシ綿花ニ浸シ之レヲ患部ニ接着スルコト八分間ニシテ之レヲ除キ殺菌水ニテ洗滌シ繃帶ス又烙白金ニテ燒灼ス其他解熱藥、滋養食物、葡萄酒「コンニヤック」酒等ヲ與フ

クロール酸カリウム 二・〇
留水 一〇〇・〇
右調和口内洗滌料

肥胖病 Obesitas. オビシタス

原因 生體脂肪發生物ノ過食、安逸、坐食、病後體質ノ變性ナリトス
診候 歩行困難、反身、腹垂、發汗、心動微弱、脈搏不齊、心臟肥大、呼吸困難、全身肥胖、四肢及面部ノ浮腫尿中ノ蛋白等ナリ

豫後 疑、蓋シ心臟衰弱、腦出血、睥出血等ヲ發シ頓死スルコトアリ
療法 生理的の原則ニ從ヒ其生活法ヲ一變シテ之ヲ持長セザル可カラズ即チ過食ヲ禁ジ八時間以内ノ睡眠ヲ命ジ麵類、馬鈴薯、甘藷、菓子、酒類特ニ麥酒ヲ禁ジ、脂肪ヲ形成スルトコロノ物(澱粉、砂糖)及飲料ヲ節スベシ脂肪ハ禁ズベカラズ一時ノ療法即チ姑息法ハ廢棄スルヲ可トス次ノ三法ハ嘗テ稱用セラレタルモ有害ナルコトアリ第一バンチング氏療法(脂肪及含水炭素ノ食用大節減并ビニ蛋白食用増加)第二エプスタイン氏療法(含水炭素大節減蛋白ノ小量食用)第三オエルテル氏療法(蛋白多量食用飲料節減)其他三法共ニ「アルコホル」性飲料ヲ節減ス○藥劑的療法及礦泉療法ハ只一時ノ奏効アルノミ其他ノ攝生ニハ居常動變相折衷シテ其適度ヲ慮リ心臟ニ異常ナキモノニハ身體ヲ運動

シテ筋力ヲ増加セシムルヲ可トス

便秘

Obstipatio alvi

オプスチパチヲ

アルウキ

原因 不消化性粗食、收斂性飲食物、發汗泌乳排尿等ノ過多、膽汁分泌減少、腸管筋膜ノ麻痺若クハ痙攣或ハ腫瘍、尙傷病、貧血、妊娠子宮ノ壓迫其他「ヒステリー」、脊髓病、腸管ノ狹窄或ハ閉塞等ナリ

診候 硬結々塊シタル宿便ノ通利ナキコト三十七時以上ニ至ルコト有リ
心身違和、倦怠、心悸亢進、眩暈等ニシテ終ニハ痔疾等ヲ發スルニ至ル

療法 一時性ナルモノト常習性ナル者トニ論ナク凡テ其原因ヲ除去スルコトニ注意シ適宜ノ運動ヲナシ飲食ヲ節シ腹部ノ冷水洗滌ヲ行ヒブリスニツツ氏ノ腹帶ヲ用キ或ハ下腹ノ按摩法ヲ施シ鑛泉療法ヲ行ヒ又「グリセリン」一〇乃至三〇〇ヲ注射器ニ據テ直腸内ニ注入シ或ハ「グリセリン」坐藥ヲ用ユ

センナ浸 (二〇〇) 一五〇〇
三〇〇

覆盆子會

右調和毎二時一食匙

二〇〇

蓖麻子油 三〇〇
巴豆油 三滴
右調和毎二時一食匙 (二方共ニ
稍々強劇ノ下劑ナリ)

甘朮 各三〇
乳糖 右研和散六包ニ分チ毎二時一包
効驗ヲ待テ後服ヲ止ム

蓖麻子油 三〇〇
右一茶匙乃至一食匙(麥酒、肉羹
汁、茶等ヲ和シテ用ユルヲ佳ト
ス蓖麻子油三〇乃至五〇ヲ包
莖劑ニ作りテ用ユルコトアリ)

蓖麻子油 三〇〇
アラビヤゴム末 一〇〇
マンナ會 一五〇
縮水 一五〇
右調和毎時一食匙

便秘

四六七

硫苦 二〇〇
稀硫酸 二〇〇
縮水 二〇〇
右調和毎時一食匙

硫苦 三〇
右水ニ溶解シ一乃至二回ニ用ユ
緩下劑トシテ用ユ可キ者ハ左方
サントセルマン下劑 三〇〇
右茶劑全量四分ノ一ヲ一椀ノ熱
湯ニ浸出シ用ユ

覆方センナ浸 五〇
覆盆子會 一〇〇
杏仁水 五〇
右調和微温トナシ用ユ

センナ紙劑 五〇
右二回ニ分服

水製大黃丁 二五
右毎回一食匙頻々服用

ヤラツバ脂 〇・五
 卵黄 一個
 櫻花水 三〇・〇
 單會 一五・〇
 右調和毎時一茶匙
 タマリンド煎 (二〇・〇)二〇〇・〇
 拘椹酸マク子シウム
 マンナ會 各二〇・〇
 右調和毎二時一食匙
 マンナ 五〇・〇
 薄荷水 一五〇・〇
 右調和毎同一食匙頓服
 常習性便秘ニハ若干日間整然左方
 大黃浸 (五・〇)一八〇・〇
 重曹 八・〇
 薄荷油糖 五・〇
 右毎二時一食匙
 水製蘆薈越

ヤラツバ越 各五・〇
 藥用石鹼 適宜
 大黃末及同越 右調和丸五十粒ニ作ル毎朝晨起
 每四粒
 水製蘆薈越 各五・〇
 蒲公英越 右調和丸五十粒ニ作り朝夕毎二
 粒
 水製蘆薈越 各一・〇
 大黃越 各一・〇
 大黃末 右調和丸五十粒ニ作り甘草末ヲ交
 トシ毎夕臨牀一粒
 蘆薈越 各二・〇
 ヤラツバ脂 各二・〇
 甘草末及蒸 適宜

右爲四十丸朝夕一丸宛
 純精酒石 一五・〇
 炭酸マグ子シウム 〇・五
 白糖 三〇・〇
 右研和散ニナシ朝夕毎一茶匙
 純精酒石 一五・〇
 センナ葉末 一・〇
 白糖 三〇・〇
 右研和散ニナシ朝夕毎一茶匙
 硫酸カリウム 各一五・〇
 純精酒石 三〇・〇
 白糖 三〇・〇
 右研和散ニナシ朝夕一食匙
 硫酸ナトリウム 一五・〇
 大黃根末 三〇・〇
 重曹 一〇・〇
 右毎夕一刀尖
 カスカラサクラダ流動越

橙皮會 各二〇・〇
 右調和毎朝夕一茶匙
 大黃末 各二・五
 水製蘆薈越 適宜
 蒲公英越 右調和丸五十粒ニ作り毎晨四粒
 クリーン錠 右一―二個
 ビルガチン 一五・〇
 右毎夕一刀尖宛
 プルガトール 〇・三―二・〇
 右爲一包與四包朝夕一包宛
 本症ニ兼子テ食慾ノ缺損アルトキ
 大黃末 五・〇
 睡藥越 適宜
 右調和丸五十粒ニ作り毎晨五粒
 以上ノ諸方ニ比較シテ有力ナル下劑
 巴豆油 五滴

便秘

葛蒲末及同越 適宜
 右調和丸十粒ニ作り毎朝三粒
 巴豆油 二乃至五滴
 アラビアゴム漿 一五〇〇
 アルテア舎 一〇〇〇
 餾水 五〇〇〇
 右調和一茶匙乃至一食匙
 大黃末 五〇〇
 蘆薈越 二〇〇
 コロシント越 〇〇五
 大黃越 適宜
 右五十丸ニ作り毎朝夕二粒
 ホドヒルリン 各〇〇二
 藥用石鹼 適宜
 蜂蜜 右二十丸ニ作り毎日一乃至三粒
 ホドヒルリン 〇〇三
 大黃越

蘆薈越 各三〇〇
 蒲公英越 適宜
 右四十九トナシ毎夕一乃至二粒
 ホドヒルリン 〇〇五乃至〇〇二
 アンモニア水 五滴
 餾水 一〇〇〇
 右調和皮下注射料
 コロシント越
 大黃末
 蘆薈末
 ヤラツパ脂 各一〇〇
 藤黃 二〇〇
 ミルラ 右調和丸五十粒ニ作り毎日一乃至四粒(所謂セリソン氏丸)
 ヤラツパ末 各二〇〇
 シカンモニウム末 適宜
 龍膽越

右調和丸十粒ニ作り二乃至五粒
 ナ内服シテ奏効アルヲ度トス
 硫酸ナトリウム 一〇〇〇〇
 重曹 八〇〇〇
 食鹽 四〇〇〇
 硫酸カリウム 五〇〇
 右研和散トナシ一乃至二茶匙ヲ
 一盞ノ微温湯ニ和シ用ユ(即チ
 人工カル、ス泉鹽)
 小兒ニ在テハ同時ニ其尙健病及ビ貧
 血ニ對スル療法ヲ施スベシ
 嬰兒蜜水 二〇〇〇
 右毎回一茶匙
 マンナ糖 一〇〇〇
 餾水 五〇〇〇
 右調和毎時一茶匙(哺乳兒)
 マンナ舎 各二〇〇〇
 大黃丁

右調和毎時一小兒匙(便通ヲ得
 ルヲ度トス)
 ホドヒルリン 〇〇一
 再餾酒精 一〇〇
 覆盆子舎 五〇〇〇
 右調和毎回一乃至二食匙
 複方センナ浸 各三〇〇〇
 覆盆子舎 二〇〇
 杏仁水 右調和一乃至二食匙(小兒ノ年
 齡ニ隨フ)
 マンナ舎 三〇〇〇
 水製大黃丁 一〇〇〇
 右調和毎一小兒匙
 稍々年長ノ小兒ニシテ便秘ノ長ク持纏
 シタルモノニハ左方ヲ處ス可シ
 タマリンド煎(一五〇〇)一五〇〇
 硫苦 一〇〇〇

便秘

マンナ舎 一五〇
 右調和毎二時一小匙
 大黃浸 (二・〇)五〇〇
 マンナ舎 二〇〇
 右調和毎時一食匙
 大黃末
 炭酸マグネシウム 各一〇〇
 茴香油糖 各一〇〇
 右一日一乃至二回一刃尖
 センナ浸 (三・〇)五〇〇
 マンナ舎 二〇〇

右調和毎時一食匙
 甘汞
 ヤラツバ根末 各〇・二
 白糖 二〇〇
 右十包三分チ一日三回每一包
 其他「カミルレ」煎ニ若干滴ノ「グリセリン」或ハ水等チ加ヘテ灌腸チ行ヒ又「カカオ」脂「グリセリン」、「グリセリン」石鹼ノ坐藥チ用キ又直腸灌注法チ施ス等本症一般ノ治則ナリトス

動眼神經麻痺

Oculomotoriuslähmung.
オクロモトリーウスレーマング

原因 先天性、外傷、儂麻質斯、微毒、腦病、脊髓病、實扶的里、鉛及肉類魚類中毒、ヒステリー等ナリ
診候 内直筋麻痺ニ於テハ眼球ノ内方運轉缺亡シ遂ニ外斜視ヲ發ス、上直筋麻痺ニハ上内方ノ運動ヲ缺ク下直筋麻痺ニハ下内方ノ運動ヲ營ム

コト能ハス下斜筋麻痺ニ於テハ下内方ニ轉位ス全動眼神經麻痺ニハ以上ノ症候ノ他ニ上眼瞼下垂、瞳孔散大及不動、調節麻痺ヲ起ス其他内直筋麻痺ニアリテハ交叉複視ヲ發シ兩像高低ノ差ナク只左右ニ隔離ス〇上直筋麻痺ニアリテハ交叉複視ヲ發シ兩像高低ノ差アリ假像ハ高クシテ傾斜シ上方ニ開ケル角ヲ形成ス〇下直筋麻痺ニアリテハ交叉複視ヲ發シ兩像高低ノ差アリ假像ハ低クシテ傾斜シ下方ニ開キタル角ヲ形成ス〇下斜筋麻痺ニアリテハ同側複視ヲ發シ兩像高低ノ差アリ假像ハ高クシテ傾斜シ上方ニ開キタル角ヲ形成ス凡テ視野ノ麻痺側ニ於テ複像ノ距離ヲ增加ス

豫後 微毒、儂麻質斯、實扶的里性ノモノハ良、其他ハ概ネ不良ナリ

療法 原因療法ヲ專ラトシ其他電氣療法温泉及全身療法ヲ施スベシ

硝酸ストリキニーネ 〇・一 儂麻質斯ニハ「サリチール」酸、「ピロカルピン」ノ注射微毒ニハサルゲルサン
 縮水 一〇〇〇 汞劑沃割等ヲ用ユ
 右調和皮下注射用

齒痛

Odontalgie.

オドントアルギエ

動眼神經麻痺 齒痛

原因及診候 齒牙「カリエス」即チ齲齒及ビ寒熱ノ刺戟等ニシテ疼痛ニ輕重アリ

療法 齒牙「カリエス」ニハ微温湯ヲ用キテ其窩内ヲ洗滌シ以テ食物ノ殘片等凡テ不潔物ヲ除去シ居常齒ノ清潔法ニ注意シ又鎮痛劑ヲ處スル等治則ノ一般ナリ○齒齦骨膜炎ニハ微温含嗽水ヲ用キ或ハ患齒ノ近圍ニ二三條ノ水蛭ヲ放チ或ハ「ヨード」丁幾、芥子精等ノ塗布ヲ宜トス○化膿セル者ハ之ヲ切開シ又若シ患齒ノ爲メニ膿ノ排泄ヲ妨グルトキハ其患齒ヲ拔除スベシ

- 齒齦弛緩シテ海綿狀ヲ爲スニ至レル齒ニハ其齒石ヲ除キテ而シテ收斂性含嗽藥ヲ處スベシ
- サフラン加阿片丁 各二・〇
- 薄荷油 各二・〇
- 右綿ニ浸シテ齒窩ニ挿入シ或ハ近圍ノ齒齦ニ塗布ス
- 再留テレピンテ精 各二・〇
- クロロフォルム 一五・〇
- 右調和用法同上
- ミルラ丁 五〇・〇
- 阿片丁 各一・〇
- 丁香油 右調和齒丁幾用法同上
- 乳香
- 苛性アムモニア水

- クレオソート 一〇・三
- 薄荷丁 一五・〇
- 右調和齒滴劑
- 樟腦 二・〇
- カヤブテ油 五・〇
- 丁香油 三滴
- クロロフォルム 一〇・〇
- 右調和齒滴劑
- 癒瘡木丁 一五・〇
- 繻草丁 三〇・〇
- 複方安息香丁 各五・〇
- 山苳菜精 二・〇
- 芳香阿片酒 各五・〇
- 右調和其一茶匙ヲ一椀ノ温湯ニ加ヘ毎回一食匙屢々口内ニ含ム
- コト若干分時タルベシ
- チモール 〇・三
- 山苳菜精
- 墨律薩精 各三〇・〇
- ラタニア丁 一〇・〇
- 薄荷油 〇・五
- 丁香油 一・〇
- 右調和毎回十滴一杯ノ水ニ和シテ用ユ用法同上
- ヨード丁 各二〇・〇
- グリセリン 右調和毎二時患齒週側ノ齒齦ニ塗布シ後十分時ヲ經テ冷水ヲ用キテ之レヲ洗滌スベシ
- 又結晶抱水「クロラール」ヲ棉花ニ被包シテ齲齒窩内ニ挿入スルコトヲ賞用ス
- ヒヨス葉 二〇・〇
- 錦葵葉 二〇・〇
- 右調和茶劑（用法其四分一ヲ一茶椀ノ熱湯ニ浸出シ之ヲ以テ口内ヲ洗滌スルナリ）

齒痛

其他ニハ先ツ微温湯ヲ以テ齶齒窩ヲ洗
滌シ脱脂消毒シタル棉花ヲ小塊ニ作り
テ左ノ樹脂溶液中ニ浸セル者ヲ齒窩ニ
充填スルヲ最良トス或ハ先ツ石炭酸溶
液ニ浸セル綿塊ヲ挿入シ次テ左ノ樹脂
製劑ヲ充填スルモ可ナリ

サンダラツク

五・〇
一〇・〇

右調和齒用樹脂ニ作ル

齶牙ノ疼痛若シ其齶髓ノ露出ニ因ル者
ナルトキハ腐蝕法ニ據テ以テ其齶神經
ヲ腐蝕スベシ

白砒石

二・〇

鹽莫

一・〇

クレオソート

適宜

右腐蝕用(砒石泥)其用法先ツ齶
齒窩ヲ充分清潔ニシタル後該泥
劑ノ帽針頭大ナル者ヲ綿ニ塗布

シテ窩内ニ露出セル齶髓ニ貼シ
次テ前記ノ樹脂劑ニ浸セル棉花
塊ヲ充填ス而シテ鎮痛後ニハ速
カニ除去スベシ

沈降炭酸石灰

一〇〇・〇

イリス根末

五・〇

鳥賊骨末

四・〇

白糖

各二・〇

ミルラ末

各適宜

蜂蜜及グリセリン

右調和齒牙泥劑

又收斂性含嗽劑トシテ賞用スル所ノ藥
劑ハ左ノ諸方ナリトス

吉納

一・〇

再醱酒精

六〇・〇

薄荷油

十五滴

桂皮油

各五滴

肉荳蔻油

各五滴

丁香油

二滴

右調和齒丁幾其用法ハ毎回三十
滴ヲ半盞ノ水ニ和シテ屢々口内
ヲ洗滌スルナリ

チモール

〇・二五

安息香液

三・〇

純酒精

一〇〇・〇

オイカリ丁

一五・〇

ガウルテリヤ油

十五滴

右調和齒丁幾用法同上

炭酸マグネシウム

一五・〇

イリス根

一五・〇

滑石

各五・〇

藥用石鹼

各五・〇

薄荷油

十滴

アラビアゴム漿

適宜

右調和齒磨石鹼ニ作ル

白色精製石灰

一五・〇

齒痛

イリス根

五・〇

薄荷油

五滴

右研和齒磨粉ニ作ル

白色精製鳥賊骨

二五・〇

イリス根末

各三・〇

炭酸マグネシウム

三滴

右研和齒磨粉ニ作ル

菩提樹炭

一五・〇

キナ皮

五・〇

阿仙藥

一五・〇

ミルラ

一五・〇

桂皮

各二・〇

丁香

各二・〇

ベルガモット油

二十滴

右研和齒磨粉ニ作ル

泥菖根

各一五・〇

イリチ根

各一五・〇

四七七

精製赤珊瑚
赤檀木
乾製炭酸ナトリウム 各五・〇
右研和齒磨粉ニ作ル
沈降炭酸石灰 一二〇・〇
黃色ナキ皮 各六〇・〇
沈降牡蠣 三〇・〇
ミルラ末 一五・〇
丁香末

桂皮油 十乃至十五滴
右研和齒磨粉ニ作ル
精製炭酸石灰 一二〇・〇
イリス根 六〇・〇
烏賊骨末 各三〇・〇
白糖 一五・〇
重曹 十五滴
薔薇油
右調和齒磨粉ニ作ル

聲門水腫

Oedema glottidis.

エデマ、クローチヂス。

原因 強度ノ刺激、微毒、結核、窒扶斯、癌腫、軟骨膜炎、心肺ノ疾患、腎病、喉頭、潰瘍、頸皮下蜂窩織炎、痘瘡、顔面丹毒、全身水腫等

診候 強度ノ嘶嘎聲ニ窒息ノ危険ヲ兼ヌル吸氣困難、吸氣時鎖骨上窩、心窩及胸廓側壁ノ陥没、喉頭ノ疼痛、喉頭内異物阻塞ノ感覺、會厭軟骨側部及ヒ聲帶ノ水腫顔面暗紅色ナリ

豫後 疑、但シ速カニ療法ヲ施セバ良

療法 氷片ヲ嚥下セシメ頸圍ニ氷巻法ヲ行ヒ或ハ水蛭ヲ放チ峻下劑ヲ投シ或ハ灌腸ヲ行ヒ皮膚ノ強刺激ヲ試シ或ハ刺絡ヲ行ヒ或ハ喉頭鏡ヲ運用シテ腫脹部ノ亂刺ヲ行フ等其通則ニシテ最後療法ニハ氣管切開ヲ施スベシ

センナ浸 (一〇〇・〇)五〇・〇
純精酒石 一〇〇・〇
覆盆子會 二〇〇・〇
右調和其半量ヲ頓服セシム
氣管及ヒ氣管支ノ分泌物多量ナル時ハ
吐根浸 (二・〇)八〇・〇
吐酒石 〇・二
覆盆子會 二〇〇・〇

右調和十五分一食匙ヲ用キテ奏効ニ至ルヲ待ツ(吐劑)
鹽酸アポモルヒ子 〇・一
グリセリン 二・〇
餾水 八・〇
右調和注射料毎回アラソツツ氏皮下注射器一筒

急性肺水腫

Oedema pulmonum acutum.

エデマ、アルモノ、エデマ、クローチヂス。

原因 心臟病、腎臟病、脚氣、全身水腫、肺炎、肺癆、癌腫、傳染病是ナリ

診候 呼吸困難、吸氣短縮、呼氣延長、喘鳴、咳嗽、稀薄泡沫咯痰、肺

聲門水腫 急性肺水腫

濁音、濕性捻髮音、全身「チアノーゼ」
豫後 疑

療法 興奮劑ノ皮下注射及内服(カンフル、エーテル)皮膚摩擦法ヲ行ヒ胸部及背部ニ大ナル發泡劑或ハ芥子泥ヲ貼シ又氷水或ハ醋水ノ灌腸ヲ施ス○發作經過後ニハ祛痰劑(吐根)ヲ與ヘ腎臟病アルトキハ兼ヌルニ利尿劑心臓病アルトキハ「ヂキ」葉「ストロファンツス」丁ヲ處方ス

- 樟腦 一・〇
- オレフ油 九・〇
- 右皮下注射料毎三十分乃至一時 一筒
- 吐根浸 (〇・六)一八〇・〇
- 單舎 二〇・〇
- 右毎二時一食匙
- アルニカ花浸 (七・五)五〇・〇
- アンモニア茴香精 二・五
- 橙皮舎 一五・〇
- 右毎時一食匙
- アルニカ花浸 (一〇・〇)一五〇・〇
- 醋酸エーテル 二・〇
- 橙皮舎 一五・〇
- 右調和毎半時一食匙
- 吐根浸 (〇・八)二〇〇・〇
- アンモニア茴香精 三・〇
- 吐酒石 二・〇
- 橙皮舎 二・〇
- 右調和毎時一食匙
- 安息香酸 〇・三
- 樟腦

- 金硫黃 各〇・〇五
- 白糖 〇・五
- 右一包トナシ十包ヲ與フ毎二時一包
- 醋酸エーテル 五・〇
- 右毎半時一滴ヲ與フ
- 麝香 〇・五
- 白糖 二・〇
- 右研和散五包ニ分チ毎時一包
- エーテル 各五・〇
- 濃厚酒精 一五・〇
- 覆盆子舎 一五・〇
- 餾水 一五〇・〇
- 右調和毎時一食匙
- ザキ葉浸 (〇・五)二二〇・〇
- 醋剝液 各一五・〇
- 海葱醋蜜 右調和二時二食匙
- ザキ葉浸 (一・五)一五〇・〇
- ストロファンツス丁 二・〇
- 醋剝液 各二〇・〇
- 橙皮舎 右毎二時一食匙
- ストロファンツス丁 二〇・〇
- 右一日三回毎五乃至十五滴

臍炎 Omphalitis. オムファリチス

療法 微温湯或ハ茶劑ヲ用キテ患部ヲ丁寧ニ洗滌シ又或ハ單ニ澱粉若クハ之レト「ヨードフォルム」トノ混和劑ヲ撒布シ或ハプルンス氏綿花ヲ

臍炎

挿入シ或ハ注意シテ熔製硝酸銀ノ腐蝕ヲ行フベシ壞疽狀ヲ呈スルトキハ消毒藥ヲ用ユルコト勿論ナリトス○豫防法ニハ臍帶ヲ短ク切斷シテ之レヲ乾燥清潔ナラシメ且ツ其繃帶及ビ之レニ用ユル器械ヲ消毒スベシ

ガラルド氏水	二〇〇・〇	繃水	各五〇・〇
右外用		右調和外用	
鉛醋	五・〇	サリチール酸	二・〇
繃水	二〇〇・〇	澱粉	三〇・〇
右調和繃帶水		右研和撒布劑	
ブロー氏液	二〇〇・〇	酸化亞鉛	二・〇
右電法料		緩和軟膏	一〇・〇
石炭酸	五・〇	右調和軟膏ニ作り貼用	
繃水	二〇〇・〇	硼酸	〇・五
右調和洗滌料		澱粉	一〇・〇
樟腦	二・〇	右研和撒布料	
アラビヤゴム漿			

寄生性爪炎

Onychomycosis.

オニヒョムキョウシス

原因 多クハ「トリヒョヒートン、トンスランズ」或ハ「アヒヨリオン」、「シエーンライニー」

診候 爪甲ノ表皮剝離或ハ爪甲横面隆起ヲ發生シテ其發育ヲ妨ゲ終ニ爪甲實質ノ糊狀軟化ヲ來ス

療法 軟化セル爪ヲ削リ一%昇汞精ヲ塗布シ「サリチール」酸硬膏或ハ水銀硬膏ヲ貼用ス

水銀硬膏	二〇・〇	昇汞	一・〇
右外用		酒精	一〇〇・〇
五%サリチール酸硬膏		右調和塗布料	
右外用			

卵巢炎

Oophoritis.

オーホリチス

原因 急性症ハ感冒、淋毒蔓延、産褥熱、腹膜炎、子宮外膜炎、子宮内膜炎、喇叭管炎等慢性ノ者ハ淋毒、房事過度、腫加答兒、子宮内膜炎等ナリ

診候 急性ノ者ハ其原病ノ症狀ヲ以テ蔽ハル、コト有ルガ故ニ特徴ヲ示ス能ハズト雖モ皆患側ニ劇痛ヲ發ス慢性ニアリテハ直立位ノ動作ニ於

寄生性爪炎 卵巢炎

テ殊ニ著シキ卵巢部ノ劇痛、便秘、食思缺損（睡眠不安、卵巢ノ起腫増大ヲ來タス）而シテ疼痛ハ壓迫、交接、月經時ニ増劇ス

豫後 概テ良

療法 急性症ニハ普通冷卷法ヲ用ユト雖モ温卷法ヲ用キテ其効有ル者却テ多シ凡テ安息靜止ヲ守ラシメ而シテ内服ニハ緩性鹽類下劑ヲ投ジ又疼痛ニハ「モルヒチ」或ハ阿片ノ坐藥ヲ用井或ハ阿片劑ニ浸セル綿球ヲ用キテ子宮ノ頸部ニ挿入シ若シ同時ニ白帶下ヲ認ムルハ小心注意シテ緩性ノ注射藥ヲ注射シ交接ヲ禁ズルカ若シクハ之ヲ節限セシムル等

- 慢性炎ニハ沃丁、「イヒチオール」ノ塗布、温坐浴、腔灌注法等
- イヒチオール 一〇〇〇
- グリセリン 一〇〇〇〇
- 右綿花腫「タンボン」ニ浸シ送入
- イヒチオール 一〇〇〇
- 可溶性銀 五〇〇
- グリセリン 一〇〇〇〇
- 右同上 〇〇二
- 印度大麻越
- 水製阿片越 〇・五
- 樟腦 一〇〇
- 右研和九十粒ニ作り毎發作一粒
- 臭剝 二〇〇
- 苦丁 一〇〇
- 硫酸マグネシウム 一〇〇〇
- 餾水 一〇〇〇
- 右調和一日三回分服

コティン 龍膽越

一〇〇

甘草及同煮

各適宜

右三十粒ニ作り毎日二乃至三粒

睪丸炎

Orchitis.

タルヒチス

原因 淋毒或ハ結核、微毒、外傷、流行性耳下腺炎、或ハ一種不明ナル

原因ニ來ル

診候 淋毒ヨリ來ル者ハ副睪丸ニ次テ侵サレ腫起疼痛共ニ大ナリ微毒ヨ

リ來ル者ハ腫起疼痛共ニ小ニシテ其「ゴム」腫性ナル者ハ經久微毒ニ來リテ終ニ破潰スルモ微毒性發疹後ニ來ル者ハ否ラス結核性ノモノハ副

睪丸炎ニ續發ス

療法 其原因ヲ療シ其他對症療法ヲ施スベシ（副睪丸炎參照）

骨髓炎

Osteomyelitis.

ラステオミエリチス

原因 原發性傳染性急性骨髓炎ノ原因ハ主トシテ黃色膿菌ノ傳染ニ因テ發ス稀レニ白色膿菌ノ傳染ニ因ルコトアリ又以上兩種ノ混合傳染ニ因ルコトアリ又連鎖狀膿球菌ノ傳染ニ基クコトアリ其骨髓ニ

睪丸炎 骨髓炎

達スル經路ハ皮膚呼吸器消化器等ヨリ血中ニ進入スルモノナリ
外傷性骨髓炎ハ外傷ノ際若クハ其後ニ於テ創口ヨリ醗膿菌ノ侵入スル
ニ因テ發ス

診候 中等度ノ骨髓炎ハ最モ多ク見ルトコロニシテ外傷或ハ感冒後二三日ノ間ニ於テ寒戰ヲ發ス體温著シク昇騰シ(四十一度ニ達スルコトアリ)而ノ一骨若クハ數骨ニ疼痛ヲ發シ該部ノ軟部ハ腫脹ヲ來シ機能障害モ亦著明ナリ○重症ニ在テハ高熱譫語等重症ノ全身症狀ヲ發シ一二日ニシテ死ス○輕症ニ在テハ全身及ビ局處ノ症狀共ニ甚シカラズ○中等ノモノハ多ク腐骨疽ヲ發生ス

療法 全身及ビ局處ノ症狀著明ナル者ニアリテハ患部ヲ切開シ槌ト鑿トヲ以テ骨ヲ楔狀ニ切開シ排膿ヲ謀ルベシ其症候劇烈ナラザル者ニアリテハ患部ヲ安靜ニシ該部ニ氷巻法若クハ温巻法ヲ施シ骨膜ノ腫脹疼痛甚ダシキ者ニアリテハ膿汁ノ滯溜ヲ認メザルモ患部ヲ切開シ組織ノ緊張ヲ減ジ以テ疼痛ヲ緩解シ腐骨疽ノ發生ヲ豫防スベシ
腐骨疽ヲ發生シタル場合ニアリテハ後ニ之レガ剔出術ヲ施スベシ

急性中耳炎

Otitis media acuta.

ヲチチス、メシア
アケイタ

原因 概テ鼻、咽喉ノ急性加答兒ニ併發ス(加答兒性)○急性發疹傳染病、即チ麻疹、痘瘡、猩紅熱及實扶的里、奎扶斯(化膿性)

診候 加答兒性ニアリテハ疼痛、耳鳴、充塞ノ感、聽覺減少ヲ發シ一乃至數日ニシテ鼓膜穿孔分泌液ヲ排出シ、諸症輕快ス鼓膜穿孔ハ多ク前下部ニ生ズ、○化膿性ニアリテハ劇痛、耳鳴、頭痛ヲ發シ小兒ニアリテハ發熱、譫語ヲ發スルコトアリ數日乃至一二週ニシテ穿孔排膿ス其後諸症輕快スルヲ常トス

療法 精神ノ感動身體ノ運動等凡テ疼痛ヲ増サシムル諸件ヲ避ケ緩下劑ヲ投シ(センナ浸、蓖麻子油、カル、ス泉鹽等)發熱アル者ニハ臥褥ヲ命ズ、疼痛甚ダシカラズ鼓膜ノ潮紅、輕度ノ腫脹アルモノニハ棉花ヲ以テ外聽道ヲ閉チブリースニツツ氏器法ヲ行フ劇痛アルモノニハブロー氏液ノ温巻法ヲ用ユ温巻法ヲ用ユルモ尙ホ疼痛ノ甚ダシキハ鼓膜穿孔術ヲ施スベシ外聽道ノ洗滌ハ炎症ノ緩解後之レヲ行フベシ乳嘴突起ノ炎症アルトキ并ニ腦症アルトキハ外科的手術ヲ要ス

アロー氏液
右温巻法料用法二時間ガーゼヲ
取り替へテ耳及乳嘴突起部ヲ温

四〇〇・〇
三%硼酸水

四〇〇・〇

急性中耳炎

右洗滌料
尙ホ通常同時ニ鼻加答兒及ビ咽喉加答

見ニ適當ノ療法ヲ施ス可シ

慢性中耳炎

Otitis media chronica.

オチチス、メジアンクローニカ

原因 專ラ急性症ヨリ轉スルモノナルガ故ニ急性症ニ同ジ
診候 習慣性耳漏、重聽等ヲ發シ急性炎ニ類スル發作ヲ發ス
療法 分泌物ヲ洗去シ硼酸末若クハ明礬末ノ吹入ヲ處ス(急性炎參照)

外聽道炎

Otitis externa.

オチチス、エキステルナ

原因 醜膿菌ノ侵襲ニ因ル
診候 局處性(外聽道癰瘍)ニアリテハ皮膚潮紅、腫起、疼痛ヲ發シ其頂點ニ黃色ノ膿點ヲ現ハシ次デ破潰排膿ス初期ヨリ破潰ニ至ルマデ疼痛劇甚ニシテ不眠症ヲ發スルコト少カラズ而シテ屢々數個相續テ發生ス
○汎發性ノモノハ緊張、灼熱、搏動、耳鳴、劇痛ヲ伴ヒ口ヲ開クトキハ更ニ疼痛ヲ増ス通常三四日ノ後諸症輕快ニ向フモノトス分泌ハ初メヨリ増加シ漿液性ヨリ漸次膿性トナル
療法 外聽道癰瘍ニアリテハ速カニ切開シ防腐的ニ處置スベシ、患者切

開ヲ忌ムトキハ水銀石炭酸硬膏ムルノ小片ヲ貼シ或ハ單ニ水銀硬膏或ハ石炭酸水ニ浸シタル栓塞ヲ施スベシ
汎發性ノモノニハ一〇%醋酸礬土水或ハ一〇%酒石酸醋酸礬土ニ浸シタル綿花栓塞ヲ施シブリースニツツ氏器法ヲ行ヒ安靜ヲ命ズ又タ充血ノ劇甚ナルモノニハプロー氏液ノ温器法ヲ用ユベシ(急性中耳炎參照)
而シテ分泌ヲ減ズルニハ硼酸水ノ洗滌ヲ行ヒ硼酸末ヲ吹入スベシ
一〇〇〇
右微温トナシ外聽道ニ注入シ十分ノ後流出セシムベシ一日三回
醋酸礬土液
四〇〇〇

卵巢囊腫

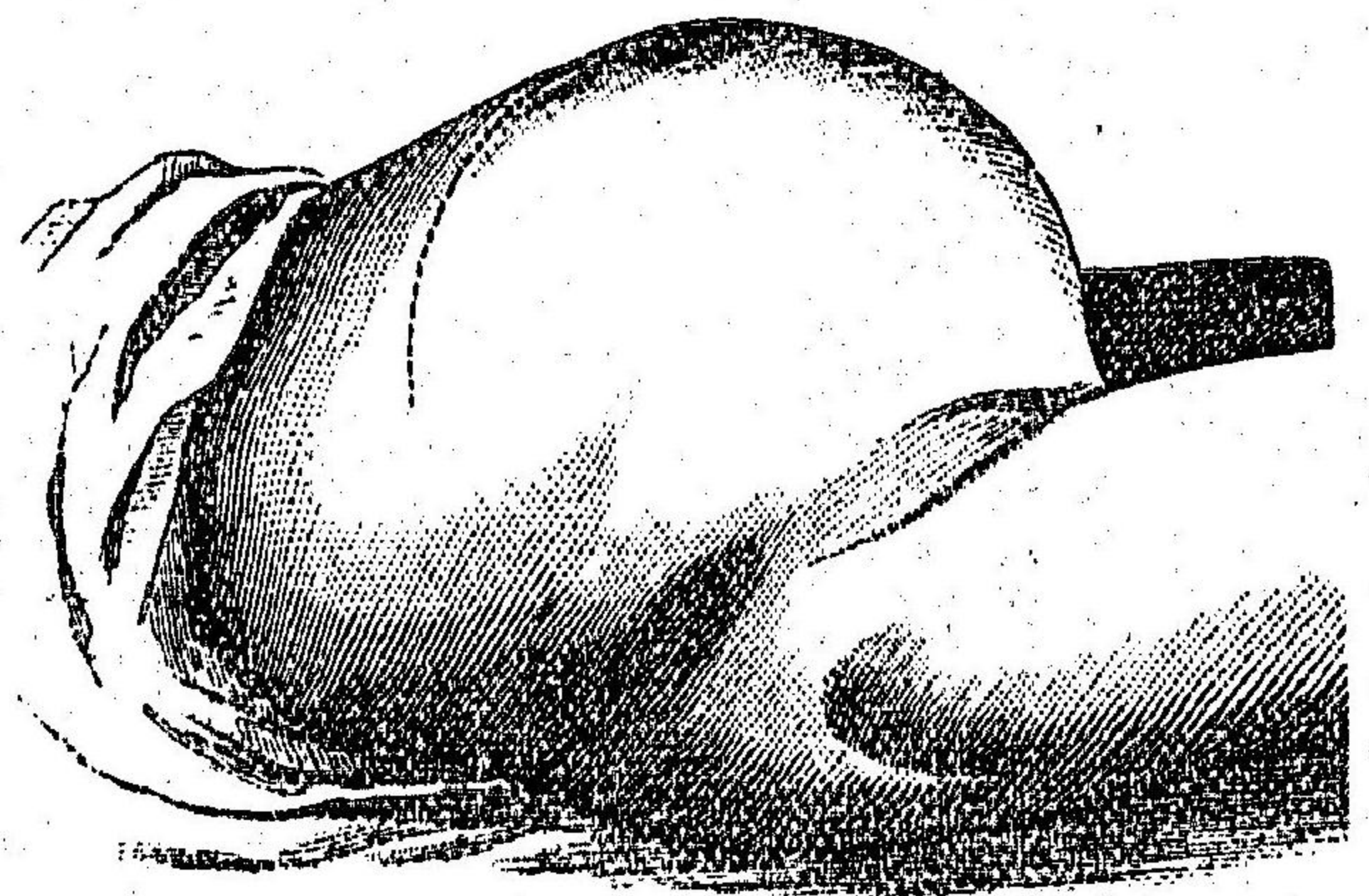
Ovarialkystom.

オヴァリールキストーム

診候 患婦始メニ床中急遽體位ヲ變ズルノ際下腹内ニ球ノ轉ズルガ如キ感ヲ覺エ次デ腸骨部ノ腫瘤ヲ認メ漸次上方ニ増大シ遂ニ妊娠子宮ノ如クシテ平等ニ波動ヲ有ス打診ニハ各體位皆ナ腹前壁ニ濁音ヲ側壁ニ鼓音ヲ呈ス腫瘍ヲ移動スルコト大ナルトキハ子宮モ稍ヤ移動スルモ腫瘍ト子宮ハ固着スルヲナク子宮ノ大サ常ノ如シ大サ妊婦子宮ニ超ユルトキハ腸胃ヲ壓シ營養ヲ害シテ肺ヲ壓シ呼吸ヲ妨ゲ衰弱シテ死ス或ハ惡性腫瘍例令癌腫ニ變性シ惡液質ニ陥リテ忉ル又タ囊腫ノ破裂或ハ莖ノ

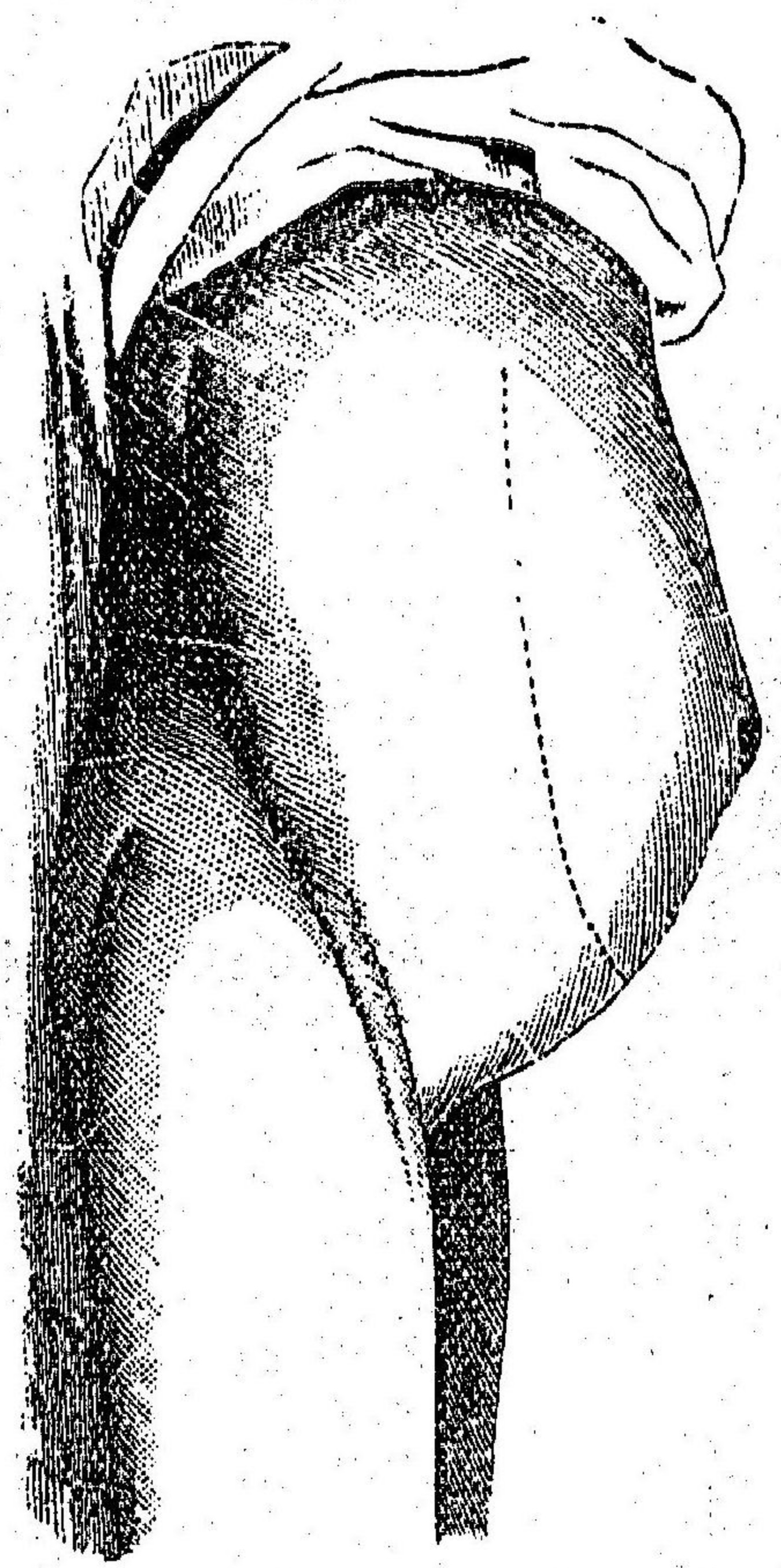
慢性中耳炎 外聽道炎 卵巢囊腫

第三十九圖



單房卵巢囊腫

第四十圖



腹水以下線點

卵巢囊腫

捻轉ニ由テ急性腹膜炎ヲ發シテ死ス

ヒステリー患婦ノ摸像腫瘍ハ打診音上鼓音ヲ呈シ麻醉中ニハ消失○腹水ニ在テハ仰臥ニ於テ打診音上方(即チ前壁)ニ鼓音、下方(即チ側壁)ニ濁音ヲ呈ス又タ側臥ニ於テハ上方ノ側壁ハ常ニ鼓音ヲ下部ハ濁音ヲ呈ス其他視診上腹水ニ在テハ前壁平坦ニシテ兩側ニ突隆シ(第三十九圖)囊腫ニ在テハ前壁突隆ス(第四十圖)

豫後 早期ニ卵巢切除術ヲ施ストキハ不良ナラザルモ其他ハ不良

療法 速カニ開腹術ヲ施シ卵巢切除術ヲ行フベシ他ニ重病アリテ之ヲ行フコト能ハザルモノニ於テ呼吸ヲ妨グルモノハ穿刺術ヲ行フ

蟯蟲

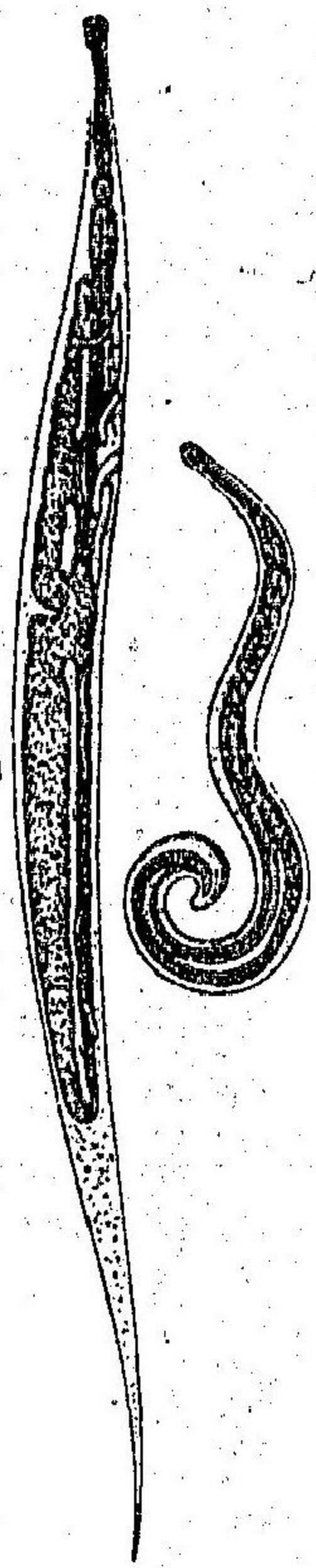
Oxyuris vermicularis.

オキシウリス
ウエルミクラーリス

原因 直腸及盲腸内或ハ腔内ニ寄生發育スル絲屑様ノ觀ヲ呈スル白色短小ノ圓蟲ナリ雌ハ長サ九乃至十三「ミリメートル」雄ハ三乃至四「ミリメートル」ニシテ腸蟲中ノ最小ナル者トス

診候 便中ニ蟲及其卵ノ發見、肛圍ノ瘙痒便意頻數、便通不整、小腹一定部ノ壓重及疼痛、腔粘膜ノ加答兒性潰爛等ナリ

第四十四圖



圖ノ雄雌蟲蟯

右方ニ在ルハ雄蟲ニシテ其自然大ハ四「ミリメートル」左方ハ雌蟲ニシテ十「ミリメートル」ノ長サヲ有ス雄ハ其尾尖ラズ雌ハ其尾尖レリ

豫後 良

療法 豫防法ニハ手殊ニ爪ノ清潔法ヲ嚴ニス可シ○冷水ノ灌腸ヲ以テ治効ヲ奏スルコト屢々之レアリト雖モ亦之レニ藥劑ヲ加入スルヲ宜シトス○治方中最モ賞用スル所ノ者ハ乳汁ニ混和セル大蒜末ノ灌腸ナリトス其他石灰水、食鹽溶液或ハ石炭酸水(各百乃至二百倍ノ者)ノ灌腸ヲ行フ等

蟯蟲

肝油 四〇・〇
 卵黃 一個
 縮水 一六五・〇
 右藥劑トシ灌腸一回分、本法無効ナルニ於テハ更ニ唯肝油ノミヲ用キテ第二回ノ灌腸ヲ行フ可シ
 藥用石鹼 五・〇
 縮水 一〇〇〇・〇
 右調和八日間毎日一回一半乃至三リリテ「灌腸量」トス

水銀軟膏 三・〇
 右肛圍塗擦料（肛圍癢痒アルトキ）
 水銀軟膏 〇・二—〇・三
 カ、オ脂 四・〇
 右坐藥トシ毎夕一筒宛
 肝油 五〇・〇
 卵黃 一個
 縮水 一二〇・〇
 右乳劑トシ灌腸二回分
 其他水銀軟膏一萬倍昇赤ヲ用ユ

惡臭鼻漏

一名腦漏

Ozaena. オツエナ

原因 急性鼻加答兒ノ不衛生、微毒、腺病或ハ結核質ノ人ニ多シ
 診候 鼻粘膜ノ腫起、灰白變色、靜脈怒張及分泌物ノ惡臭等ナリ
 豫後 原因異ナルニ從テ一定セズ
 療法 單純ノ慢性分泌過多ナル鼻加答兒ニハ嗅入水ヲ用キ或ハ温「アル

テアル煎ノ注入ヲ行フ可シ〇成形過多性及萎縮性ノ者ニハ百倍ノ食鹽溶液ヲ注入シ痲皮ヲ除去ス可シ又紅熱ヲ應用スル「有リ〇微毒、腺病等ノ原因療法ヲ行ヒ又壞疽性骨片、息肉等ノ有無ヲ搜ル可シ嗅入水ヲ用ユルニ當リテ鼻中潰瘍ノアル者ニハ其點注法ヲ最モ適當ナリトス

クロール酸カリウム 二〇・〇
 白糖 二〇・〇
 右研和細末ニ作り紙盒ニ入レ毎日二回嗅入用
 明礬末 五・〇
 白糖 二〇・〇
 右調和用法同上
 ザロール 一〇・〇
 サリチール酸 〇・二
 タニン酸 〇・一
 硼酸 四・〇
 右嗅入料（毎時嗅入但シ半日ヲ超ユルヲ許サズ）
 樟腦末

白糖 各一〇・〇
 右調和用法同上
 ロードフォルム 〇・二
 アラビアゴム末 一〇・〇
 右混和細末ニ作り嗅入用毎日三乃至五回（鼻腔洗滌後ニ用ユ）
 ヨドール 二〇・〇
 右研和末ニ作り嗅入料
 ヨードフォルム 〇・三
 ワゼリン 三〇・〇
 右調和軟膏ニ作り鼻腔内塗布
 クロール石灰 五・〇
 縮水 五〇〇・〇
 右調和嗅入料

惡臭鼻漏

クロール酸カリウム 五〇〇
 右調和吸入料 五〇〇
 ヨードカリウム 二〇〇
 ヨード 〇〇一
 右調和吸入料(殊ニ微毒性) 五〇〇
 苛性アンモニア水 各五〇
 石炭酸 一五〇
 再餾酒精 一〇〇
 右調和毎回五滴ヲ吸墨紙ニ點シ
 テ之ヲ吸入セシム
 サリチール酸 四〇
 硝砂 六〇
 グリセリン 七五
 右調和一茶匙ヲ一杯ノ水ニ和シ

テ注射或ハ含嗽ニ用ユ
 過マンガン酸カリウム 〇〇二
 右調和吸入用 五〇〇
 ベタ、ナフトール 六〇
 クイルラヤ丁 四四
 右調和棉花製栓塞ニ製シ鼻中ニ
 挿入シテ十五分間放置ス
 錯酸酒石酸礬土 各一〇〇
 右調和用法同上
 鹽剝 四〇
 グリセリン 二〇〇
 右調和洗滌用後、グリセリン二五
 〇〇ノ液ニ浸シタル綿
 製栓塞ヲ行フコト一時間

ソゾヨドール亞鉛 一〇
 グリセリン 各一〇
 右塗布料(強度ノ腫脹及分泌)
 鹽酸コカイン 一〇
 右調和用法同上
 チモール 〇二五
 右調和注入用 一〇〇
 クレオソート 二〇
 グリセリン軟膏 五〇
 右調和軟膏ニ作ル
 微毒性或ハ腺病性ニハ「ヨードカリウ
 ム」鐵劑等ヲ内服セシム可シ
 石炭酸 五〇
 再餾酒精 一五
 苛性アンモニア 五〇

右調和二三滴ヲ吸墨紙ニ點シテ
 之ヲ吸入セシム(共栓或ハ栓蓋
 瓶中ニ貯フベシ)
 イヒチオール 一〇
 蓖麻子油 二〇
 酒精 一〇
 右調和吸入用 一〇〇
 結晶硝酸銀 〇一乃至〇五
 適宜
 右調和桿錠十個ニ作り鼻「プ
 シ」トナス(徹夜鼻内ニ挿置
 スベシ)
 硫酸銅 〇一乃至〇三
 適宜
 右調和製作用法同上
 アリストール 五〇
 右吸入料

癰疽

Panaritium.

パナリチエーム

原因 指趾足蹠手掌ノ小創ヨリ膿膿球菌ノ侵入ニ因ス

診候 趾蹠面或ハ指掌面ノ腫起、緊張、劇痛及ヒ炎症ノ皮下蔓延等ナリ動モスレバ腱鞘炎ヲ起スコトアリ

豫後 良

療法 可及的初期ニ防腐切開法（細キ護膜管ヲ以テ指ヲ緊縛シ一%コカイン水一筒ヲ指根部ノ前後左右ノ四ヶ處ニ分チテ注射シ五分間ヲ經テ切開スルヲ可トス又夕價ノ高キヲ壓フコトナクンバ「エチールクロリド」ノ局處麻醉ヲ用ユ施シテ組織ノ緊張ヲ減ジ且ツ排膿ヲ便ナラシム可シ而シテ安靜副木或ハ擔布ヲ用ユ○腐敗性癰疽（傳染ニ因ル）ハ之ヲ切開シテ百倍ノ昇汞ヲ用キテ腐蝕シ而シテ繃帶ヲ施ス可シ

角膜パンヌス

Pannus.

パンヌス

原因 過半結膜「トラホーム」ニ續發ス其他腺病性結膜炎、乳嚙充血性加答兒等

診候 角膜ノ上縁ニ始リ下方ニ蔓延スル角膜ノ血管新生表層炎ナリ漸次ニ濁濁ノ潰瘍或ハ顆粒滲出ノ地トナル其ノ外觀上新シク薄キモノ（淡性）血管ニ富メルモノ（血管性）肥厚シテ肉様ナルモノ（肉性）肉芽様ナルモノ（肉芽性）等アリ

豫後 虹彩炎潰瘍等ヲ發セサレハ良

療法 其原因「トラホーム」ニ在ルヤ或ハ腺病性結膜炎ニ在ルヤヲ明ニシ甲ニ在テハ硫酸銅ヲ用キ乙ニ在テハ刺戟ノ過敏ナル者ニハ「アトロピン」ヲ用キ是ニ反スル者ニハ甘汞ヲ用ユ可シ○陳舊ノ「パンヌス」或ハ粘膜ニ「トラホーム」性ノ贅生物ヲ發セザル者或ハ結膜ノ癢痕性收縮ニハシグレ氏ノ噴霧器ヲ用キテ藥液ヲ撒布スルカ或ハ人工膿漏術ヲ施シ或ハ「ゼクイリチチ」浸ノ洗滌ヲ行ヒ或ハ角膜周擁切除術、亂刺術、燒灼法等ヲ施スコトアリ

サオニン	〇・一—〇・三	溜水	二五・〇
ワセリン	各五・〇	右調和撒用布	一・〇
ラノリン	各五・〇	硫酸銅	二〇・〇
炭酸ナトリウム	一・〇	溜水	二〇・〇
		右調和撒用布	

癰疽 角膜パンヌス

硫酸銅	一・〇〇	ワゼリン	八・〇〇
グリセリン	二〇・〇〇	右混和一日一回點眼料	
右調和用法同上		黃降汞	〇・一
硝酸銀	〇・四	ワゼリン	一〇・〇
錯鉛	八滴	右點入ニ兼テ按摩ス	

全眼球炎 Panophthalmie. パノフタルミー

原因 外因(損傷、手術、角膜潰瘍等)内因(産褥、敗血症、膿毒症、靜脈炎、心臟内膜炎、肺炎、腦膜炎等)ニヨリテ來ル

診候 眼瞼ノ腫起潮紅、眼球ノ突出、堤狀腫起、角膜ノ濁濁前房水ノ濁濁(時トシテ萎膿)ヲ起シ眼球ハ運動欠損シ劇甚ノ疼痛、嘔吐發熱等アリ

次デ膿ハ角膜或ハ鞏膜ヲ穿通シテ外方ニ破開シ諸症狀頓ニ緩解シ遂ニ眼球癆ニ陥ル全經過約六週間トス

豫後 不良ナリ

療法 豫防法必要ナリ既ニ發シ劇痛アルモノニハ莫比及ヒ水蛭(顳額部)貼用緩下劑ヲ投スベシ或ハ外直筋附着部ト下直筋附着部トノ間ニ於テ鞏膜ヲ切開スルカ眼球内摘出術ヲ施スモ宜シ已ヲ得ズンハ眼球摘出ヲ

施スコアリ

麻痺 Paralysis. パラリシス

原因 腦脊髓系統ノ栓塞、血栓、腫瘍、軟化、頭骨ノ疾病、鉛中毒、脊髓硬結或ハ卒中、脊椎骨瘍、反射的刺戟、及ヒ神經ノ壓迫坐傷、出血、感冒、窒扶斯、微毒、結核、ヒステリー、急性發疹等ナリ

診候 全身、半身若クハ局部ニ現ハル、隨意筋ノ運動廢止該部ノ厥冷、脂肪變性、神經萎縮等

療法 普通本病ノ原因トナルベキ事項ニ注意シテ之ヲ除キ而シテ大抵温浴及ビ蒸氣浴ヲ用キテ効有リ然レモ冷水灌漑或ハ冷水浴法ノ却テ其効ヲ奏スル場合モ少ナカラズ其他ニハ飲食ノ攝生、電氣療法、適當時期ノ按摩法「モール」越幾斯浴ヲ行フベシ

硝酸ストリキニー子 〇・一 右調和丸二十粒ニ作り一日三回 每一粒

クロロフォルム 三〇・〇

右調和塗擦料

蕃木甕越 〇・二 白糖 〇・〇二

葛蒲根末及同越 各適宜 右研和散五包ニ分チ一日三回毎

全眼球炎 麻痺

一包

硝酸ストリキニーチ

〇・〇五

餾水

右皮下注射用一日三回十滴

三・〇

振顫麻痺 (バルキンソン氏病)

Paralysis agitans.

パラリージスマギタニス

原因 四十年以上ノ人ニ來ル病ニシテ脊髓硬變、卒中、脊椎骨瘍、感冒、精神感動、神經損傷、火傷、窒扶斯等ナリトス

診候 當初ハ右手次デ四肢隨意筋運動ノ漸次(手腕、膊等最多)減損、肢筋ノ振顫運動ヲ起シ筋強硬シテ面貌不變トナリ頭首前ニ傾キ四肢軀幹ノ筋モ亦強硬シテ特異ノ姿勢ヲ呈スルニ至ル其他患者ノ歩行狀態ハ極メテ奇異ナリ(前歩症)

豫後 不良ニシテ治シ難シ

療法 原因療法ヲ專ニシテ冷水療法電氣療法或ハ按摩法ヲ行フ可シ

亞砒酸カリウム液

二・〇

右調和丸四十粒ニ作り石松子末

餾水

四・〇

チ衣トナシ朝夕毎二粒

右調和毎日半筒皮下注射

〇・〇二

ヒヨスチヤミン

〇・〇二

ウエラトリン

〇・〇二

甘草末及同煮

各適宜

甘草末同煮

各適宜

右調和丸二十粒ニ作り石松子末

チ衣トナス一日二回一乃至二粒

硫酸アトロピン

〇・〇〇五

餾水

右毎日一筒皮下注入料

一〇・〇

進行性麻痺狂

Paralysis progressiva

パラジージスプログレスィワ

原因

微毒、精神身體ノ過勞、感冒、過房、飲酒過度高齡ニ發スルヲ常トス

診候

神經衰弱、言語蹉跌、瞳孔強直、膝蓋髓反射消失(初期ニハ亢進)誇

大妄想、癲癇又ハ卒中様發作、鬪牙、計算能力不全、書字振顫、運動失

調、膀胱直腸障礙

豫後

治癒スルモノ殆ンド稀ナリ

療法

前驅期ニ在テハ殊ニ心身ノ勞働ヲ禁ズベキモノナルガ故ニ全ク其

職業ヲ廢シ精神ヲ安逸ニシ酒色ヲ戒メ而シテ空氣ノ善良ナル地方ニ退

キ閑散ナル生活法ヲ營マシム可シ○原因療法ヲ眼目トス就中藥石ニハ

「ヨード」及ビ臭素「カリ」ヲ與ヘ頭痛ニハ冷罨法ヲ行ヒ或ハ「ゴデイン」

ヲ投ジ不眠ニハ麥酒或ハ「バラアルデヒード」其他ノ催眠劑ヲ與ヘ又持

長浴或ハ温包等ヲ試ムベシ興奮ノ甚シキ者ニハヒヨスチヤミン、タン

ニン酸、カンナビン等ノ内服或ハ「ヒヨスチヤミン」ノ皮下注射ヲ行ヒ

癲癇様及ビ卒中様發作ニハ冷罨法及適當ノ方法ヲ撰ビ發作頻數ナルモ

振顫麻痺 進行性麻痺狂

五〇三

ノニハ抱水「クロラール」ヲ用キ既ニシテ麻痺甚シキ者ニハ皮膚ノ清潔
法ヲ嚴ニシ嚙下困難ニハ其飲食ニ注意シテ只液狀食物ノミヲ與ヘ胃腸
ノ通利ヲ計リ不眠ヲ調整スルヲ最良トス

腦性痙攣性小兒麻痺

Paralysis infantilis spastica
cerebralis.

パラリジス、インフアンチリス、スパスチカチエレブラーリス

原因 四歳以下ノ小兒ニ發シ、急性發疹病、耳下腺炎、百日咳、チフス
等ニ繼發シ或ハ外傷、微毒ニ因ス、

診候 健全ナリシ小兒突然發熱嘔吐、昏瞶シ搖擲ヲ發シ一兩日又ハ一二
週後昏瞶ヨリ覺醒スレバ半身不隨ヲ殘ス麻痺筋ハ週月ノ後硬直及拘攣
ヲ起シ、腱反射亢進ス、知覺障礙ナク變性反應ヲ缺如ス、

豫後 生命上ニハ良ナレドモ病變ハ治癒シ難シ、

療法 初期ニハ安靜ニシ、耳後ニ水蛭、頭部ニ氷囊ヲ貼シ、甘汞ゼンナ
葉等ノ下劑ヲ投ズ、搖擲甚シケレバ抱水クロラール、臭剝等ヲ用ヒ、
遺殘セル麻痺ニハ按摩法電氣療法ヲ施シ、兼テ身體ノ強壯法ヲ行フ

甘汞

白糖

〇・三

大黃末

各〇・〇六

右爲一包毎三時一包宛奏效迄

抱水クロラール 〇・五—一・五
餾水 一〇〇・〇
右分二回洗腸料

橙皮舎 一五〇・〇
餾水 二〇〇・〇
右毎三時一小兒匙宛

臭剝

一・五—三・〇

偏執狂

Paranoia.

パラノイア

妄想狂

Verrücktheit.

フェルリユククトハイト

原因 遺傳及ヒ兩親ノ大酒ヲ主因トス、誘因ハ饑餓、長期間ノ授乳、慢性
胃病、結核、頻回産褥、失血、房事過度、間歇熱、窒扶斯、急性關節癱麻質
斯、肺炎、精神過勞、驚愕、苦心等ナリ

診候 幻覺、妄想觀念ヲ以テ主徴トナス幻覺ナクシテ錯覺ノ存スルコト
アリ或ハ幻覺ニ錯覺ヲ伴フコトアリ妄想觀念ハ追跡妄想、誇大妄想ヲ
多シトシ時トシテ心氣妄想、罪業妄想アルコトアレトモ蓋シ尠ナシ區
別シテ急性幻覺性妄想感覺障害、聯合障害、感動障害、妄想觀念昏迷、然
ラザレバ激越ヲ呈スルモノニシテ初メ不眠、頭痛、眩暈、耳鳴、眼火閃
發過敏或ハ抑鬱或ハ恐怖ヲ發スルコト一日乃至二日ニシテ俄然幻覺蜂
起シ其種類ニ從テ或ハ昏迷ノ狀ヲナシ或ハ激越ノ狀ヲナスコト三乃至

腦性痙攣性小兒麻痺 偏執狂

九ヶ月ニシテ八乃至十時間ノ間ニ諸症全ク消散シテ治シ或ハ漸次治ニ赴キ或ハ叡智ノ減少ヲ殘シ或ハ癡狂ニ陥リ死去ス。○慢性幻覺性妄想狂諸症（急性ニ同ジキモ其發生極メテ慢性ニシテ特ニ幻聽ヲ發シ聯合及ビ感動障害ハ通常著明ナラズ）○急性單純性妄想狂（原發性多數ノ妄想觀念ヲ有シ無限ノ誇大妄想及追跡妄想等ヲ發シ妄想固着スルコトナクシテ轉變極リナク多クハ一二週ニシテ全治スルヲ常トス）○慢性單純性妄想狂（前驅期ハ一二ヶ月稀ニハ數年ニシテ初メ不眠症ヲ發シ不安ヲ感シ他人ノ舉動言語ヲ窺ヒ狐疑ヲ發ス次デ追跡妄想期ニアリテハ追跡妄想固着シ次デ誇大妄想期ニ達シ追跡妄想ニ兼ヌルニ誇大妄想ヲ發シテ妄想系統ヲ作り次デ似非麻痺狂ニ至ル

豫後 一般ニ不良ナリ

療法 慣レタル四圍ノ境遇ヨリ遠サケ精神ノ轉向療法ヲ眼目トシ適宜ノ作業ニ從ハシムルヲ良トス其他ハ對症療法ニ待ツヘシ就中患者ヲシテ自己ニ疾病アルヲ悟ラシメンカタメ藥劑ハ一日三回必ズ鹽里母乃至キナ丁幾劑ヲ分服セシムルヲ必要トス

嵌頓包莖

Paraphimosis.

バラチフス

原因 口徑狹隘ナル包皮、龜頭ノ後方ニ退縮シテ再ビ舊位ニ復セザルヨリ起ル

診候 嵌頓部ノ腫起變色疼痛或ハ之ニ加フルニ間々龜頭ノ壞疽等ヲ來タスヲ有リ

療法 嵌頓セル包皮内板ノ腫脹程度ナル者ハ直チニ之レヲ整復シ若シ其甚シキ者ニ遇ハバ先ツ水平位ニ仰臥セシメ鉛水、クロール酸カリウム水等ノ冷罨法ヲ行ヒ炎症ノ稍々減退スルヲ待テ之ヲ整復スベシ若シ背面ニ嵌頓シ甚シキ者ナルトキハ其部ヲ切開スルヲ宜シトス

鉛水 二〇〇・〇 — 二%硼酸水 二〇〇・〇
 右罨法料 右罨法料
 フロー氏液 二〇〇・〇 右ニ法ハ整復シタル後ニモ亦罨法水且
 右罨法料 ツ洗滌劑トシテ用ユ

パラチフス

Paratyphus.

バラチフス

原因 バラチフス菌ノ傳染ニヨル之ニA及Bノ二型アリ
 診候 本病ハ主トシテ輕症腸窒扶斯樣症候ヲ呈シ臨床之上ト區別スルコ

嵌頓包莖 パラチフス

トヲ得ズ、徐々ニ發生スルモ屢バ惡寒戰慄ヲ以テ發病スルコトアリ、熱ハ多クハ弛張ス、本病患者ノ血清ハバラチフス菌ニ對シテ特異ノ凝集反應ヲ呈スルニヨリテ腸窒扶斯ト鑑別ス

豫後 概シテ良

療法 腸窒扶斯ノ條下ヲ見ヨ、

耳下腺炎

Parotitis.

パロチチス

原因 特發流行性ノ者ハ春寒秋冷ノ候ニ起リ續發性ノ者ハ口腔加答兒、顏面丹毒等炎症ノ波及或ハ窒扶斯、急性發疹、膿毒症、癌腫、結核等ヨリ來ル

診後 大抵片側耳下腺部ノ牽引性疼痛、腫起、咀嚼困難、耳下腺ノ化膿等、但シ通例皮膚ヲ侵サバルモ流行性ノ者ニ非ラズシテ熱性病ニ於テ續發性ニ來ル者ハ化膿破潰スルガ故ニ皮膚ヲ侵ス者ナリ

豫候 良

療法 濕溫器法ヲ行ヒ唯炎症及ビ疼痛ノ甚シキモノニ冷器法ヲ行フ其他ニハ酸性飲料及ビ下劑ヲ投ジ化膿セル時ニ於テハ切開シテ後石炭

酸溫器法ヲ行フヲ宜シトス

ヨードフォルム	一〇〇	石炭酸	五〇〇
純ヨード	一〇〇	鹽水	二〇〇〇
緩和軟膏	二〇〇	右調和溫メテ石炭酸綿紗ニ浸シ	
右調和軟膏ニ作り貼用		器法ニ用ユ	
ラノリン製水銀軟膏	一〇〇	炎症後硬結ヲ殘セルモノニハ左方	
右塗擦用		ヨードフォルム	一〇〇
灰白レゾルチン	一〇〇	ワセリン	三〇〇
右塗擦用		薄荷油	三滴
石鹼硬膏	一〇〇	右調和塗擦用	
右布片ニ攤シ貼用		其他發熱アルトキハ解熱劑ヲ投ズ	

夜驚症

Pavor nocturnus.

ハウオルノクツルヌス

原因 腸胃病、扁桃腺肥大、癲癇、精神激動等三年乃至六年ノ小兒ニ多シ
診候 睡眠後一二時間ヲ經テ突然醒覺シ、心悸亢進、恐怖ヲ發ス而シテ暫時ノ後(十五乃至二十分)發作止ミ安眠ス患者之ヲ記憶スルコトナシ
豫後 良

耳下腺炎 夜驚症

療法 其原因ヲ求メ之ヲ除クコトヲ務メ左方ヲ處ス

アロームカリウム 〇・五 其他抱水「クロラールキニーネ」ヲ投シ
白糖 〇・三 ヲ効アリ

右臨臥頓服

頭虱 Pediculi capitis. ヘチクリ、カビチス

療法 灰白軟膏或ハ白降汞軟膏ニ同量ノ「ワゼリン」ヲ混ジ全頭髪部ニ塗

擦シ綿帕ヲ以テ之ヲ被ヒ一日ノ後石鹼ヲ以テ洗去スベシ、而シテ死卵
ヲ除去スルニハ梳櫛ニ温酢ヲ浸シ反覆梳去スベク濕疹ハ後チニ療セヨ
五%ナフトール軟膏 一〇〇〇 ヘルパーサルサウム 各一〇〇〇

右外用

石臘油 二〇〇〇 右調和塗擦後布片ヲ以テ一日間
オレーフ油 頭ヲ包ミ次テ「カリ」石鹼精ヲ用
キテ之ヲ洗滌スベシ

服虱 Pediculi vestimentorum. ヘチクリ、
ウエスチメントールム

療法 被服ヲ煮沸シテ後洗滌シ之ヲ清ムベシ是レガ爲ニ皮膚ニ發生シタ
ル濕疹ハ石鹼ヲ以テ洗滌シ後油劑ヲ塗擦スレバ消散スルモノナリ

天疱瘡 Pemphigus. ペンフケグス

原因 未詳、小兒ニ多シ

診候 大水疱ノ發生ニシテ其内容始メハ透明漿液狀、後チ膿様トナリ自
潰シテ濕潤面ヲ呈シ終ニ新生ノ表皮ヲ被ムル、急性、慢性及葉狀天疱瘡
等ノ別アリ

豫後 概チ不良

療法 散在性ノ者ニハ散布藥ヲ用テ、密發性ノ者ハ之レヲ切破シ痂皮ヲ
生ジテ表皮ノ缺損シタル者ニハ緩和軟膏ヲ貼用シ、皮膚ノ發炎セル者
ニハ冷濕法ヲ行フベシ、普通性天疱瘡ニハ温浴ヲ擇ビ又葉狀天疱瘡ニ
ハ持久浴、痒疹性天疱瘡ニハ持久「タール」ヲ行フベシ

糠皮 五〇〇 ウイオホルム 五〇〇
右水ヲ以テ煎出シ浴湯ニ加フ 次硝蒼 一〇〇〇
昇汞 五〇 ラノリン 七〇〇〇
餾水 二〇〇〇 オレーフ油 一〇〇〇〇
右調和浴湯ニ加フ 右軟膏トナス

頭虱 服虱 天疱瘡

心囊炎

Pericarditis.

ハルカルヂチス

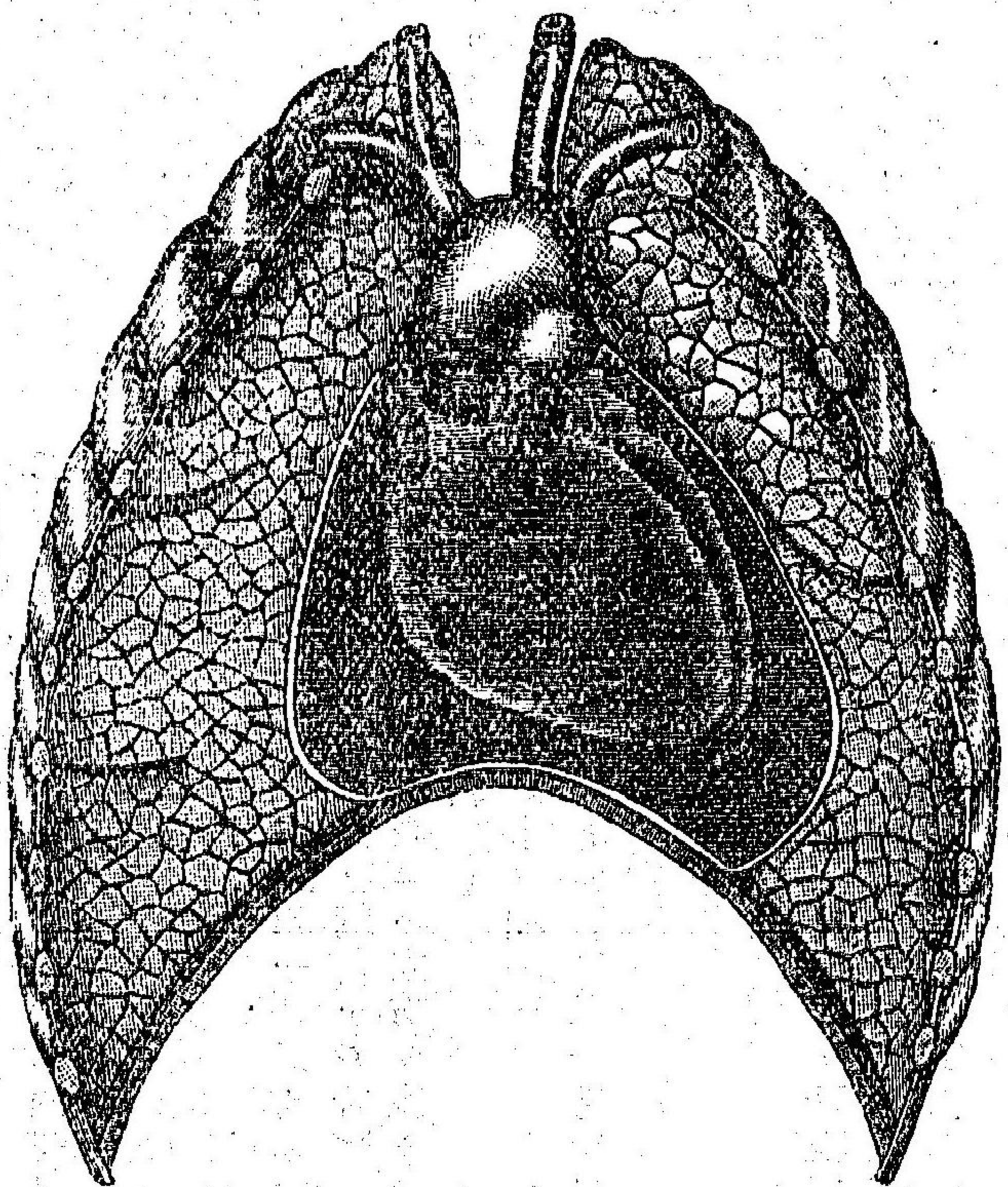
原因 特發ハ稀有ニシテ多クハ急性關節癱瘓質斯、肺炎、肋膜炎、癌腫、結核、比隣臟器炎症ノ波及、窒扶斯、丹毒、痘瘡、猩紅熱、膿毒症、武電篤氏病、壞血症、敗血病等ニ繼發ス二十以上四十年ノ人ニ多シ

診候 心臟底部ノ摩擦音濁音部ノ擴張シテ三角形尖端上方ニ向フ心尖搏動ハ心濁音内ニ存シ、搏動微弱心音幽微ナリ其他惡寒、心悸亢進、體溫昇騰、脈搏增加心部ノ隱痛及ヒ尿中ノ蛋白發見等ナリ

豫後 概テ良ナリト雖モ頓死ノ虞ナキニ非ラズ○二日乃至三週ノ經過ヲナス

療法 極メテ安息靜止ヲ守ラシメ熱候ニハ其對症療法ヲ行フ可ク即チ心臟部ニ冷卷法ヲ行ヒ、心悸亢進ニハ「チギタリス」「ストロファンツス」「カフエイン」ヲ投ジ、便ヲ整理シ劇痛ニハ「モルヒチ」ノ皮下注射ヲ擇ビ、滋養物ヲ與ヘ鐵劑等ノ強壯劑ヲ用キ、滲出物ノ存在スル間ハ必ラズ靜臥セシメ又滲出物ノ增加速ニシテ生命ノ危險ナルトキハ心囊穿刺術ヲ施スベシ○其他解熱劑及利尿劑ヲ投ズルコトアリ

第 四 十 二 圖



心囊滲出物ノ圖
(胸廓斷面)

心囊炎

撒曹 五〇〇
 單會(覆盆子會) 二〇〇〇
 留水 一八〇〇〇
 右每二時一食匙
 ギギ浸 (二〇〇)一八〇〇〇
 單會 二〇〇〇
 右調和每時一食匙
 ギギ浸 (二〇〇)一五〇〇〇
 醋酸カリウム 二〇〇
 單會 一五〇〇
 右調和每一食匙
 ギギ末 一〇〇
 硫規 〇〇八
 白糖 二〇〇
 右十包ニ分チ一日三回每一包
 ストロファンツス丁 二〇〇〇
 右一日三回十五乃至二十滴
 カフェイン 二〇〇

留水 一〇〇〇
 右一日二乃至四回半筒乃至一筒
 宛
 杏仁水 五〇〇
 ギギ丁 一〇〇
 右調和一日二回每十滴(心悸亢進ノ劇甚ナル時)
 心臟衰弱ニハ左方ヲ處シテ効アリ
 樟腦 一〇〇
 オレーフ油 九〇〇
 右一日數回一乃至二筒宛
 樟腦 一〇〇
 エーテル 二〇〇
 オレーフ油 八〇〇
 右一日數回一乃至二筒宛
 滲出物殘留スル者ニハ左方ヲ處ス
 杜松實浸 (二〇〇)二〇〇〇〇
 醋酸カリウム水

海葱醋蜜 各二〇〇〇
 右調和每二時二食匙
 木賊煎 (二〇〇)一〇〇〇〇
 醋酸カリウム水 各一五〇〇
 海葱醋蜜 各一五〇〇
 右調和每二時一食匙
 醋酸アムモニウム液 五〇〇
 右每回十滴一椀ノ茶ニ混シ用ユ
 小兒 ニハ左方ヲ處スベシ

ギギ丁 五滴
 覆盆子會 一〇〇〇
 留水 五〇〇〇
 右調和每二時一茶匙
 ギギ浸 (〇〇三)一〇〇〇〇
 覆盆子會 一〇〇〇
 右調和每時一小兒匙
 ストロファンツス丁 一〇〇〇
 右一日三回每二乃至五滴

子宮外膜炎

Perimetritis. ヘルメトリチス

原因 子宮實質炎ノ波及或ハ淋毒菌醗膿菌ノ傳染等
診候 腐敗性子宮外膜炎ハ惡寒、高熱、嘔吐、下腹劇痛ヲ發シ滲出物吸收セラルレハ諸症減退シ滲出物化膿スルトキハ體温更ニ上昇シ自潰シテ膿ヲ漏シ或ハ然ラスシテ死ス、吸收ノ遲除ナルモノハ、便秘排尿困難ヲ來ス〇淋毒性子宮外膜炎ハ慢性ニシテ便通、交接、月經時ニ増進スルトコロノ下腹疼痛ナリ

子宮外膜炎

豫後 概予不良

療法 其急性期ニハ消炎法ヲ嚴重ニシテ褥中ニ安臥セシメ而テ或ハ鼠蹊部ニ水蛭ヲ放チ或ハ下腹ニ氷囊ヲ置キテ一日數回阿片丁幾ヲ與ヘ熱候消散後ニハ緩下劑ヲ用キ或ハ灌腸ヲ行フ○慢性ノ者ニハプリスニッツ氏卷法、坐浴、按摩等ヲ行フベシ

- 沃刺 二・〇
- 苦丁 三・〇
- 餽水 二〇〇・〇
- 右一日六回二日分服
- ヨードフォルム 三・〇
- ペルーパーサルサム 六・〇
- グリセリン軟膏 二四・〇
- 右調和外用（毎週二回栓塞ニ飽充シテ挿入）
- イヒチカール 二〇・〇
- グリセリン 二〇〇・〇
- 右外用（此液ヲ以テ濕シタル綿花「タンボン」ヲ毎日腔内ニ挿入
- ス可シ而シテ其際患部ノ方向ニ從フベシ）
- イヒチカール 一〇〇・〇
- 可溶性銀 五・〇
- グリセリン 一〇〇・〇
- 右同上
- イヒチカール 一〇〇・〇
- ワゼリン 一〇〇・〇
- 右爲軟膏下腹部塗擦
- ヨードフォルム 〇・二五
- カ、オ脂 適宜
- 右調和腔球一個ニ作り五個ヲ製シ前方ヲ用キザル日ニ外用

イヒチカール
カ、オ脂

〇・三
三・〇

右調和腔球一個量用法同上

發作性血色素尿症

Periodische Hämoglobinurie.

ペリオヂェッシェ、ヘモグロビヌリー

原因 不明、寒冷又ハ歩行後ニ發ス、又麻拉里亞、黴毒ノ素因トナルコトアリ

診候 發作性ニ惡寒戰慄ヲ以テ發熱シ、皮膚蒼白色ヲ呈シ發作中ニ排泄セル尿ハ血色或ハ暗赤褐色ニシテ血色素ノ反應ヲ呈スレドモ血球ヲ認メズ

療法 寒冷ヲ避ケ、歩行ヲ癱スベシ、黴毒又ハ麻拉里亞ノ疑アラバ其ノ療法ヲ施スベシ

骨膜炎

Periostitis. スリチヌチノス

原因 黴膿黴菌ノ傳染、外傷、腺病或ハ黴毒等ナリ

診候 急性ニハ劇熱、患部ノ劇痛腫起、潮紅或ハ化膿破壊○慢性ニハ骨膜頹敗或ハ却テ増生ヲ來タスト雖トモ疼痛少ナシ患部ハ表在骨ニ多ク主トシテ腫起ヲ認ルノミ

發作性血色素尿症 骨膜炎

豫後 概于良

療法 先ヅ「ヨード」丁幾或ハ「イヒチオール」軟膏ヲ塗り濕性防腐繃帶ヲ施スベシ○醜膿セル者ハ之ヲ切開シテ防腐繃帶ヲ施シ患肢ニ適當ノ位置ヲ取ラシメ且ツ固定スル等一般ノ治則ナリトス○慢性ノ者ニハ按摩法ヲ施シテ效アリ

沃丁 五倍子丁

各一〇・〇

右一日三回塗布料

腹膜炎

Peritonitis.

ペリトニチス

原因 子宮炎ノ波及或ハ産褥熱ノ傳染、感冒、流行性感胃、外傷、胃及腸潰瘍ノ穿孔、(穿孔性腹膜炎)比隣臓器炎症ノ波及、傳染諸病、腐敗性腎臓病、壞血病、腸箱頓、ヘルニア、便秘、結核等ヨリ來ル

診候 ○急性症ニ於テハ突然劇烈ナル腹痛、烈シキ嘔吐、吃逆、急速ノ脱力、四肢厥冷、脈搏細少頻數、呼吸淺表ヲ發シ、腹部壓痛、鼓腸、腹壁膨滿、緊張、肝濁音消失ス、惡寒熱發、煩渴、便秘アリ、多クハ數日中ニ虚脱又ハ吐糞症ニヨリテ死ス

○慢性症ハ本邦ニ於テハ殆ンド結核性ナリ、初期ノ病狀甚ダ不定ニシテ只下腹痛、消化障碍等ヲ現ハスノミ、腹部疼痛又ハ壓痛ハ全ク缺如シ或ハ微痛ヲ存シ、腹部膨滿、全腹壁硬固、大小結節等ヲ觸ル、患者漸次羸瘦弛張熱ヲ發スルコトアリ、陳舊肋膜炎ヲ合併スルコト多シ、豫後 不良

療法 ○急性症ニハ身體及腸ノ絶對的安靜ヲ要ス、二三日間ハ口ヨリ食物ノ攝取ヲ止メ、煩渴ニハ只氷片ヲ含マシメ、下劑及浣腸ヲ禁ズ、阿片ハ腸ノ蠕動ヲ制止スルノミナラズ疼痛及不安ヲ軟ゲ、渴ヲ醫シ、嘔吐及吃逆ヲ減ズルノ効アリ、腹部ニ氷巻法若クハ温巻法ヲ施ス、心臟衰弱ニハ「ヂギタリス」ヲ與ヘ「カンフル」油ノ注射ヲ行フ、穿孔性腹膜炎ニハ直チニ開腹術ヲ行フベシ

○慢性症ニハ易消化、強壯性食餌ヲ與ヘ、腹部ニハプリースニッツ巻法、肝油、水銀軟膏等ノ塗擦ヲ行ヒ、食慾便通ニ注意シ、結核性ニハ「クレオソート」ノ内服及加里石鹼塗擦ヲ施ス、開腹術ニヨリ著効ヲ見ルコトアリ。

阿片越

〇・三

右十包ニ分チ毎二時一包

白糖

二・〇

レゾルチン

二・〇

腹膜炎

阿片丁	十五滴	セルテル水	三〇〇〇
單舎	二〇〇〇	鹽酸コテイソ	〇〇六
鹽水	一八〇〇	右一日六回二分	
右黑色瓶ニ著ヘ毎二時一食匙		右調和滴劑	
鹽酸コカイン	〇〇三	吃逆ノ頻發セル者ニハ「モルヒネ」ノ内	
白糖	三〇〇	服或ハ皮下注射ヲ用キ頑固ナルモノニ	
右爲十包毎二時或ハ毎三時一包		ハ輕ク「クロ、フアルム」ノ麻醉法ヲ利	
罂粟乳劑	二〇〇〇	用シ高度ノ鼓脹ニハ腹部ニ「エーテル」	
杏仁水	一五〇〇	ヲ點シ慢性マダ子シウム或ハ石灰水ヲ	
鹽莫	一〇〇	内服セシメ直腸内ニ導泄管ヲ送入シ置	
右調和毎時一食匙		クベシ炎症諸症消散後ノ便秘ニハ灌腸	
嘔吐ニハ氷片、曹達水或ハ左方ヲ處ス		ヲ行キ又鹽類ノ緩下劑ヲ投シ虚脱ニハ	
杏仁水	一五〇〇	興奮劑、葡萄酒「コンニヤック」酒等ヲ	
鹽莫	〇〇一	用キ或ハ「エーテル」ノ皮下注射ヲ行フ	
右調和滴劑		テ効有リ、滲出物ノ殘留スル者ニハ左	
鹽酸コテイソ	〇〇五	方ヲ處スベシ	
乳糖	一〇〇	ヨードカリウム	二一〇〇
右分三包一日三回二分服		橙皮舎	二一〇〇

原因	緩慢經久ナル寒冷ノ刺激ナリトス
診候	四肢ノ末端、耳殼、鼻頭等ニ癢痒、腫起、疼痛、潮紅ヲ以テ始マ
凍瘡	Periostes. マニチキス
鹽水	一八〇〇
ヨード	一〇〇〇
五倍子丁	五〇〇
右調和腹部ニ塗布	
汗油	二〇〇〇
右腹部塗布料	
水銀軟膏	一〇〇〇
右豆大ノ量ヲ腹部ニ塗擦	
カリ石鹼	各二五〇
黄色ワセリン	五〇〇
ヨードフォルム	二一〇〇
右外用	
ヨードカリウム	二一〇〇
ヨード	〇〇五
グリセリン	五〇〇〇
右調和塗擦同上	
婦人ノ骨盤腹膜炎ニハ左方ヲ處ス可シ	
鹽莫	〇〇一
水銀軟膏	一〇〇
カ、オ脂	一五〇〇
右坐藥六箇ニ作り毎日三個	
鹽莫	〇〇一
藥用石鹼	一〇〇
白膠	適宜
右調和膠球十個ニ作り毎日一乃	
至二個一時間挿入	

リ其部ニ水泡ヲ發生スルニ至ル終ニ潰瘍或ハ壞疽ニ陥ルコト有リ
 療法 患部小ニシテ且輕症ナル者ニハ適當ナル足袋等ヲ用キ可及的患部
 ナ保護シ運動ヲ制減ス可シ患部ノ大ニシテ而シテ疼痛ノ甚シキ者ニハ
 一二日間安息セシメ器法ヲ行フ可シ一般ニ左ノ外用藥ヲ賞用ス

- 苛性カリ 〇・五
- アルコホル 各四〇・〇
- グリセリン 六〇・〇
- 留水 右外用入浴後塗布スベシ(ベルツ氏) 五・〇
- 白降汞 五〇・〇
- 緩和軟膏 右調和軟膏ニ作り刀背ノ厚サニ布片ニ攤シ貼用 〇・二
- 結晶硝酸銀 一〇・〇
- ワセリン 右調和軟膏ニ作ル 五・〇
- 酸化亞鉛
- 緩和軟膏 右調和軟膏ニ作ル 三〇・〇
- 石炭酸 一・〇
- 鉛軟膏 各二〇・〇
- ラノリン 一〇・〇
- 扁桃油 三十滴
- ラヘンデル油 二八・〇
- 骨髄 二一・〇
- 濃厚鹽酸 八四・〇
- アルメア軟膏 一・八
- 水製阿片越 七・〇
- 樟腦 一・四
- テレピンテ油

- 右調和軟膏ニ作ル(即チ魯國凍瘡軟膏) 七・五
- メチールクロリド 〇・五
- 鹽酸コカイン 一一・〇
- 樟腦擦劑 一八・七五
- 石鹼擦劑 右調和塗布用
- 樟腦精 各七・五
- 阿片丁 〇・六
- 石炭酸 各一五・〇
- 酒精 右調和用法同上
- 留水 各五・〇
- 明礬 二〇・〇
- 硼砂 二〇・〇
- 安息香丁 右調和洗滌用
- 樟腦油 二・〇
- 凍瘡ノ破開セル者ニハ防腐繃帶ヲ施シ終ニハ硝酸銀ヲ以テ腐蝕スルヲ宜シトス
- ヨードフォルム 一・〇
- 緩和軟膏 二〇・〇
- ラノリン 二〇・〇
- 右調和軟膏
- コロザウム 二〇・〇
- ヨード 〇・二
- 右調和塗布用
- コロザウム 五〇・〇
- 蓖麻子油 二〇・〇
- テレピン油 七・五
- 右調和塗布用
- ヨードフォルム 二・〇
- エーテル 一五・〇
- コロザウム 五・〇
- 右調和塗布用

右調和軟膏ニ作ル

石炭酸

一〇〇

タンニン酸
蠟軟膏

各二〇〇
三〇〇〇

純ヨード

右調和軟膏ニ作ル

ペスト Pest.

原因 明治二十七年北里博士及ビイエルサム氏一種ノ桿菌ヲ發見シ「ペスト」ノ原因トナス是レ「ペスト」菌ナリ

診候 潜伏期ハ三日乃至七日ヲ算スルガ如シ○前驅期（之レナキコトアリ）ニ在テハ頭痛、眩暈食慾不振、全身違和、倦怠、悪心、嘔吐等ヲ發ス○發病期ニ在テハ惡寒戰慄、體温暴騰（三十九度乃至四十度以上ニ達シ或ハ稽留シ或ハ不正ニ弛張シ或ハ漸次下降）淋巴腺腫脹（發熱前乃至發熱後一二日ノ間概テ一ケ處往々同側ニケ處例ヘハ左股腺ト左腋窩腺ニ發シ化膿或ハ消散ス）頭痛、（一二日ノ後輕減或ハ消失ス）眩暈、煩渴、身體違和、倦怠、時トシテ惡心、嘔吐、腰痛、稀ニハ胃部疼痛或ハ苦悶、重症ニハ胸内苦悶ヲ發シ顔面潮紅、眼球光澤ヲ帶ビ眼球結膜充血、舌乾燥及ヒ舌苔（始メハ白黃色後ニ茶褐色）、咽頭充血、

（往々扁桃腺腫脹）、皮膚枯燥、灼熱、呼吸増加、脈搏百乃至百二十、大ニシテ概テ重複、腦症候ハ一定セザルモ嗜眠狀ヲ呈シ夜間譫語スルヲ常トス、初期ニ二三回ノ下痢ヲ發ス尿ハ蛋白ヲ含ムモノ多ク常ニ著シキ「インヂカン」反應ヲ呈ス發病後一二日ニシテ脾臟及肝臟ノ肥大ヲ認ム輕症ハ三四日ニシテ體温下降シテ治シ重症ハ一二週ノ後體温下降シテ治スルコトアルモ大約發病後二乃至八日目心臓麻痺ニ因テ死ス○諸症具備セルトキハ診斷難カラズト雖ドモ然ラザルトキハ「ペスト」菌ノ檢査ヲ要ス（青山博士ノ記載ニ據ル）○「ペスト」ヲ腺腫性、敗血性、肺「ペスト」ノ三種トナシ或ハ左ノ種別トス

一 腺腫「ペスト」ハ本病中最モ屢々見ル所ノ症ニシテ一個或ハ多數ノ淋巴腺及其周圍組織内ニ炎症ヲ發ス其好占部ハ鼠蹊淋巴腺及大腿上三角部ノ淋巴腺ナリ腋窩腺及頭部ノ腺（殊ニ小兒）之レニ亞グ時トシテ後頭腺、肘腺、前後耳腺舌骨腺、膝膈腺等ヲ侵スコトアリ○淺在淋巴腺ノ症僅微ニシテ却テ深在腺ニ著シキコトアリ例令ハ腸骨部ニ腺ノ腫脹ヲ來タシ盲腸周圍炎ノ如キ腫脹ヲ觸ル、コトアリ或ハ鎖骨部ニ發シテ頸ノ臟器ヲ壓迫スルコトアリ腫脹セル腺ヲ壓スレバ疼痛甚ダシキモ安靜

ノ状態ニ在リテハ疼痛少ナシ

二 「ベスト」膿疱 小豆大ノ斑ヲ生ジ疼痛ヲ發ス該斑ハ速カニ變ジテ膿疱トナル而シテ膿疱ニ止ルモノアリ或ハ進ミテ癰ヲ形成シ壞疽性潰瘍ヲ生ズルモノアリ又ハ淋巴管炎ヲ惹起シ次ニ淋巴腺炎ヲ發セシムルモノアリ

三 肺「ベスト」 其症候劇甚ナル加答兒性或ハ格魯布性肺炎ニ同ジ其咯痰内ニ「ベスト」菌アリ本病中最モ悪性ノモノニシテ速カニ死ス肺「ベスト」患者ノ治シタルモノ甚ダ稀ナリ

流行時ニアリテ諸症具備スルトキハ診斷難カラズト雖ドモ然シ新ラシキ淋巴腺ノ液及組織膿疱及癰疽ノ液咯痰ヲ檢シテ「ベスト」菌ノ有無ヲ明カニシ其診斷ヲ確定スベシ

豫後 概テ不良ニシテ死亡數六十乃至九十%ナリ三四日ニシテ體温下降無熱トナルモノハ概テ良ナリ本病治癒後ノ免疫性有無ハ未詳

療法 未ダ特效ノ方劑ナキヲ以テ對症療法ヲ勉ムベシ即チ始ヨリ注意シテ「チキタリス」ヲ與ヘテ頭部及ビ心臟部ニ氷罨法ヲ施シ又多量ノ酒精飲料ヲ與フベシ其他煩渴ニハ茶及「リモナーデ」ヲ與フ○豫防ニハ飲食

物ノ注意特ニ創傷アル手足ヲ以テ病毒ニ接セザルコト肝要ナリ患者ノ血液、吐瀉物、咯痰、唾液ハ石炭酸水石灰乳等ヲ以テ、衣服、寢具、食器 患者ノ使用品ハ蒸氣或ハ藥品ヲ以テ消毒スベシ○近年ハフキン氏液、「イエルサン」血清ヲ試用スルモノアリ○鼠族ハ本病ヲ媒介ス故ニ之レヲ驅除スベシ

包莖 Phimosis. フイヤーケス

療法 輕度ナルモノニハ龜頭溝ノ周圍マデ水或ハ藥汁ヲ以テ洗滌シ炎症ノ強度ナルモノニハ又冷罨法ヲ行ヒ且ツ靜臥安息セシムベシ○壞疽ノ危険アルモノ或ハ現症狀ノ在再久シキニ瀰ルモノ或ハ先天性包莖ノ強度ナルモノニハ包皮ノ單縱切開或ハ輪狀切法ヲ施シ或ハローゼル氏三角瓣ヲ作ルノ法ヲ用ユ

硼酸 六・〇 包皮囊ニ送入シテ洗滌スルナリ
鹽水 三〇〇・〇 過マンガン酸カリウム 一・〇

右調和外用即チ注射器或ハ洗滌器ニ一條ノ長キ洗管ヲ裝ヒ之ヲ 鹽水 五〇〇・〇 右調和外用(用法同上)

包莖

鉛錯
縮水

五・〇
一〇〇・〇

右調和外用（用法同上又陰莖器
法ニ用ユ

靜脈炎

Phlebitis. フレビチス

原因 醜膿菌ノ直接靜脈内ニ侵入シ若クハ靜脈周圍化膿性炎ノ波及ニ由

診候 靜脈索狀ヲ呈シテ隆起シ屢々炎症性浮腫ヲ來スアアリ

豫後 速カニ治方ヲ施セバ良然ラザレバ腦栓塞肺栓塞ヲ發シ頓死スルノ

療法 急性症ニハ患部ノ安靜高舉法ヲ施シ氷嚢ヲ貼シ醋酸礬土液ノ卷法
ヲ行ヒ疼痛消散後ニハ「フランチル」繃帶ノ纏絡ヲ用ユ下肢慢性症ニハ
彈力性繃帶及彈力性足袋ヲ用ユ、膿瘍ヲ生ズレバ切開ヲ施スベシ

蜂窩織炎

Phlegmone. フレゲモーネ

原因 概テ損傷部ヨリ醜膿連鎖狀細菌ノ侵入ニ由ル

診候 寒戰ヲ以テ始マリ體温著シク上昇シ諸般ノ熱症候ヲ呈シ患部ノ皮
膚赤色腫起硬ニシテ疼痛甚シ

豫後 其部位及ビ深淺ニヨリテ或ハ不良或ハ良

療法 初期ニアリテハ安靜冷卷法患肢ノ高舉法ヲ行ヒ灰白軟膏ヲ塗擦シ
其上ニ卷法（醋酸礬土水、プロー氏液、硼酸水、クレタリン水）ヲ施ス
既ニシテ波動ヲ認メ或ハ否ラザルモ全身症狀、熱、疼痛ヲ發スレバ速
ニ切開ヲ施シ膿汁ヲ泄シ制腐法ヲ施スベシ

明礬
鉛糖

五・〇
二五・〇

縮水
右外用

五〇〇・〇

癩風

Pityriasis versicolor.

ピチリアチス、
ウエルチコロール

原因 「ミクロスポーロン、フルフル」ト名クル植物性寄生物ニ因ル

診候 殊ニ胸部ニ發生スル扁平圓形黃色ノ斑ナリ及淡褐色ヨリ暗褐色ニ

療法 カリ石鹼ヲ以テ患部ヲ洗ヒ後二十倍「サリチール」酸精ヲ塗布ス或
ハ左ノ石鹼劑ヲ朝夕患部ニ塗擦ス

サリチール酸
アルコホル

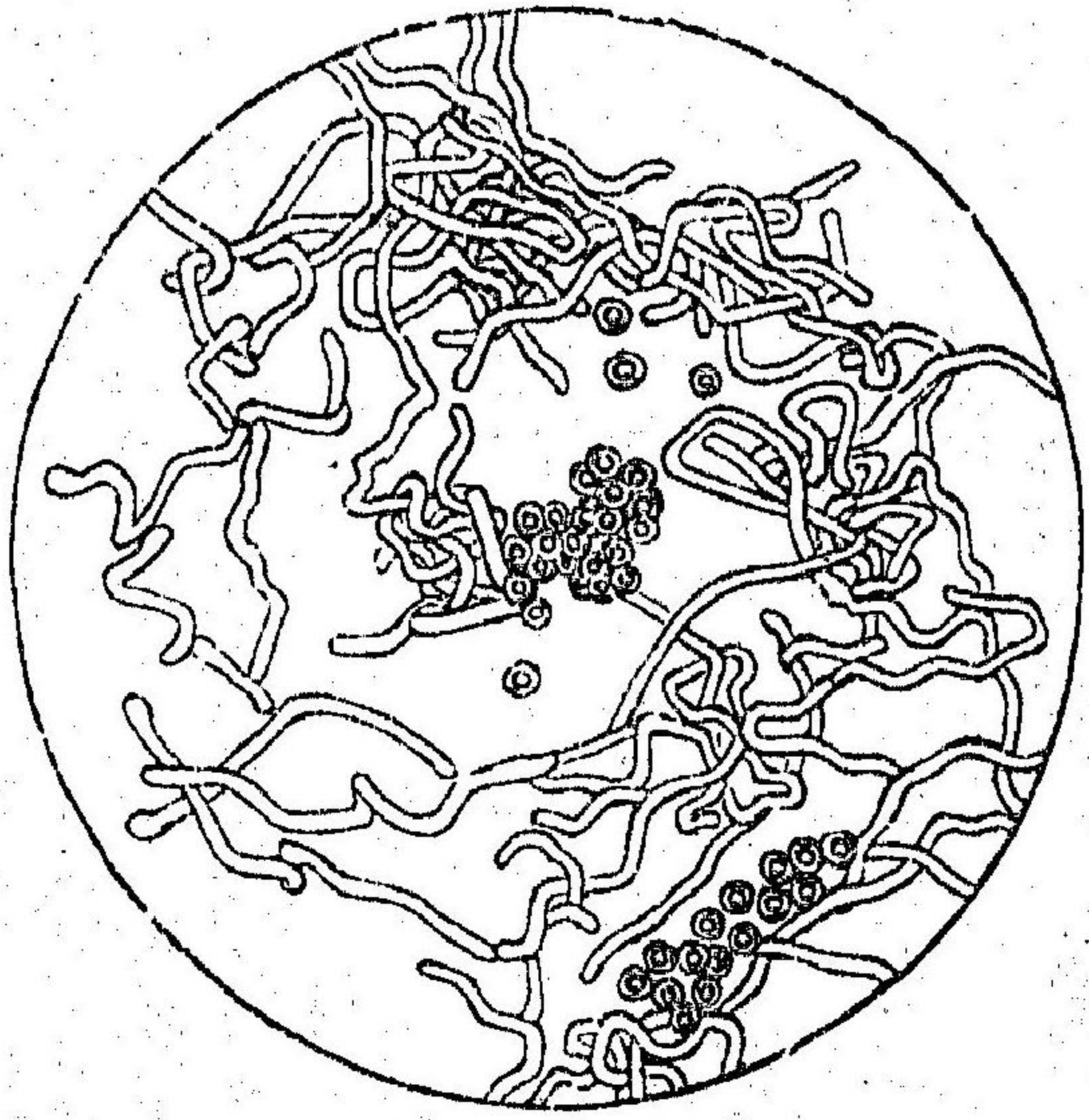
二・五乃至五・〇
五〇・〇

安息香丁
酒精
サリチール酸

各五〇・〇
一〇・〇

靜脈炎 蜂窩織炎 癩風

第四十三圖



ミクロスポロ
ン、フルフル(癩風
ノ原因)

右塗布料	三・〇	ベタナフトール	五・〇
サリチール酸	一〇〇・〇	酒精	適宜
カリ石鹼		綠石鹼	一〇〇・〇
右朝夕患部ニ塗擦スベシ		右塗擦料	

肋膜炎 Pleuritis. フロイリチス

原因 感冒、外傷、肺炎、武雷篤氏病、肺結核、心臟病、此際臓器炎症
或ハ腫瘍ノ波及、腹膜炎等

診候 乾性肋膜炎ハ呼吸時ノ胸部刺痛及呼吸時ノ摩擦音ヲ呈ス○渗出性
肋膜炎ハ惡寒ヲ以テ始マル中等度ノ弛張熱ヲ呈ス呼吸困難劇甚ノ胸部
刺痛乾咳脈搏頻數食慾缺損シ患側ノ胸ハ擴張シ肋間平垣トナリ呼吸運
動、呼吸音、聲音震盪共ニ減少或ハ消失シ濁音ヲ呈ス且滲出液ノ爲メ
ニ心臟或ハ肝臓ノ轉位ヲ認ム○化膿性肋膜炎ハ屢々寒戰ヲ以テ始マリ
熱甚ダ高ク凡テ諸症劇甚ナリ

豫後 漿液性及乾性肋膜炎ハ概テ良、化膿性ハ速カニ適當ナル手術ヲ施
セバ良、然ラザレバ不良結核ニ因スルモノハ不良

療法 熱候ニハ消炎療法トシテ酸性飲料等ヲ與ヘ病側ニハ氷巻法ヲ行ヒ

癩風 肋膜炎

劇痛ニハ「クロ、フォルム」ノ塗擦或ハ「モルヒネ」ノ皮下注射或ハ放蛭
(十乃至十二條)發泡膏ノ貼用、沃丁ノ塗布等ヲ行フテ効アリ内服ニハ
「サリチール」酸「ナトリウム」効アリ、又下劑利尿劑ヲ用フ
末期ニ至レバ吸收催進劑、有力ノ滋養物及ヒ鐵劑等ヲ與ヘ又高度ノ呼
吸困難及滲出物ノ久時滯溜或ハ滲出物ノ全肋膜腔ヲ充填スル者或ハ膿
胸ニハ手術ヲ施シテ其滲出物ヲ排除セザル可カラズ

- アスピリン 四・〇
- 乳糖 二・〇
- 右六包ニ分チ一日三回二分服
- 撒曹 六・〇
- 苦丁 二・〇
- 餛水 二〇〇・〇
- 右一日三回二分服
- 鹽酸キニー子 一・〇
- 白糖 五・〇
- 右研和散五包ニ分チ一日二分服
- 鹽酸キニー子 四・〇

- 撒曹 各二・〇乃至四・〇
- 右研和散四包ニ分チ一日二分服
- サギ葉浸 (一・〇)一八〇・〇
- 醋劑 八〇・〇
- 苦丁 三・〇
- 單舎 二〇・〇
- 右一日三回二分服
- サギ浸 (一・五)一二〇・〇
- 醋酸カリウム 各三〇・〇
- 海葱醋蜜 右調和每二時一食匙

- サウレンチン 五・〇
- 薄荷水 七五・〇
- 橙皮會 二〇・〇
- 餛水 七五・〇
- 右毎二時乃至三時一食匙宛
- 甘汞 〇・二
- 乳糖 〇・五
- 右爲一包與六包一日三回二分服
- 薄荷腦 〇・五
- 鹽酸コカイン 各〇・一
- 鹽酸モルヒネ 五〇・〇
- 單軟膏 右疼痛部塗擦料
- ヒヨシヤムス油 各二〇・〇
- クロ、フォルム 右調和塗擦料(疼痛アル部ニ)
- 滲出物ノ吸收ヲ促スニハ左方(急性炎)

- 症ノ消退後)
- ヨードカリウム 二・〇
- 純ヨード 〇・五
- アリセリン 二〇・〇
- 右調和塗擦劑
- ヨードカリウム 二・〇
- 純ヨード 〇・五
- サギ軟膏 二〇・〇
- 右軟膏ニ作り患側ニ塗擦シ「グ
ツタベルカ」紙ヲ以テ其上ヲ被
- ヨードカリウム 二・〇
- 單舎 一〇〇・〇
- 餛水 一〇〇・〇
- 右調和每二時一食匙
- 沃剝 二・〇
- 苦丁 三・〇
- 餛水 二〇〇・〇
- 右一日三回二分服

疼痛ニハ左方

アスピリン

右分六包一日三回一包宛

六〇〇

アンチピリン

乳糖

右頓用

〇・七
〇・三

小兒急性肋膜炎ニハ左方ヲ用ユ

稀鹽酸

橙皮會利別

餾水

右毎二時一小兒匙宛

アンチピリン

單舎

〇・五乃至二〇〇
二〇〇

餾水

右毎三時一小兒匙宛

一〇〇〇

撒曹

橙皮舍

餾水

右毎三時一小兒匙宛

一〇〇乃至二〇〇
二〇〇〇
一〇〇〇

海葱丁

サギ丁

海葱醋蜜

菩提樹水

右調和毎時一茶匙

各十滴
二〇〇〇
一〇〇〇

加答兒性肺炎

Pneumonia catarrhalis.

ブライモニア、カタラーリス

原因

ニ併發ス

又嘔吐物、食物片ノ吸入ニヨリテ本病ヲ惹起ス (所謂嚥下肺炎) 小兒

麻疹、百日咳、流行性感胃、室扶斯、實扶的里、感冒性氣管枝加答兒

及老人ニ多シ

診候 體温上昇、呼吸増加及困難、脈搏増加、不穩、食思缺乏ヲ呈シ肺ノ後

下部ニ打診上濁音ヲ徴シ笛聲囉音、中水泡音及小水泡音ヲ聽取ス

豫後 不定ナリ即チ數日數週ヲ經過シ、強度ノ呼吸困難「チアノーゼ」ヲ

呈シ死亡シ又肺結核ヲ誘起スルコトアリ

療法 室内衣服共ニ平等ノ温度ニ保持スベシ○飲料ニハ清涼劑ヲ與ヘ左

方ヲ處ス又胸部濕温卷法、(毎二時或ハ三時ニ交換) 一日三回宛ノ温浴

(四十度乃至四十一度) 中ニ於ケル冷水澆灌法ヲ施シ又患部ハ水蛭或ハ

發泡膏ノ貼用ヲ行ヒ胸部ノ疼痛ニ對シテハ麻醉劑ヲ投シ呼吸困難著シ

キモノニハ芥子泥ヲ貼シ虚脱ノ恐レアルモノニハ芥子泥、樟腦、葡萄酒

等ヲ與フ○特ニ滋養ヲ勉ムベシ

小兒ニハ左方ヲ處ス

吐根浸

(〇・一五乃至〇・三) 一〇〇〇

單舎

右調和毎二時一小兒匙

二〇〇〇

(〇・一五乃至〇・三) 一〇〇〇

アンモニア茴香精

單舎

右調和毎二時一小兒匙宛

セ子が浸

(一・五乃至五・〇) 一〇〇〇

加答兒性肺炎

五三五

單舎 右調和毎二時一小兒匙 二〇・〇
 セ子ガ浸 (二・〇)一〇〇・〇
 杏仁水 一・〇乃至二・〇
 吐根舎 一〇・〇
 右調和毎三時一茶匙宛
 礮砂 一・〇乃至三・〇
 單舎 二〇・〇
 單舎 一〇〇・〇
 單舎 一〇〇・〇
 右調和毎二時一小兒匙
 炭酸アンモニウム 〇・五
 單舎 二〇・〇
 單舎 八〇・〇
 右毎二時一小兒匙宛
 高度ノ發熱アルモノニハ
 アンチピリン 〇・五乃至二・〇
 單舎 二〇・〇
 單舎 一〇〇・〇
 單舎 一〇〇・〇

右調和毎三時一小兒匙宛
 アンチヘプリン 〇・〇五乃至〇・一
 白糖 〇・三
 右調和一包トナシ毎三時一包宛
 キニーネ 〇・五乃至一・〇
 單舎 一〇・〇
 單舎 一〇〇・〇
 單舎 一〇〇・〇
 右毎三時一小兒匙宛
 便秘ヲ兼子タルモノハ
 甘汞 〇・〇二
 金硫黃 〇・〇一
 白糖 〇・〇二
 右一包トシテ三包ヲ與フ毎二時
 一包(便通アレバ後服ヲ止ム)
 諸症劇甚ナルモノニハ吐劑ヲ用ユ
 吐根浸 (四・〇)一〇〇・〇
 單舎 二〇・〇
 單舎 一〇〇・〇
 右毎十分一茶匙宛(嘔吐ヲ發ス)

レバ後服ヲ止ム)

鹽酸アボルヒ子

〇・〇一

縮水

五・〇

右半筒乃至一筒皮下注射料

虚脱ニ陥ラントスルモノニハ左方ヲ處ス可シ

樟腦

安息香酸

各〇・〇一乃至〇・〇五

白糖

〇・三

右一包トナシ毎二時一包宛

アンモニア茴香精

エーテル

各六・〇

右調和毎一時六滴ヲ糖水ニ混和

急性前脊髓灰白質炎

Polio-myelitis anterior

acuta.

ポリオミエリチス(アンデリオール)アクイーダ

(小兒脊髓麻痺 Spinale Kinderlähmung)

加答兒性肺炎 急性前脊髓灰白質炎

原因 六ヶ月乃至三年ノ小兒ニ發スルモノナリ原因不明

診候 夜中俄然發熱興奮シ翌朝兩下肢ノ全然麻痺セルヲ見ル膝蓋腱反射

消失ス知覺ハ健存ス(上肢モ亦麻痺スルコトアリ)數日ノ後ニ至リ一

肢(一脚一腕)ハ麻痺症狀消退ス他ノ一肢ハ永久的麻痺ヲ止ム患肢ハ青

色ヲ帶ビ温度下降ス永久麻痺セル一肢ハ筋肉及ビ骨ノ萎縮ヲ發ス

豫後 生命上ハ概ネ良ナルモ永久ノ麻痺ヲ殘スコト多シ

療法 麻痺ノ初期ニ於テハ背部適當ノ部ニ氷嚢ヲ貼スシヤブマン氏管若

クハ放蛭後ニハ沃丁ヲ塗布シ熱、消化器障害ニハ其對症療法ヲ行フ可

シ麻痺發生後ニ乃至三週間ニシテ麻痺セル筋ニ瓦爾華尼電流ヲ用ユ

(積極導子ヲ頸部或ハ腰部膨脹部ニ消極導子ヲ筋肉ニ接ス)〇一二週後

ニハ尙ホ又傍ラ末梢神經ノ療法ヲ施ス(消極導子ヲ神經ニ積極導子ヲ

筋肉ニ接シ電流交換ヲナス)數月間按摩法ヲ行フデ大ニ効アリ其他矯

整法ヲ用ユル場合アリ内服ニハ疾患ノ初期ニ於テ左方ヲ用ユ

ヨードカリ 〇・三乃至二・〇 〇・〇一

單會 二・〇〇 蕃木龍越 一・〇〇

餛水 一〇〇〇〇 右毎日一回或ハ二回皮下注入料 (五・〇)一五〇・〇

右每一時乃至二時一食匙宛

稀硫酸 三・〇
覆孟子舍 三〇・〇

氣胸 Pneumothorax.

ブノイモトトラックス

原因 最モ屢バ肺結核、稀ニ肺壞疽、胸壁ノ外傷、腸胃ノ肋膜腔ニ穿孔

等ニヨル

診候 突然胸廓ノ一側ニ非常ナル劇痛及呼吸困難ヲ發シ屢バ虛脱及強度

ノチアノ一ゼヲ呈ス、胸壁ハ擴張シ呼吸運動微弱トナル打診上著シク

高調ナル非鼓音ヲ呈シ其ノ區域健全ノ肺界ヨリモ廣シ、病側ニ呼吸缺

如シ滴落音ヲ聽クコトアリ、杆打板打診ヲナシ聽診スレバ鑼性音ヲ聽

キヒボクラーテスノ振盪音アリ。

豫後 危険ナリ

療法 對症的ニシテ呼吸困難ニハ「モルヒネ」ヲ與ヘ胸廓ノ壓迫徵候甚ダ

シケレバ肋膜穿刺又ハ肋膜切開術ヲ行ヒ空氣及液ノ一部ヲ排除ス

遺精 Pollutionen. ポルチチーチン

原因 手淫情慾興奮、睡眠中膀胱緊滿、腸管充實、仰臥等ノ陰部刺戟或ハ

氣胸 遺精

重病ノ衰弱、脊髄癆ノ初期、包莖、結石、膀胱石、痔疾等ナリトス
療法 豫防法ハ手淫ヲ戒メ品行ヲ正シ飲食ハ其度量ヲ節シ殊ニ晚餐ヲ制
 減シ寢褥ノ下敷ニハ硬キ團圍ヲ擇ヒ被褥ニハ輕易ナル者ヲ用キ且ツ早
 晨其褥ヲ離レ生殖機能ノ興舊及ヒ心身過勞ヲ禁ジ可成ハ田舎或ハ山地
 ニ轉居セシメテ乳汁療法或ハ冷水浴ヲ行ハシム河水或ハ海水ヲ擇ブテ
 宜シトス○内服ニハ強壯劑ノ類ヲ與ヘ又平流電氣療法皆効有リ就中最
 モ要用ナルハ冷却「ブージー」ノ送入療法或ハ攝護腺部ノ腐蝕ナリトス

- 硫規 各一・〇
 白糖 右十包ニ分チ一日三回一包
 臭剝 一〇・〇
 右研和散十包ニ分チ毎日三包
 麥角 一・〇
 白糖 五・〇
 右十包ニ分チ毎日三乃至五包
 酸化鐵 (「オプラー」トニ包ミ用ユ)

直腸加答兒

Proctitis. プロクタイトス

原因 宿便或ハ異物ノ器械的刺戟又ハ感冒、直腸潰瘍、比隣臟器腫瘍ノ
 炎症波及等
診候 肛門瘙痒、灼熱、疼痛、下痢、裏急後重、肛圍糜爛、下血、粘液

漏出等

豫後 概テ良

療法 若シ直腸内ニ硬キ宿便或ハ異物等ヲ認メハ温灌腸ニ依テ之ヲ排除
 スル等一般ノ治則ナリトス○急性症ニハ褥ニ就カシメ飲食ヲ制シ温坐
 浴ヲ取ラシメ又會陰部ニプリスニッツ氏器法ヲ行フ然レトモ劇痛ニハ
 水卷法ヲ施ス

- サレンツア煎 (五・〇)五〇〇・〇
 阿片丁 各二・〇
 タンニン酸 各二・〇
 右調和灌腸料(二回分)
 アルテア根煎 三〇〇・〇
 阿片丁 二・〇
 右調和灌腸料(二回分)
 裏急後重ニハ左方ヲ處スベシ
 阿末 〇・〇五
 カ、オ脂 二・〇
 右肛門坐藥壹筒量
 鹽酸コカイン 〇・五
 緩和軟膏 二五・〇
 右調和軟膏ニ作り毎回豌豆大ノ
 量ヲ肛門ニ塗擦ス
 慢性ノ加答兒ニハ冷坐浴ヲ行ヒ又左方
 樹皮煎 (二〇・〇)二〇〇・〇
 明礬末 二・〇
 右調和灌腸料(二回分)

當時直腸周圍炎ヲ兼ヌル者ニハ外科的手術ヲ施サル可カラズ

直腸加答兒

進行性球麻痺

Progressive Bulbärparalyse.
プログレスシブールパールパラーゼ

原因 不明、四十歳以上ノ男子ニ多ク殊ニ上流社會ニ多シ、第四腦室底ニ於ケル舌下、顔面、及迷走、副神經核ノ變性ニヨリテ起ル

診候 言語障礙ヲ以テ始マル、最初ニ舌音困難トナリ、舌ハ漸次消削ス次ニ唇音不明トナリ口ヲ尖ラシ、口笛ヲ吹クヲ能ハズ、口唇ハ萎縮、銳縁、硬直、不閉トナリ常ニ流涎ス、遂ニ口蓋、咽頭、喉頭ノ麻痺ヲ發シ、嚥下困難、發聲及呼吸障礙ヲ發ス、麻痺筋ノ知覺ハ正常ナレドモ電氣變性反應ヲ呈ス

豫後 不良

療法 沃度加里、硝酸銀ヲ採用ス、平流電氣療法、水治法、温泉療法等ヲ施シ流涎症ニハアトロピンヲ與フ

脱肛及ビ直腸脱

Prolapsus ani et recti.
フロラーピウス、アニ、エト、レクチャー

原因 常習便秘ニ伴フ脱糞時ノ努責、痔疾、肛門ノ裂傷、膀胱(結石)尿道及ビ攝護腺ノ疾病ニ因リ排尿困難ノ爲メ努責スル等

診候 肛門部ノ粘膜或ハ直腸ノ脱出

療法 輕度ノ脱出ハ油ヲ塗布セル指ヲ以テ其脱出部肛門内ニ還納スベシ脱出甚シク還納困難ナルトキハ全身麻酔中ニ括約筋皮下延長ヲ施シ脱出部ヲ還納スベシ而シテ還納後ニアリテハ其原因ヲ除クコトヲ勉ムベシ例ヘハ常習便秘アル者ニハ灌腸ヲ施ス等常習便秘ノ療法ヲ行フベシ脱出反覆シテ治セザル者ニハ外科的手術(灼熱、切除等)ヲ施スベシ

痒疹

Prurigo. プルリゴ

原因 詳ナラズト雖トモ遺傳ナラン

診候 痒疹ノ甚シキ丘疹ニシテ専ラ幼時ニ始マル而シテ専ラ四肢ノ伸側面、背部及腹部ニ發ス周圍焮衝ナキモ夜間ニハ灼熱痒甚シク試ミニ之ヲ刺針スルニ唯水液ヲ漏スノミ間々痂ヲ結ビテ膿疱或ハ濕疹ノ形狀ヲナスモノ有リ慢性皮膚病ニシテ容易ニ治癒セズ

療法 フレミング氏液ヲ全身浴中ニ加ヘ毎夕患者ヲシテ該湯ニ浴セシメ浴後皮膚ヲ拭ヒタル後三%「ベタナフトール」「ワゼリン」或ハ五%サリチール酸「ワゼリン」ヲ塗擦スベシ

進行性球麻痺 脱肛及ビ直腸脱 痒疹

木ヤール	五〇〇	グリセリン	一〇〇〇
石鹼末	一〇〇〇	餾水	一〇〇〇
右調和石鹼ニ作り洗滌料トス		右調和洗滌料	
(小兒ニ於ケル輕症ニ適ス)		炭酸カリウム	一〇〇
エビカリン	一〇〇〇	硫肝	二〇〇
肝油	五〇〇	餾水	一〇〇〇
黃色ワセリン	九五〇	右調和洗滌料	
右爲軟膏毎夕塗擦シ其上ニ撒布		リアントラール	一〇〇〇
藥ヲ用ユ		ワゾーゲン	九〇〇
ベタナフトール	一〇〇〇	右塗擦料	
豚脂	一〇〇〇	イサロール	二〇〇
右調和軟膏ニ作ル(單)ナフトール		黃色ワセリン	二〇〇
グリセリン	一〇〇〇	右外用	
アルコホル	(九五%)八〇〇	アンチピリン	五〇〇
アンモニア水	一〇〇	單舎	二五〇
右塗布料		右毎夕一乃至二茶匙	
石炭酸	一〇〇	其他「ピロカルピン」ノ皮下注射ヲ常用	

皮膚瘙癢症

Puritus.

フルリツニス

原因 主トシテ黃疸、蜜尿病、蜜毒症、月經不調、妊娠、老衰等ナリ

療法 其原因療法ヲ施シ又冷水浴(河浴、海浴、灌漑浴)ヲ行フベシ而シテ此浴水中或ハ藥劑ヲ加フルアリ或ハ加ヘザルアリ若シ之ヲ加フルニ於テハ昇汞、明礬、曹達、フレミング氏溶液ヲ用ユ可シ又揮發性藥劑ヲ貼布(蕁麻疹ヲ對照セヨ)スルコトアリ

陰部、膺、肛門等ノ瘙癢ニハ局處浴或ハ「コカイン」ノ塗布、收斂性溶液即チ百倍ノ明礬溶液、硝酸銀溶液、タンニン酸溶液、皓礬溶液等ノ注入或ハ其液ニ侵セル栓塞ヲ施ス可シ○劇甚ノ瘙癢ニハ麻醉劑ヲ與フ其他試ミニ「ピロカルピン」ホーレル氏水、アトロピンキニーネ等ヲ用ユ

石炭酸 〇・五乃至一〇〇

グリセリン 一〇〇〇

再餾酒精 九〇〇

抱水クロラール 四〇〇

グリセリン 一〇〇〇

右塗布料 一〇〇〇

薄荷腦 一〇乃至五〇

再餾酒精 一〇〇〇

右塗布料 一〇〇〇

薄荷腦	二・五	右爲軟膏	一・〇
オレイン油	七・五	鹽酸コカイン	一・〇
ラノリン	五〇・〇	ワセリン	一五〇
右塗布料	一〇・〇	右爲軟膏	一五〇
エピカリン	一〇・〇	ツメノール	一〇・五
エーテル	各四〇・〇	エーテル	一〇・五
酒精	五〇	酒精	各一五〇
グリセリン	二〇〇・〇	餾水(グリセリン)	各一五〇
右塗布料	一・五	右外用	
酒精	各五〇・〇	肛門癢痒ニハ左方チ處シテ効アリ	
石炭酸	一〇・〇	ワレアリ	五〇乃至一〇〇
右塗布料	一〇・〇	ワセリン	一〇〇・〇
エーテル	一〇・五	右塗擦料	四〇
香水	各五〇・〇	石炭酸	二〇〇・〇
右塗布料	一〇・〇	芳香酸	二〇〇・〇
薄荷腦	一〇・〇	右外用トシテ更ニ左藥チ撒布ス	二〇〇・〇
ワセリン	五〇	サリチール酸蒼鉛	八〇・〇
ラノリン	五〇	澱粉末	各一〇
		右調和撒布料	

陰門癢痒症

Pruritus vulvae.

ブルリッスス・ウルウエー

原因

蜜尿病、貧血、妊娠等

診候

陰門ノ灼熱腫起濕疹癩爛等ナリ

療法

蜜尿病等其原因ヲ明ニシ且ツ陰部ノ濕疹等ニ對スル療法ヲ試ミ便通ヲ利スルコト必要ナリ貧血ニハ鐵劑ヲ用キ或ハ臭素劑ヲ投ジ外用ニハ左方

石炭酸	三〇	ラノリン	三八〇
餾水	一〇〇・〇	右爲軟膏	
右調和撒法料	一〇〇・〇	メントール	一〇・五
硝酸銀	一〇	オレイン油	一〇〇
餾水	三〇〇	右調和塗布料	
右調和塗布料	三〇〇	頑固ナル者ニハ六乃至十日毎ニ左ノ水	
鹽酸コカイン	〇・一五	劑チ陰門ニ塗布シ又其間ニハ次ノ軟膏	
薄荷腦	一〇	チ同部ニ塗擦ス可シ	
ザロール	各二〇	石炭酸	各一〇
オレイン油	各二〇	純酒精	各一〇

陰門癢痒症

五四七

右調和塗布用

ワセリン軟膏

五〇・〇

酸化亜鉛

各三〇・〇

鯨蠟

右調和軟膏ニ作ル

鹽酸コカイン

〇・二

緩軟膏

右調和軟膏ニ作ル

二〇・〇

鱗屑癬

(乾癬) Psoriasis.

フンロヤシス

原因

遺傳ナリト云ヒ細菌ナリト云フ未詳

診候

初メ肘關節及膝關節ノ伸展側ニ發シテ次テ頭部及薦骨部ニ發シ漸

次周圍ニ蔓延ス○原發疹ハ帽針頭大ノ丘疹ニシテ其頂點ニ白色ノ光輝

アル鱗屑ヲ生ズルモノナリ而シテ其周圍ニ蔓延増大スルニ從ツテ先キ

ニ點狀ノモノ滴狀ノ鱗屑癬トナリ貨幣狀トナリ輪狀トナリ湊合シテ地

圖狀トナル

豫後

生命上ノ豫後良然レド再發ノ虞甚ダ多シ

療法

亞砒酸劑ノ内服或ハ注射ヲ用キ同時ニ左ノ軟膏ヲ與フ

皮膚ノ剝脱セル部ニハ左方ヲ用キテ効

有リ

イヒチカール

五・〇乃至二〇・〇

ワセリン

右調和塗擦用

五〇・〇

イヒチカール

五・〇

サリチール酸

三〇・〇

グリセリン

二〇・〇

酒精

一〇〇・〇

右調和塗擦用

白降汞

一〇・〇

ワセリン

五〇・〇

右調和軟膏ニ作ル

次硝酸蒼鉛

白降汞

各五・〇

ラノリン

四〇・〇

ワセリン

一〇・〇

右調和軟膏ニ作ル

又「タール」製劑ヲ用ユ(殊ニ頭皮ノ鱗

屑)

カザヌム油

一〇〇・〇

右「フラネル」布片ニ點シ以テ塗

擦ス

カザヌム油

ナフトール

一五・〇

綠石鹼

各五〇・〇

稀酒精

一〇〇・〇

右塗擦用(即チ流動性「タール」

石鹼)

樟油

五〇・〇

酒精

エーテル

各五・〇

ラヘンテル油

茴香油

各三十滴

右調和毛筆ヲ用キテ塗擦ス(此

擦劑ハ殊ニ「タール」ノ臭氣ヲ佳

良ナラシムルガ爲メ實用スルモ

ノナリ)

白降汞

一〇・〇

カリ石鹼

四〇・〇

ラノリン

五〇・〇

右軟膏ニ作ル頭皮ニ塗布

鱗屑癬

五四九

豚脂 一〇〇・〇
 右調和軟膏ニ作ル
 焦性没食子酸 五〇・〇
 ワセリン 五〇・〇
 右調和軟膏ニ作ル
 クリサロビン 一〇〇・〇
 ワセリン 四〇〇・〇
 ベルガモット油 十滴
 右調和軟膏ニ作ル
 此軟膏ハ先ツ石鹼精ヲ用キテ
 鏡屑ヲ除去シタル後綿撒絲ニ
 塗布シテ塗擦スルヲ宜シトス
 但シ其際周圍部ヲ被フテ刺戟
 性紅疹ノ發生ヲ防グ可シ但シ
 顔面ニハ用ユ可ラス
 乾白膠 五〇・〇
 餛水 一〇〇・〇
 右調和蒸氣浴中ニ於テ終始一様

ニ攪拌シ適宜ノ「クリサロビン」
 ナ加ヘ製シテ蠟紙ニ包ミ與フ是
 レ「クリサロビン」膠ト名クル塗
 擦劑ニシテ用ニ臨ミ之レヲ温メ
 テ溶解シ刷毛ヲ用キテ塗擦スル
 ナリ焦性没食子酸膠モ亦其製法
 之ニ同シ
 クリサロビン 各五〇・〇
 オレーフ油 五〇・〇
 ラノリン 五〇・〇
 右調和刷毛ヲ用キテ薄ク塗布ス
 クリサロビン 一〇〇・〇
 エーテル 一〇〇・〇
 黃蠟 〇・三
 右調和外用(殊ニ頭皮癬ニ適ス)
 クリサロビン 二〇〇・〇
 グツタベルカグロ、フオルム溶液 二〇〇・〇

五五〇

右調和刷毛ヲ用キテ塗布ス
 又或ハ「クリサロビン」一分ト「コロゲ
 ウム」六分ノ混合擦劑ヲ用ユル「ア
 レニザルロール 五―一〇〇・〇
 ガイロビン 一〇〇・〇―二〇〇・〇
 アツエトン 一〇〇・〇
 右塗布料
 本病ノ頑固ナル者ニハ左ノ改製フレミ
 ンガ氏溶液ヲ用ユ
 生石灰 五〇・〇
 昇華硫黃 一〇〇・〇
 餛水 一〇〇・〇
 右混和煮沸シテ全量 六〇〇・〇
 ニ作ル塗布用
 即チ之ヲ局處ニ塗布シ次テ一
 時間ノ微温浴ヲ行ヒ而シテ後
 澱粉ヲ撒布シ或ハ鉛分ヲ含有
 セザル軟膏ヲ塗布スルナリ但

シ顔面ニハ用ユ可カラス
 ヘアラ氏改製ウキルキンソン氏軟膏ハ
 頗ル有効ナルヲ認ム製法左ノ如シ
 硫黃 各五〇・〇
 山毛櫨油 各五〇・〇
 綠石鹼 各一〇〇・〇
 豚脂 各一〇〇・〇
 石灰末 一〇〇・〇
 右調和六日間毎日二回刷毛ヲ用
 キテ塗布シ十乃至十二日ヲ待テ
 入浴セシムベシ
 アリストール 三〇・〇
 ワセリン 二〇〇・〇
 ラノリン 一〇〇・〇
 右軟膏トナス
 アリストール 二〇・〇
 亞鉛華 各五〇・〇
 澱粉 各五〇・〇

鏡屑癬

五五二

白色ソセリン
右軟膏トナス
ガラノール 一〇〇〇
稀酒精 五〇〇〇
アンモニヤ水
右塗布料
アントラロビン 一〇〇〇
酒精 九〇〇〇
右調和塗布用（此藥ハ顔面ニ用
ユルモ妨ゲナシ）
アントラロビン 各二〇〇〇
オレフ油 六〇〇〇
豚脂
右調和軟膏ニ作ル用法同上
アンドラゾール 五〇〇〇
右外用フラネル片ニテ塗布スベ
シ
鱧肝油ノ内服ニ供スル藥劑ハ左ノ如シ

法水 六滴
餾水 五〇〇〇
右調和一日ノ量
通例四日毎ニ一滴ヲ増加シ終
ニ一日三十滴ニ達スルトキハ
又更ニ四日毎ニ一滴ヲ減シ元
量即チ六滴ニ至ル但シ小兒ニ
ハ尙ホ少量ヲ用ユベシ
法水 六十滴
薄荷水 二〇〇〇〇
右調和朝夕二回毎一食匙ヲ與ヘ
全量ヲ十日間ニ用キ盡スベシ但
シ此藥劑モ亦前者ノ如ク増加シ
テ三十滴ニ至リ再ビ減量スルモ
可ナリ
法水 二〇〇
炭酸アンモニウム 五〇〇
醋酸カリウム 一〇〇〇

單倉 一五〇
餾水 一二〇〇
右一日三回毎一食匙水ニテ内服
法水 二〇〇
林檎鐵丁
薄荷精 各一〇〇〇
右調和朝夕二回ニ食匙
亞砒酸ナトリウム 〇・四
餾水 二〇〇〇
右調和一日五回毎十五滴（ビヤ
リン氏溶液）
亞砒酸末 〇・五
黑椒末 五〇〇
甘草末 三〇〇
アラビヤゴム 適宜

右調和丸百粒ニ作り毎日一二乃
至十粒ヲ用ユ（亞細亞丸）
〇・一
亞砒酸
アラビヤゴム漿 各適宜
餾水
右調和丸二十粒ニ作り毎日一粒
カコザール酸ナトリウム 一・二五
白糖
アラビヤゴム 各適宜
グリセリン 右爲丸五十粒毎日三回一包宛
カコザール酸ナトリウム 一〇〇
餾水 二〇〇〇
右一日三回十滴宛

原因 膈、子宮、陰唇等ニ分娩ノ際被ムリタル創傷部ヨリ細菌ノ侵入ス

産熱

Puerperalfieber.

フエルペラルフィーベル

ルニ因ル産後ノ重病ナリ○分娩後三十時間乃至四十時間ニ發病スルヲ以テ通常産後第二日或ハ第三日ニ發ス

診候 産後頓發ノ惡寒劇熱、劇烈ナル腦症、虛脱、肺炎、腦膜炎、關節炎等ノ症狀ヲ呈シ嘔吐鼓脹、下痢ヲ來タシ惡膿患ノ惡露ヲ漏ラス等ナリ

豫後 全身症ノ輕重衰弱ノ如何等ニヨリテ一定セズト雖トモ分娩後速カニ發スルモノハ概テ不良

療法 豫防法ニハ産前、産後ノ婦人ヲシテ其陰部ニ病毒ノ傳染ヲ避ケシムルガ爲メ消毒法ヲ嚴ニス可シ○既ニシテ本病ニ罹レル者ニハ解熱療法トシテ「キニーチ、サリチール酸等ヲ内服セシメ又下腹部ニ氷罨法或ハプリスニッツ氏罨法即チ濕温罨法又ハ可溶性銀軟膏ノ塗擦ヲ行フヲ宜シトス○局處療法(創面或ハ潰瘍等)ニハ石炭酸水或ハ過マンガン酸カリウム水等ノ洗滌或ハヨード丁幾ノ創面塗布等用キテ効アリ凡テ内部諸機關ノ炎症ニ注意シ場合ニ依リ外科的手術ヲ要スルコトアリ○子宮内膜炎ニハ三十倍硼酸水五十倍ノ石炭酸水或ハ五十%アルコホル液ヲ用キテ子宮ヲ洗滌シ内服ニハ酒精飲料阿片劑等ヲ與ヘ或ハ「モルヒ

チ」ノ皮下注射ヲ行ヒ且ツ便通容易ナラシム可シ○尙ホ其他ノ治法ハ腹膜炎ノ條下ヲ參照ス可シ大阪醫學士飯塚正平氏ハ子宮内ヨリ培養セル細菌ヨリ自家ワクチンヲ製シテ之ヲ注射シ卓効ヲ收メタリ理想的ノ療法也

イヒチオール	一・〇	右散十包ニ分チ毎時一包オブラ
可溶性銀	〇・五	トニ包ミ用ユ
豚脂	九・〇	サリチール酸
右爲軟膏外用		右散十包ニ分チ毎二時一包
磷酸	一〇〇・〇	昇汞
覆盆子舎	五〇〇・〇	右洗滌料(中毒ニ注意スベシ)
右調和飲料ニ和シ用ユ(下痢ア		石炭酸
トトキハ用ユ可ラス)		右洗滌料
發熱殊ニ惡寒戰慄ニハ左方ヲ處ス可シ		右調和洗滌料
硫規	三・〇	リゾール
右散五包ニ分チ澱粉糰ニ入レ毎		右洗滌料
二時一包		五〇〇・〇
アンチピリン	二・〇乃至三・〇	

産褥熱

アルコホル	二五・〇	樟腦	〇・五
餾水	二五〇・〇	白糖	二・〇
右調和洗滌料		右研和散五包ニ分チ毎二時一包	
膿語及ビ虚脱ニハ			

悪性膿疱 Pustula maligna. フスマラマリゲナ

原因 一千八百五十五年ホルレンデル氏發見ノ脾脫疽桿菌ノ皮膚侵入ニ因ル

診候 潜伏期三乃至六日ノ後皮膚ニ結節ヲ生ジ其中央部ニ膿疱ヲ發ス灼熱及痒癢ノ感アリ二日乃至二日半後ニハ高熱膿語食思不振等而シテ或ハ一週ノ後虚脱ニ陥リテ死シ或ハ諸症輕快シテ治ス

豫後 速カニ制腐的外科手術ヲ施セバ良、然ラザルモノハ不良
療法 苛性カリ或ハ硝酸ヲ用キテ患部ヲ腐蝕シ或ハバクレン氏ノ烙白金ヲ用キ傳染部ヲ燒灼シ又患部ヲ切開シテ其創面ヲ腐蝕シ或ハ深ク十字形ニ切開シテ制腐法ヲ施ス可シ又四十倍ノ温石炭酸溶液ニ浸シタル「ガーゼ」ヲ以テ巻法ヲ行フモ可ナリ一説ニハ斯ノ如ク組織ヲ損傷スルコトナク單ニクロール水、鉛水等ノ器法ニ依頼スルコトヲ賞用シ患部

ニ刀ヲ下シテ其創部ヲ腐蝕スルハ只初期ニ於テノミ其効確實ナルモノナリト云フ○悪性膿疱ノ硬變部ヲ縮小スルニハ「ヨード」ノ内服及ビ皮下注射ヲ賞用ス

硫規	二・〇	サリチール酸	一・〇
稀硫酸	十滴	グリセリン	五〇・〇
單舎	〇二・〇	餾水	一〇〇・〇
餾水	二〇・〇	右調和繙帶料	
右調和毎二時二食匙		ヨード	一・〇
石炭酸	五・〇	餾水	五〇・〇
餾水	二〇〇・〇	右調和毎回十滴皮下注射料	
右調和器法用			

膿毒症 Pyaemie. ヌヘー

原因 膿嚢ヨリ諸器臟ニ轉移ヲ起スニ因ル
診候 惡寒戰慄體温暴騰(四十度或ハ以上)脈搏頻數一定時ノ後平温ニ復シ更ニ一日乃至數日ヲ隔テ反覆同發作ヲ呈ス食思缺損皮膚乾燥其他轉移膿嚢ノ發生部ニ從ヒ種々ノ症候ヲ發ス例セバ咯血、肺炎麻痺病

悪性膿疱 膿毒症

(腦)等ノ如シ

豫後 不良

療法 原因療法(手術的療法)ヲ主トナシ消毒法ヲ嚴密ニシ解熱法ヲ力メ其他強性葡萄酒、コンニヤツク酒精涼飲料ヲ用ユル等一般ノ治則ナリトス

- 硫規 二・〇〇 右散十包ニ分チ毎二時一包(熱ノ減退ヲ度トシテ後服ヲ止ム)
- 重曹 一・〇〇
- 白糖 一・〇〇 鹽酸モルヒ子 〇・〇五
- 右調和散五包ニ分チ毎三時一包 白糖 二・〇〇
- アンチピリン 一・〇〇 右散五包ニ分チ毎夕一包

腎盂炎 Pyelitis. ピエリチス

原因 膀胱加答兒ノ波及、感冒、腎石、其他妊娠、産褥、急性傳染病、テレピンテ油、芫菁ノ誤用

診候 急性ニ在テハ輸尿管ニ向テ放線狀ニ感ジ且ツ壓迫ニ依テ増劇スル腎臟部疼痛ノ特發、惡寒、發熱、嘔吐、持續性ノ尿意頻數、尿量ノ減少ニ伴フ尿中血球膿球及蛋白ノ發現、尿酸性等ナリ

慢性ニ在テハ尿量増加、數多膿球ノ含有、尿ノ酸性、尿道口ノ搔痒、尿意頻數等ニシテ又腎水腫ヲ兼ヌルトキ腎部ニ無疼痛性ノ腫瘍ヲ觸知ス可シ

豫後 原因ニヨリテ異ナレリト雖トモ概スルニ不良

療法 其原病ニ注意シ初期ニハ冷卷法後ニハ温卷法或ハ温浴ヲ施シ疼痛ニハ「モルヒ子」ヲ内服或ハ坐藥トシテ用ユ刺戟性ノ飲食ヲ禁ジ緩和流動性ノ食物即チ乳汁、扁桃乳等ヲ多量ニ與ヘ且ツ便通ヲ容易ナラシメ其他急性ノ者ハ褥中ニ安臥セシメテ發熱ニ「キニーネ」ヲ與ヘ(又之ニ鹽酸モルヒ子ヲ伍用スルコトアリ)慢性炎ニハ乳汁療法、微温浴ヲ行フ等本病一般ノ治則ナリトス

- ザロール 〇・三—〇・五 右每二時一食匙
- 撒曹 六・〇 忽布腺 一・〇
- アルブーチン 三・〇—四・〇 白糖 五・〇
- 單會 一五・〇 右十包ニ分チ一日三回每一包
- 餾水 一五〇・〇 ウロタルシ葉 各二〇・〇
- ヘルニユアル 右茶劑ニ作り朝夕每一椀

腎盂炎

ウロトロピン 〇・五
 右爲一包與六包一日三回二分
 乳糖 五〇〇・〇
 生明礬 三〇・〇
 右一日二用ユ(明礬稀乳料)
 石炭水 一〇〇・〇
 右一日五回一食匙ヲ一杯ノ温乳
 汁ニ加ヘ用ユ
 タンニン酸(或ハタンニン酸キニ
 子) 一〇・〇

白糖 二・五
 右研和散六包ニ分チ一日三包
 タンニン酸
 忽布腺 各〇・五
 白糖 二〇・〇
 右十包ニ分チ一日三回每一包
 コツバイバルサム 一五・〇
 右三十個ノ膠囊ニ分包シ一日三
 回每一個

佝僂病

Rachitis. ラヒチス
(英吉利病 Englische Krankheit)

原因 兒童ノ病ニシテ大抵生後石灰鹽類滋養分供給ノ不足ニ來ル又先天
 性ノ者アリ
 診候 脊柱ノ轉位彎屈、額門ノ開大、額形四角、胸骨隆起、全身薄弱、
 歩行起立ノ困難、下肢關節ノ腫大、壓痛、管狀骨ノ彎曲、下痢、嘔吐、
 頭部ノ發汗過多、帶白赤色ノ尿渣、肌色蒼白、頑固性咳嗽等ニシテ又

脾門痙攣、腹部膨滿、淋巴腺腫ヲ兼ヌルモノ少ナカラズ
 豫後 適當ノ療法ヲ行フコトヲ得バ良
 療法 食物及ビ住居ヲ改良シ清潔法ヲ旨トシ新鮮ノ空氣中ニ適宜ノ運動
 ヲ營マシメ常ニ下痢及ビ便秘ヲ制スルコトヲカムヘシ

燐 〇〇・一
 肝油 一〇〇・〇
 右毎日一回一茶匙
 燐 〇〇・一
 リバニン 一〇〇・〇
 右毎日一回一茶匙
 肝油 二〇〇・〇
 右一日三回每一茶匙
 乳酸鐵 〇・五
 乳糖 一〇・〇
 右十包ニ分チ一日三回每一包
 沃鐵會 各一五・〇
 單會

燐 〇〇・一
 右一日三回十滴乃至十五滴宛
 甘扁桃油 七〇・〇
 白糖 三〇・〇
 エーテル 三十滴
 右調和每日一茶匙
 燐 〇〇・一
 リバニン 三〇・〇
 アラビヤゴム末 各一五・〇
 白糖 各一五・〇
 餾水 四〇・〇
 右調和每日一茶匙

橈骨神經麻痺 Radialis Lähmung.

ラチアリリス、
レリムク

原因、感冒、外傷（睡眠中壓迫、上膊ノ扼縛、不良ノ挺杖）鉛中毒等
診候 手ハ弛緩下垂シテ之ヲ背屈セシムルコトヲ得ズ、拇指ハ伸展及外
 轉セズ、其他ノ四指モ亦伸展スルコト能ハズ
療法 電氣療法、按摩法、手温浴、鉛毒麻痺ニハ原因ヲ除去シ、沃度加
 里ヲ與フ

蝦蟇腫 Ranula. ラメラ

原因 舌下腺輸送管閉塞ニ起ルモノ有リ或ハ先天性ナル者有リ
診候 舌繫帶側ニ生ズル帶青白色水泡樣薄壁ノ囊腫ニシテ終ニハ鵝卵大
 ニ達スルモノナリ疼痛ナシ言語ヲ妨グ
豫後 良
療法 全ク囊腫ヲ切除シ或ハ之ヲ切開シ囊腫壁ノ一局部ヲ切除シテ其腔
 内ニ「ヨードフォルムガーゼ」ヲ充填シ又自然ニ破開セル者ニハ防腐
 性含嗽劑ヲ用ユ○ウエルセル氏ハブラワッツ氏注射器ヲ用ヒテ囊腫

ヲ穿刺シ其内容液ヲ吸吮シタル後其套管ニ依テ以テ十倍ノ「コカイン」
 溶液ヲ送り次デ千倍ノ「クロール」亞鉛十乃至十二滴ヲ注入スルコト
 ヲ賞用ス

網膜炎 Retinitis. レチニチス

原因 感冒、光線ノ刺戟、眼ノ過勞、微毒、月經障害便秘、蛋白尿、糖
 尿病、悪性貧血等
診候 他覺的ニハ眼底ニ網膜ノ濁濁、視神經ノ境界不明、斑點、出血時
 トシテ色素沈着硝子體濁濁等アリ自覺的ニハ視力ノ減退、羞明雲霧ノ
 感、眼精疲勞、眼華閃發、浮動症、變視症等ヲ見ルアリ而シテ網膜
 炎中著明ナルモノハ（一）微毒性ニ在テハ硝子體濁濁乳頭充血境界不
 明網膜ノ一般濁濁時トシテ灰白色類黄色點出血ヲ來シ稀ニハ數週數月
 ニシテ反覆再發（再發性中心網膜炎）スルコトアリ（二）蛋白尿性網
 膜炎ニ在テハ網膜及乳頭ニ於ケル炎症々狀ノ外尙ホ出血、白色斑點（殊
 ニ黄斑ニ於ケル放線狀ノ白斑）ヲ來シ（三）白血病性網膜炎ニ在テハ
 眼底黄色ヲ帶ヒテ帶黄紅色、橙黄色ヲ呈シ血管ノ變化、圓形白斑等ヲ

見ル(四)糖尿病性網膜炎ニ左テハ特異ノ眼底變狀ヲ有セザレモ多クノ出血ヲ來シ白斑ハ蛋白尿ニ於ケル如キ正規ヲ守ラズ(五)出血性網膜炎ニ在テハ炎症ヲ狀ト共ニ出血ヲ來シ屢々線内障ヲ誘起シ其吸收後ニ網膜ニ帶青色膜ヲ生スルヲアリ(増殖性網膜炎)

豫後 原因ニ關係ス多クハ治後網膜ノ萎縮ヲ來ス又々惡液質ニ因ルモノハ不良ナリ

療法 原因ニ從フベシ其他安靜、發汗、發泡膏項部貼用瀉血、光線ノ遮斷(有色眼鏡)並ニ對症療法誘導法ヲ行フベシ

關節僂麻質斯

Rheumatismus articularum.
アロイマチスムス、
アルヂクロールム

原因 一種特異ナル傳染毒ノ侵入ニ胚胎シテ感冒ニ誘起セル關節部ノ疾病ナリ

診候 十五以上四十年間ノ人ニ認ムル關節ノ腫起疼痛、熱發煩渴、皮膚ノ濕潤、尿ノ強酸性赤色沈渣等ナリ急性ノ定型トシテ心臟内膜外膜ノ炎症或ハ胸膜炎ヲ併發スルコト少カラズ
慢性ニ於テハ數多ノ關節ヲ侵スコト稀ニシテ熱候ナク時々反覆シ終ニ

其部ノ運用ヲ妨グルニ至ル

豫後 急性症ハ概テ良但シ心臟ノ疾患ヲ兼スルトキハ疑團ニ屬ス慢性症ハ生命的豫後良ナルモ屢々頑トシテ治シ難シ

療法 一般ニ患肢ヲ安靜ニシ劇痛ニハ氷罨法ヲ行ヒ中度ノ者ニハ「イヒチオール」ヲ塗擦シ罨法ヲ施スベシ解熱劑トシテ酸性飲料ヲ與ヘ稽留性疼痛ニハ關節部ノ按摩、ヨード丁幾塗布若膏軟膏ノ塗布ヲ賞用シ慢性症ニハ微温浴或ハ蒸氣浴、濕布被包、灌漑浴、冷水療法、礦泉浴療法ヲ行フテ効有リサリチール酸劑ハ本病ノ特效藥ナリ

アスピリン

一〇〇 右爲一包六包ヲ與フ一日三回一包宛

撒曹

六〇〇

右散六包ニ分チ「オプラー」トニ

包ム一乃至二時毎一包(後治療

トシテハ此半量ヲ用ユ)

アンチピリン

三〇〇

右六包トナシ一日三回一包宛

フエナセチン

〇・五

ザリメントール

一〇〇〇

右爲一包與六包一日三回一包宛

コントロイマン

一〇〇〇

右塗布料

ラクトフェニン

〇・五

右爲一包與六包一日三回一包

ザロール

白糖 各一〇〇
 右十包ニ分チ一日三乃至四包
 ベトール 〇・三乃至〇・四
 右散十包ニ分チ一日四回
 サリピリン 〇・五
 右爲一包與六包一日三回一包
 ザロフエン 〇・五
 右爲一包與六包一日三回一包
 劇痛ニハ「モルヒネ」ノ皮下注射チ行ヒ
 不眠ニハ左方チ處ス可シ
 ブルフォナール 一〇〇
 右一包トナシ毎夕就寢前一時温
 湯ニテ用ユ
 トリカナール 一〇〇
 右同前
 カリコサール 一〇〇
 右爲一包與六包
 局處ニハ左方

イヒチオール 五〇〇
 緩和軟膏 五〇〇
 右調和疼痛部ニ塗擦ス
 イヒチオール 各一〇〇
 エーテル 二〇〇
 コロザウム 各一〇〇
 右調和塗布用
 十倍イヒチオール軟膏 等分
 苳若軟膏 右疼痛部ニ塗擦ス
 チゲノール 五〇〇
 ラノリン 四五〇
 慢性症ニハ左方 右外用
 沃剝 四〇〇
 苦丁 三〇〇
 溜水 二〇〇
 右一日六回二日分服

ヨードカリウム 二〇〇
 ワセリン 一五〇

筋肉痲痺質斯

Rheumatismus musculorum.
 ロイマチスムス、
 ムスクローラム

右調和毎日二回塗擦料

原因 關節ヲ侵ス者ト同一ナリ通例僧帽筋、三角筋、胸鎖乳頭筋、胸筋、
肋間筋、腰筋等ニ來ル
診候 患筋ノ腫起疼痛ニ始マリ肥大或ハ萎縮ニ終ルモノ多シ其他ノ症候
 ハ關節痲痺質斯ト同一ナリ豫後ハ良
療法 患部ニ温罨法或ハ蒸布ヲ用井又タイヒチオール軟膏塗擦或ハ按摩
 法等ノ局所療法ヲ行ヒ温茶劑ノ内服、蒸氣浴等ヲ行フテ効アリ疼痛甚
 ダシキモノニハ該部ニ「モルヒネ」ノ皮下注射チ行ヒ或ハ左ノ塗布ヲ
 用ユベシ
 ザリメントール 一〇〇〇
 毎日數回一五―三十滴宛
 ザモール 一〇〇〇
 右塗擦料
 ザレノール 一〇〇〇
 右塗布料
 樟腦 五〇〇
 オポアルドック 各二〇〇

筋肉痲痺質斯

右塗布料	五・〇	ワロ、フホルム	一〇・〇
イヒチオール	四五・〇	オレイフ油	五〇・〇
ワセリン	五・〇	右調和塗擦料一日數回	
右外用	四五・〇	コントロイマン	
チゲノール	〇・一	右塗擦料	
ラノリン		其他内服藥ハ關節痲質斯ノモノニ同	
右塗擦料			
フェラトリン			

急性鼻炎

Rhinitis acuta.

リニチヌ、アクータ

原因 感冒、急性熱性傳染病（インフルエンザ麻疹等）副鼻腔ノ急性炎症、不良ナル空氣ノ吸入、鼻腔ノ外傷、咽頭加答兒ノ波及、藥劑ニ依テ來ル重ナルモノハ沃度、枯草ノ花粉（本邦ニハ殆ンドナシ）精神感動等ナリ

診候 前驅症トシテ噴嚏、全身倦怠、次デ鼻道ノ交代性又ハ兩側ニ來ル閉塞、前額部壓重ノ感、稀薄ナル分泌物過多、嗅覺力減退又ハ亡失、鼻咽腔ノ乾燥、痒痒、異物アル感、輕度ノ熱發、音聲鼻調ヲ帶ブ、嘔

乳兒ニ於テハ時々危險症狀ヲ發スルコトアリ即チ鼻呼吸障碍ヨリ來ル嘔乳ノ不能及氣管枝加答兒ノ併發等ナリ、二三日後ニハ分泌物ハ濃厚トナリテ減少シ漸次鼻道ニ疏通シ嗅覺又快復シ、倦怠ノ感去ル

鼻鏡検査ニ依レバ其旺盛期ニ於テハ鼻腔發赤腫脹殊ニ下鼻甲介ニ於テ著シク分泌ノ亢進セルヲ見ル

豫後 良

療法 先ツ原因ヲ去ルコトニ勤ム可シ

全身療法 トシテハ發汗療法ヲ行フ可シ藥劑ハ「ザリピリン」「アンチピリン」「アンチヘブリン」撒曹「フェナセチン」等可ナリ之ニ併セテ清涼劑ヲ與フ可シ

局處療法トシテハ鼻腔撒布藥、粉霧藥、軟膏塗布等ハ慢性鼻炎條下ヲ参照ス可シ、外ニ吸入藥トシテハ次ニ掲クルハーゲル、ブランド氏ノ吸入藥アリ

石炭酸	五・〇	餾水	一〇・〇
苛性アムモニア液	五・〇	右五乃至十滴ヲ濾紙ニ滴下シ之ヲ吸入	
再餾酒精	一五・〇	セシム	

急性鼻炎

小兒ニハ二%ノ硼酸水又ハ

一%重曹水

一%食鹽水

メンタ油

右吸入料

鼻腔塗布料トシテハ二%硼酸「ラノリ

ン」可ナリ

二〇〇・〇
二〇〇・〇
一滴

慢性鼻炎

Rhinitis chronica.

リニチス、クロニカ

注意

普通慢性鼻炎ト稱スルモノハ「カタール」性ノ炎症ヲ呈スルモノニシテ之ガ若シ數年乃至十年ヲ持久經過セバ漸次組織ノ肥厚ヲ發スルモノナリ故ニ其初期ノモノヲ單純性慢性鼻炎ト云ヒ陳舊ナルモノヲ慢性肥厚性鼻炎ト云フ而シテ患者ノ醫ヲ訪フハ常ニ後者ノ場合ヲ多シトス

原因

年齢ハ二十乃至五十年ニ多シ、比較的營養佳良ノモノ喫烟、飲酒家ニ多シ、不潔ノ空氣中ニ生活スル場合、屢バ氣候ノ變化ニ遇フ場合循環器障礙、副鼻腔膿腫症、急性鼻炎ヨリ轉ズルモノ、殊ニ腺病質ノ小兒ニ於テハ咽頭扁桃腺ノ増殖（即腺質性組織ノ増殖 adenoid Vegeta tion）ニ注意ス可シ

診候

初期ニハ鼻涕過多（左右殆ンド差ナク）、鼻道ノ閉塞ハ多ク交代性

ニシテ側臥位ヲ取レバ下方ニ位スル鼻道ハ常ニ閉塞シ上位ニアルモノハ開通ス、又入浴、運動、精神感動等ニヨリテ速カニ開通スル「ア」常ニ不快ノ感去ラズ鼻鏡検査ニ依レバ下鼻甲介ニ於テ殊ニ著シキ腫紅ヲ認メ觸ルレバ其弾力性ヲ帶ビ知覺過敏ナリ試ミニ「コカイン」「アドレナリン」ノ合劑ヲ其粘膜ニ塗布センカ忽チ粘膜ハ蒼白トナリ腫脹ハ退縮シ鼻道ノ開通ヲ認ム可シ、下鼻道ニ於テハ常ニ鼻涕ノ潑留ヲ見ル、咽頭ヲ檢スレバ多クハ「咽頭カタール」ヲ合併シ鼻涕ノ後鼻孔ヨリ咽頭後壁ニ懸垂スルヲ見ル

陳舊ノモノハ前症狀ニ加フルニ頭重、頭痛、眩暈、記憶力減退、細事ニ倦ミ易ク、全身違和、精神鬱憂等ノ諸症ヲ發ス殊ニ學生、學者等細事ニ精神ヲ勞スルモノニ於テ著シ又嗅覺ハ一部分ノ脫出又ハ全ク脫出スル「ア」アリ時トシテハ反射性疾患トシテ喘息癩癩等ヲ發スルニ至ルコトアリ、鼻鏡検査ニ依レバ普通下鼻甲介（中鼻甲介ニハ少ナシ）粘膜ハ蒼白色ヲ帶ビ其表面ハ滑澤ニ或ハ凹凸ニ下鼻甲介全部ニ渡リテ肥厚スルアリ又限局性ニ其前端ニ於テ或ハ後端ニ於テ或ハ中央部ニ於テ肥厚ヲ見ル「ア」アリ時トシテ又恰モ鼻茸様ニ現ハル、「ア」アリ、試ミニ血管

慢性鼻炎

收縮藥ヲ塗布スルモ其粘膜ニ於ケル腫脹ノ減退ハ甚僅少ナルヲ認ム、
觸ルレバ前者ノ如ク柔軟ナラズ

豫後 良

療法 原因ヲ除去スルヲニ勤ム可シ、必用ナルハ局處療法ニシテ先ツ其
初期ニ於ケル緩和ナル方法ハ次ノ如シ

鼻腔散布藥	コカイン	二・〇
メントール	餾水	一〇〇・〇
コカイン	或ハ	
硼酸末	アランチペリン	一・〇
或ハ	餾水	一〇〇・〇
メントール	軟膏ニ%	一〇〇・〇
硼砂	ノ時期ニハ之ニ「ワセリン」ヲ配布ス可 シ）多ク咽頭炎ヲ合併スルヲ以テ之ニ	
乳糖	含嗽劑ヲ與フ可シ	
鼻腔粉霧藥		
アランチペリン		三・〇
陳舊ナルモノニ向テ腐蝕トシテ硝酸銀、クロロム酸、三クロール醋酸 等ヲ用ユルモ効果ヲ納ムルヲ少ナシ、最モ確實ナルハ手術的療法トナ		

ス、電氣燒灼法、寒蹄係截斷法等アルモ近時ハ専ラ賞用サル、モノハ
剪刀及鉗子ナリ、剪刀ニハハイマン氏、ベツクマン氏、ウヰンクレル
氏、オーケ氏ノ諸型アリ鉗子ニハクリーゲ氏有双甲介骨切除鉗子、西
山氏有双甲介骨鉗子アリ西山型ノモノ甚便ナリ

手術式、先ヅフレンケル氏鼻鏡ニヨリ局處麻醉藥（二〇%コカイン水
十瓦ニ付テ千倍鹽化アドレナリン水一瓦）ヲ數回塗布シ、次テ左手ニ
鼻鏡ヲ持テ反射鏡ニヨリ十分鼻鏡ヲ照射シ肥厚セル切除部位ヲ明カニ
シ上記ノ剪刀ニヨリ之ヲ截斷シ尙骨片、組織等ノ遺殘アル片ハ有双鉗
子ニヨリ之ヲ離斷シ終レバ直ニ殺菌「ガーゼ」ノ「タンボン」ヲ施シ
（全ク切除後「タンボン」ヲ用ヰザル法アリ）約四五日ノ後出血スルヲ
ナクバ之ヲ離斷シ其創面ニ「デルマトール」ヲ吹入ルカ又ハ「メント
ール」ヲノリン「ヲ塗布シ只綿栓ヲ輕ク施ス可シ、カクセバ約十日ニシ
テ創面ハ全ク治ス可シ、肥厚部ノ切除ハ多キニ過グ可カラズ又少ナキ
ニ過グ可カラズ

風疹 Rubella. ルンボラ

原因 流行性ニ發ス麻疹ニ類スルモ其原因異ナリトス

風疹

診候 潜伏期ハ二三週次ニ前驅期トナリ惡寒或ハ寒戰ヲ發シ體温三十八度乃至三十八度半ニ昇リ脈搏九十乃至百ヲ算ス、輕度ノ口峽炎、結膜炎、鼻加答兒ヲ發ス半日乃至二日ノ後發疹期ニ移リ最初顔面頸部ニ紅疹ヲ發ス漸次全身ニ及ブ概テ三四日ニシテ褪色シテ治ス

豫後 良

療法 發熱アルトキハ就褥ヲ命ジ鹽酸「リモナーデ」ヲ與フ、皮膚ノ灼熱、癢痒著シキハ酒精若クハ油性塗擦劑ヲ與フ

乳兒脚氣

Säuglings-Kakke.

クイタリングスカツケ

原因 脚氣ニ罹レル婦人ノ乳汁ニ依ツテ哺育セラル、小兒ニノミ發スルモノニシテ夏季ニ最モ多シ

診候 病始ハ急ナルアリ徐々ナルコトアレドモ必ず吐乳ヲ以テ始マル、皮膚蒼白色、神思不和、啼泣、聲音嘶嘎、呻吟、浮腫、心悸亢進、脈搏頻數軟弱、呼吸促迫、口唇及指爪ノチアノーゼ、肺動脈第二音亢進ヲ來シ往々上眼瞼下垂ス

豫後 早く離乳セバ多クハ良

療法 脚氣婦人ノ授乳ヲ廢止シ又ハ母乳ト稀釋牛乳トノ混用法ヲ用ヒ藥劑トシテハペブシン、甘汞、ヂギタリスホフマン氏液等ヲ與フ

疥癬

Scabies. スカビーエス

原因 疥癬蟲ノ傳染ナリ

診候 指間、指側、肘腕膝等關節部、臀部ニ好シテ發スル皮疹ニシテ終ニ全身ニ蔓延ス（頭部顔面足蹠ニハ極メテ稀ナリ）癢痒甚シ水疱性、膿疱性ノ者ヲ混ズ

療法 第一日ニ於テ發疹部ニ複方「ナフトール」軟膏ヲ塗擦セシメ第二日ニ於テ尙ホ癢痒アル部ニ軟膏塗擦ヲ行ヒ第三日乃至第五日ニ入浴ヲ命ズ又同時ニ生スル濕疹ヲ療スルコトヲ要ス（濕疹ノ條ヲ見ヨ）其他左ノ諸劑モ有効ナリ

- | | | | |
|-----------------|-------|---------|----------|
| ベタナフトール | 一五〇〇 | ベタナフトール | 五〇〇—一〇〇〇 |
| 綠石鹼 | 五〇〇〇 | エーテル | 適宜ニ溶カシ |
| 白堊 | 一〇〇〇〇 | 薄荷腦 | 〇・五 |
| 豚脂 | 一〇〇〇〇 | ワセリン | |
| 右塗擦料（複方ナフトール軟膏） | | 右爲軟膏塗擦 | |

乳兒脚氣 疥癬